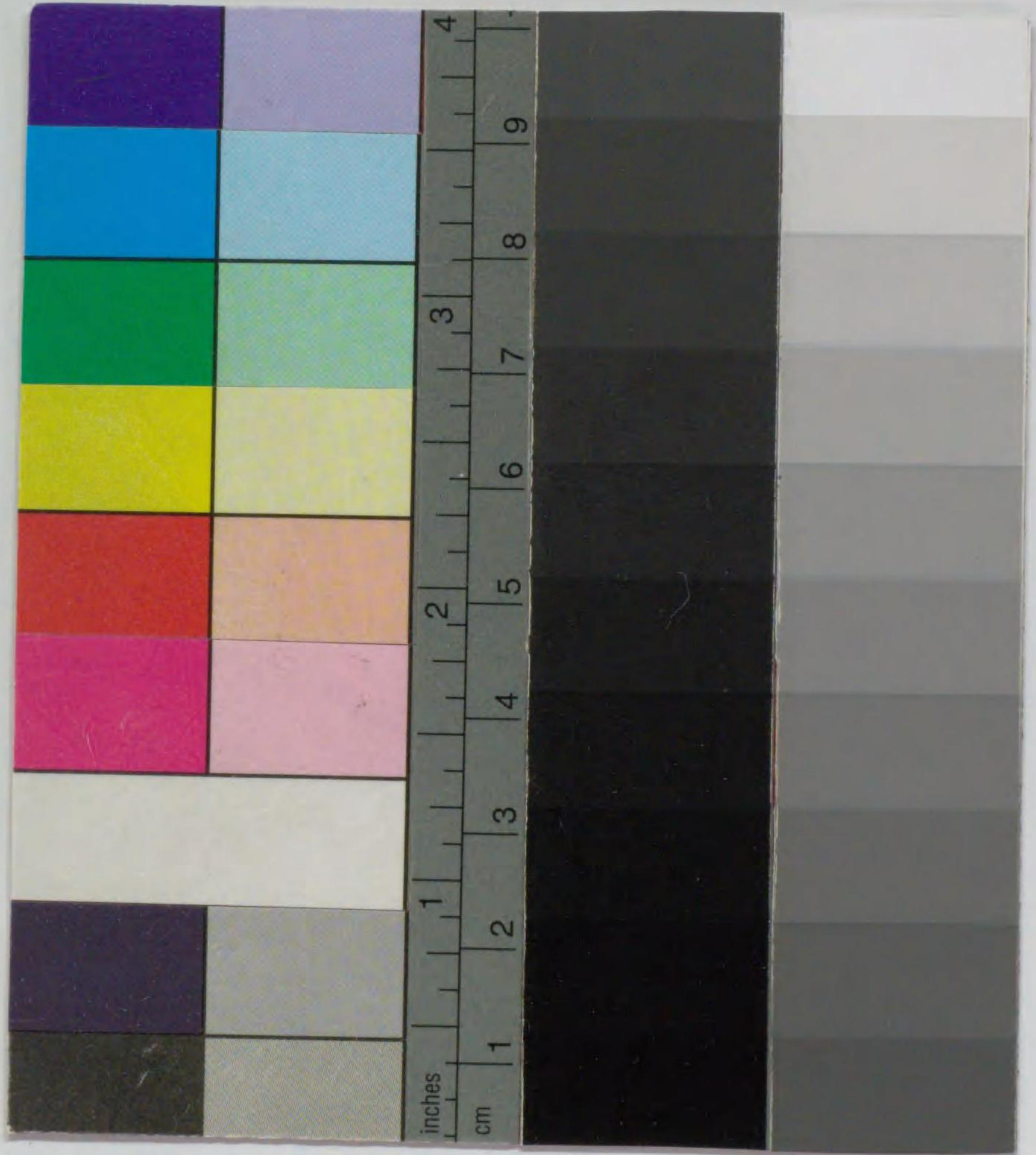


590  
67

吾界巨人叢書第二編  
ロイド・キョージ 田田忠一著

590-67  
1200501525402





書叢人巨界世

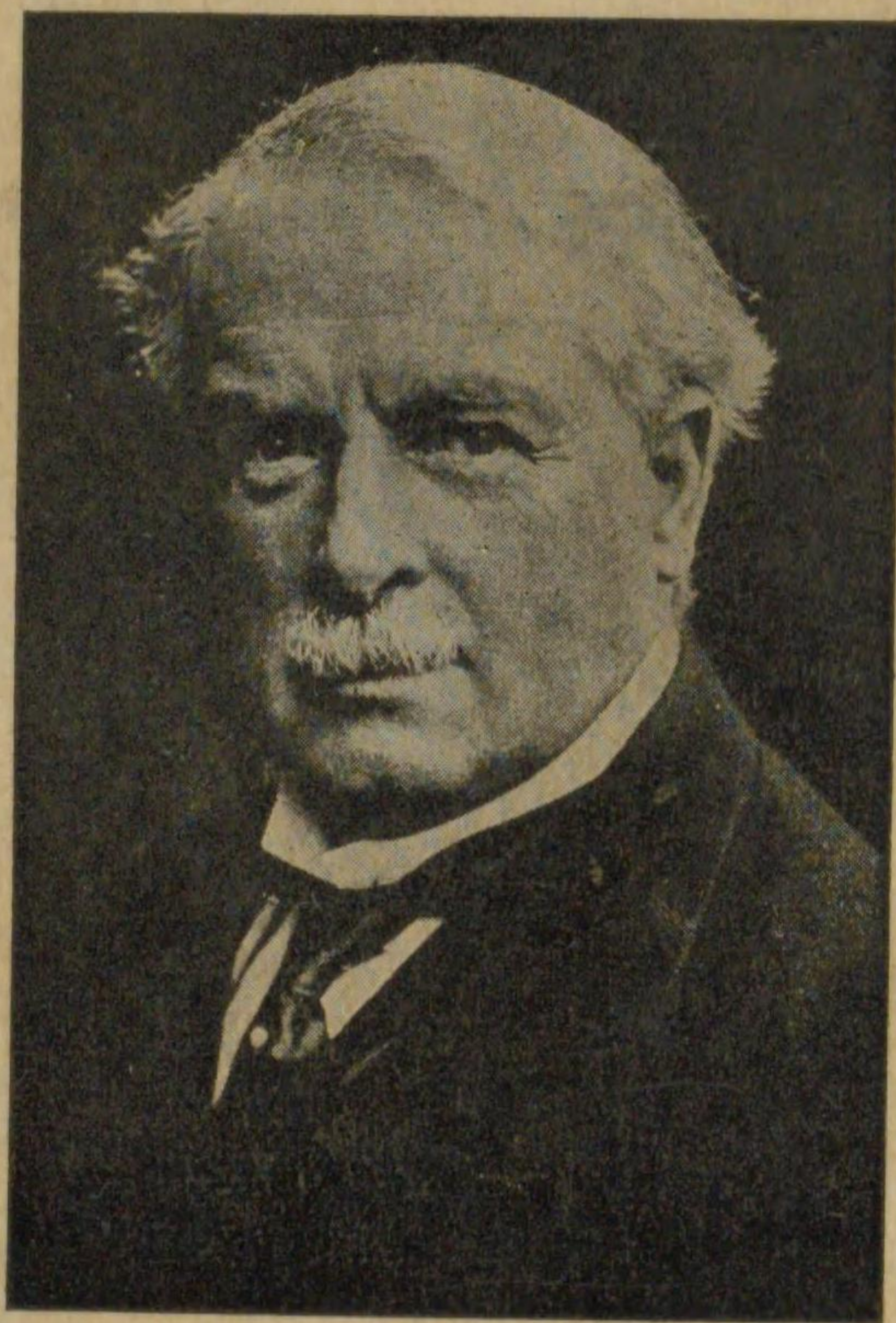
編二第

---

# ジーヨチ・ドイロ

著一忠田岡

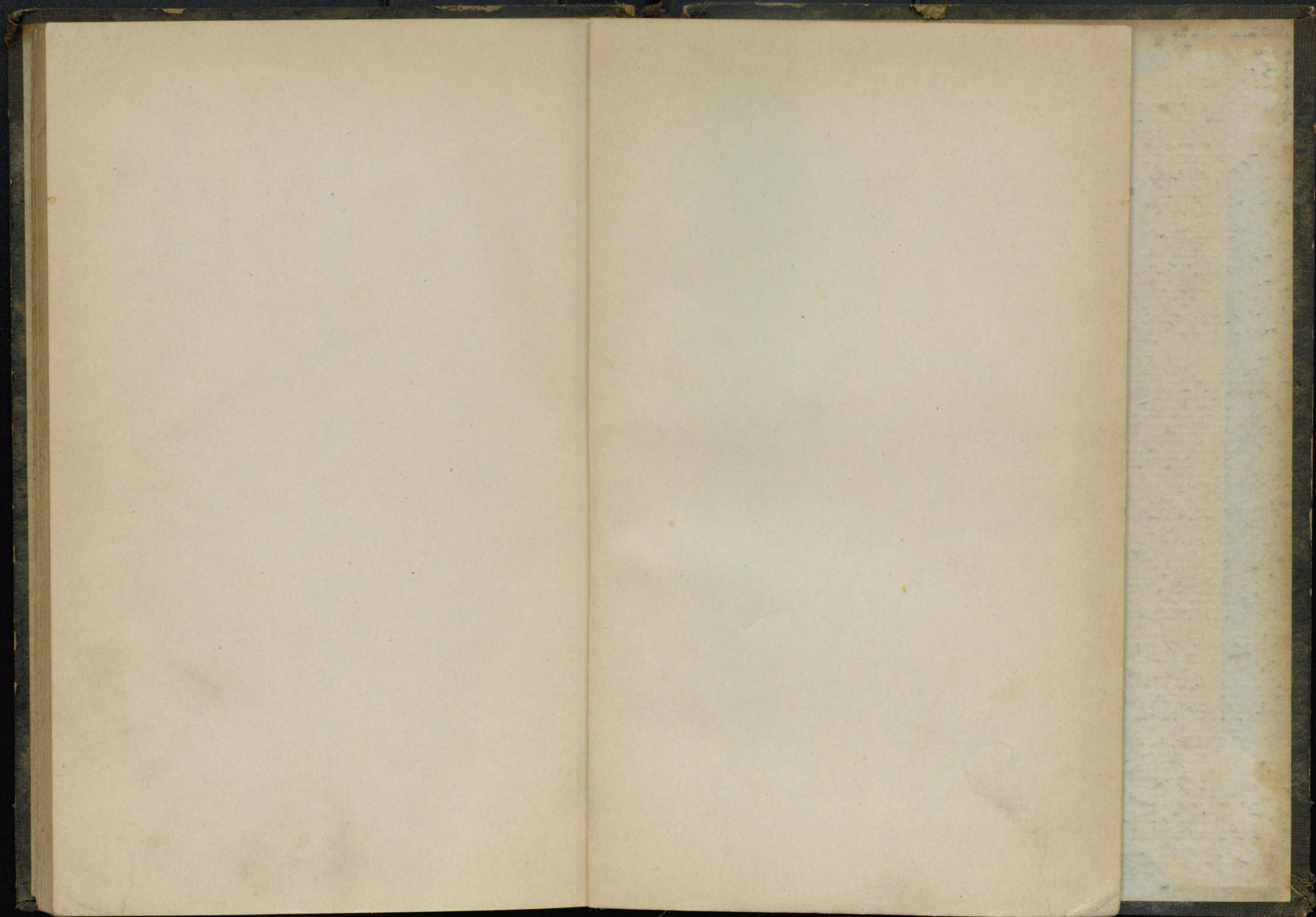
313



---

行發堂星金・京東









ロイド・ジョージ

岡田忠一

著





## 序 言

河上肇博士は其の著「貧乏物語」の附録に、ロイド・デョーデ禮讃の一文を附してゐる。其の當時に於ける博士のロイド觀は次の言葉で盡きてゐる。「古人も至誠にして動かざる者は未だこれあらざるなりと言つてゐるが、げに至誠の力ほど恐ろしきものは世にあらじ。博原は地に配し、高明は天に配し、悠久疆りなし。見よ貧しき靴屋の主人〔ロイド・デョーデの叔父を指す〕の至誠は凝つて大英國の大宰相を造り出し、而してこの大宰相の大精神はやがて四海萬國を支配せんとすることを」(博士自身が改造に連載中の「第二貧乏物語」中に引用したる一節)。

處が其の後河上博士の心境にも、境遇にも一轉期が來た——其れは博士の胸底に段々展びて來た芽が表面に現れたのにすぎぬが。従つて博士のロイド・デョーデ觀も亦改訂さるゝの厄に遭つた。

同博士は「第二貧乏物語」(改造連載中)の中に於いて、「最も優れたるブルジョアジの番頭(ロイド・デョーデを指す)は、それが最も優れたものであつたがゆゑに、當時の私の眼には、理



想的な政治家であるかの如く映じたのである。似て非なるものの恐るべきは、總じて此の如くである。」と云つてをられる。河上博士のイデオロギーに照らして見て、かゝるロイド觀が生れるのは當然すぎる位當然である。

けれども人々見る立場があり、見る方面がある。従つて其の人物觀も千種萬別である。只各自の人物觀を作り上げる前に、其の人物の足跡、性行、事業、生活を、公平な顯微鏡の下に置いて、照らし出して見る必要がある。あるが儘に其の人物を——其れはあるが儘の自然を科學者が見る様に——見る必要がある。金星堂主福岡益雄氏が世界巨人叢書を出版さるゝ意嚮も茲にあると私は測察する。其處で私はロイドの人物評論——政治的評論——を草すると云ふのではない。彼の生ひ立ちと政治的舞臺で踊つた芝居の數々を誌すを目的とする。

何んと云つてもロイド・デョーヂは英國の持つ政治家中、第一流の地位に置かる可き人物である。英國が世界に勇飛する以上、其の英國一流の政治家であるロイドが世界の邊陲にまで名を謳はれるのは無理もない話である。只歐洲大戰前、大戰中、大戰後に於ける彼の活動が、政治家的手腕が、餘りに他の政治家を壓し盡してゐたかの觀があつたので、彼の聯立内閣が倒潰して後の彼が、何んとなく影が薄い様に目に映るけれども、其れは比較の問題であり環境の問題であつて、

ロイドが社會から叩き倒されたと云ふ意味ではない。自由黨は目下色々の意味で——其れを書くに長くなるから此處には書かぬが——振はない。従つて其の黨を率ゆるデョーヂも華々しく政治上の第一戦線に立つてゐない。榮枯盛衰は世の恒である。是れを以てロイドを葬り去るは面白くない。

英國の持つ政治家は多い、亦戦時に於いて内外に困難な問題が起代する時、老大帝國の威信を保つて行くのはなか／＼の事業である。併し幾多の英政治家中にあつて奇略縱横、精力絶倫清、廉潔白の士を求むるならば、我ロイド・デョーヂに優る者はあるまい。殊に彼が歐洲大戰中大臣として、軍需大臣として、陸軍大臣として、はた英帝國の大宰相として、聯合國を引率して戦つた其の活躍振りは古今獨歩である。「英國の獨裁官なり」と云つたものさへある。

私はロイド・デョーヂを戯曲化さうとしたのでもない、講談化さうとしたのでもない。忠實に彼の生涯を跡づけるのを心掛けた。従つて講談的讀物として見て貰つては聊か迷惑する。もう少し高級な立場に立つて、英國社會を如何に動かさんとするか、亦動かしたかと云ふ彼、デョーヂの政治的事業を見てもらひたいのである。場所に由ると少しく繁雜だと想ふまでに、叙述の筆を呵したのは、彼の政治的事業を究明せんとしたからである。日本政治家の腐敗今日の如く甚



しい時はあるまい。日本の危機は政治家の腐敗癡類にある。此の時に當つて英國大政治家の仕事のやり口を見るのは、この上ない教訓であらう。政治は生活である。生活の改善は亦政治の改善である。此處に於てか私は世界巨人叢書を教育家諸士に讀んで貰ひ度いと思ふ。其處には生きた人間がある。生きた事業がある、生きた活動がある。

此の編を草するに當つて、私は主として外國の新聞、雜誌、著述を基にした。但し日本文で綴られたものとしては内ヶ崎作三郎氏、水上梅彦氏、原田榮一郎氏のロイド・ヂョーヂに關する著述を参考にした。一言著者に感謝の意を捧げる。

時恰も英國總選舉戰白熱の時である。其の結果や如何に……。其の結果如何に拘らずロイド・ヂョーヂの人物は一應見ておく必要があらう。

一九二九年五月十五日

岡田忠一

## 目次

### 一、ロイド・ヂョーヂの生ひ立ち

- 1、父 親……………一
- 2、叔父の感化……………四
- 3、辯護士事務見習……………九
- 4、辯護士としてのロイド……………三
- 5、政界に進出するまで……………一五

### 二、政治家としてのロイド・ヂョーヂ

- 1、彼の初陣……………二〇
- 2、一八九〇——一八九五年時代……………二三
- 3、南阿戰爭……………二五



|                        |   |
|------------------------|---|
| 4、初めて大臣となる……………        | 三 |
| 5、大藏大臣として……………         | 三 |
| 6、獨逸訪問……………            | 三 |
| 7、驚天動地の豫算案……………        | 三 |
| 8、上院との正面衝突……………        | 四 |
| 9、議會解散……………            | 四 |
| 10、上院との再戦……………         | 五 |
| 11、再度の議會解散。國民保險法案…………… | 五 |
| 12、アイルランド自治問題……………     | 五 |
| 13、婦人參政權問題……………        | 五 |

### 三、歐洲大戦争

|               |   |
|---------------|---|
| 1、大戦争の勃發…………… | 六 |
| 2、戦時財政政策…………… | 六 |

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 3、軍需品缺乏……………                   | 六  |
| 4、軍需大臣として……………                 | 七  |
| 5、キツチナー將軍の死と陸相就任……………          | 八  |
| 6、軍事會議……………                    | 八  |
| 7、アスキス内閣の倒滅……………               | 九  |
| 8、ロイド・デョーヂの組閣……………             | 九  |
| 9、軍事會議の改造。露西亞革命。聯合諸國結合の高唱…………… | 九  |
| 10、英佛軍の統帥。米國の援兵……………           | 一〇 |
| 11、休戰條約……………                   | 一〇 |
| 12、平和會議……………                   | 一〇 |

### 四、大戦終局後のロイド・デョーヂ

|                      |    |
|----------------------|----|
| 1、聯立内閣の繼統……………       | 一三 |
| 2、ロイド・デョーヂ内閣の崩壊…………… | 一六 |



|                  |    |
|------------------|----|
| 3、自由黨の不振……………    | 一九 |
| 4、アスキスとの衝突……………  | 二三 |
| 5、農村改造案……………     | 二五 |
| 6、一九二九年の總選舉…………… | 三〇 |

五、人としてのロイド・チヨーチ

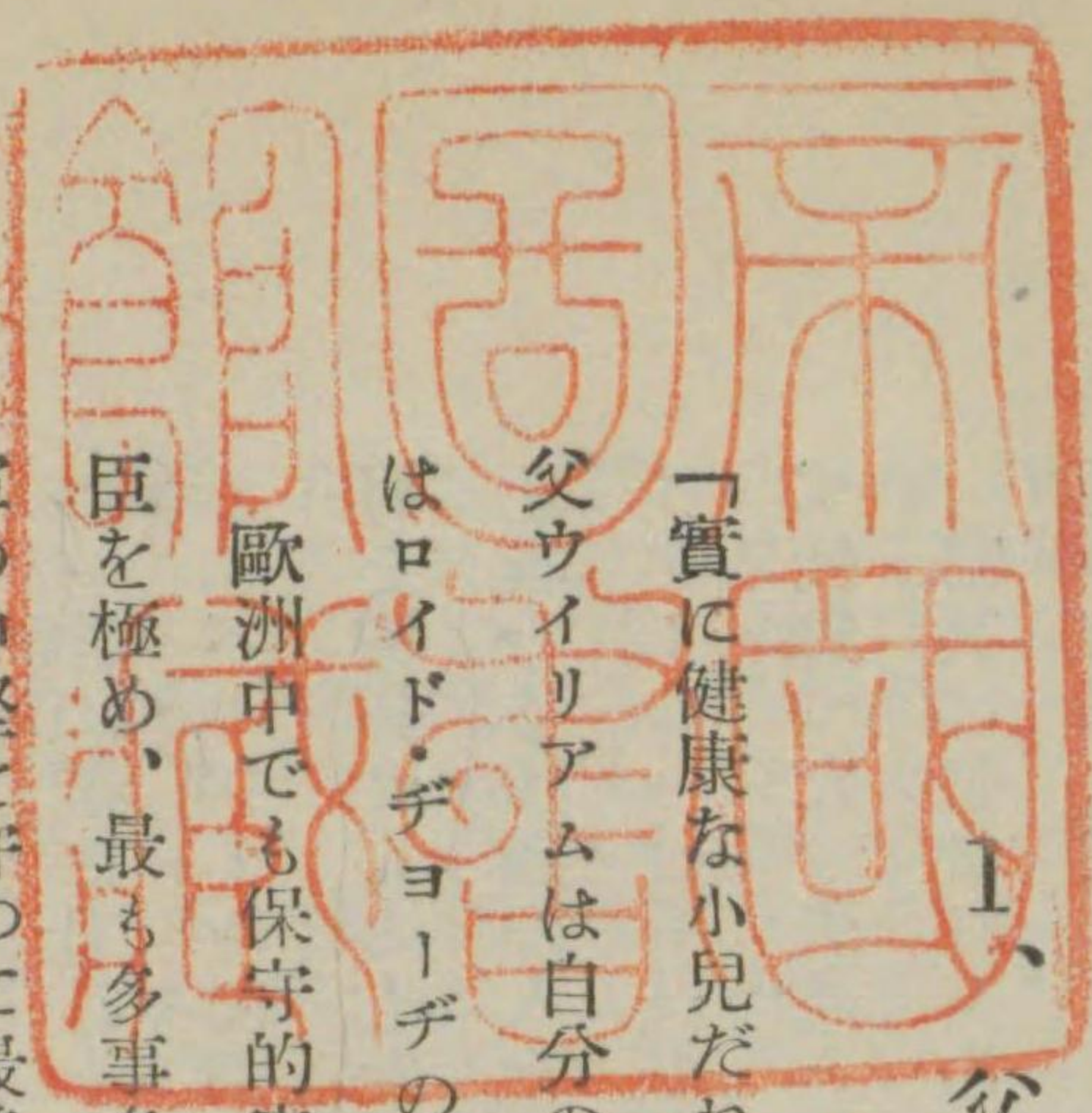
|                   |    |
|-------------------|----|
| 1、容姿……………         | 三五 |
| 2、服装、趣味……………      | 三八 |
| 3、ロイド・チヨーチ夫人…………… | 四二 |
| 4、戦術家として……………     | 四二 |
| 5、外交家として……………     | 四六 |
| 6、雄辯家として……………     | 四八 |

第一章 ロイド・チヨーチの生立

1、父 親

「實に健康な小兒だね、姉よりも強くつて元氣がよささうだ」ロイド・チヨーチが生れた時、彼の父ウィリアムは自分の小兒の顔を見て云つた。「健康で、強くつて、元氣がいい」彼の父の此の詞はロイド・チヨーチの生涯を通ずる標語である。

歐洲中でも保守的空氣の最も濃厚な英國で、貧民ではないが、中流の下層から身を起し、位人臣を極め、最も多事多端な歐洲大戦争に際して總理大臣の椅子を占め、縦横に奇才を振ひ、聯合軍の中堅を守つて最後の勝利を博し、戦後の各國をして地圖を新たならしめた其の平和解決の大會議に臨み、米國のウィルソンと相並んで相も變らず英國を安泰の地位に置いたのは、ロイド・チヨーチである。世界現代の政治家中指を第一に屈せしめる彼ロイド・チヨーチの生涯を観るに當つて、我々は二人の先行的人物を擧げなければならない。其れの一人は、ロイドの肉體の父親





で、他の一人はロイドの精神の父親——彼の叔父——である。

ロイドの肉體の父親ウイリアムを生んだ家は農家だつた。けれどもウイリアムは土に親しみ、耕作の鋤を手に握るのを嫌つた。

「土の中に鼻を突き込んで生活する様な生涯は俺は嫌ひだ」、ウイリアムの農家に對する氣持は此の一言に盡きてゐる。土を嫌つたウイリアムは智識を武器にして社會に立たんとした。ロンドンとリバープールに學んだ彼はハーヴェルフオードウエストで私塾を開き、地方で自分の智識の分野を開拓せんとしたけれども、非世間的な彼、實行と空想との間に彷徨する彼は、社會的に成功を収むる種類の人物ではなかつた。遂に社會は段々ウイリアムを追ひつめてカルナーヴオンシャーイアーの一村落の小學校の教師として、鼻たれ小僧の相手にまで身を落さなければならなくなつて仕舞つた。失意と貧困の鎧束は彼の身を益々強くしめ付けて來た。

暗雲に包まれてゐたウイリアムにも人生の春が皆無だつたとは云へない。エリザベス・ロイドとの結婚は彼に生氣を付けた。而して自分の生涯の改造の爲めに、結婚生活を幸福ならしめようと云ふ希望に燃えて、彼はランカツシャーのニューチャーチに轉住し、新しい生活を初めた。併し幸福の神は其處でもウイリアムを見離して仕舞つた。ランカツシャーの工場からき出され

る煤煙は隅なく空を蔽ひ、雲低く垂るゝ日、窓から戸口から家々に侵入して來る、而して總ゆる者の身體を蝕んで行く。ウイリアムの肺は此の煤煙を撃退する丈けの強さを持つてゐなかつた。由來ランカツシャーは工場を主として立つ都市であり、従つて人心が實利的であるのは言を俟たずして明らかである。一つの美しき空想の世界に安住の地を求めんとするウイリアムと實利を主とするランカツシャーの人々とうまく調和が保たれる理由がない。亦此處でも不氣味な失意と貧困の怖ろしい顔が、ウイリアムの枕頭に見舞つて來る様になつた。加ふるに今度は病患と云ふ好ましからぬ伴侶まで連れてやつて來た。ウイリアムの乗つてゐる人生の舟は行く處まで行き着いたのである。進む可き途は全く無くなつた。舟は終に戻すより致し方がない。曾ては輕視し、嫌惡し、嘲罵してゐた土に還つて、自然が與へて呉れる實りを得て活計を營むの止むなきに至つたのである。

偶ま斯うした父親の生活の中にロイド——後年の總理大臣、現代の世界的政治家——は母親の肉體から此の世に生れ出て來たのであるが、生後數ヶ月のロイドは、母親の懷に抱かれながらランカツシャーの煤煙と喧騒から脱した。

ウイリアム・デヨーヂはかくしてハーヴェルフオードウエストの近くに、一片の土地を借り、此



處に生活の根を下して小農の營みを初めた。處が「不幸」は何處までもウイリアムを逃すまいと後から追ひすがつて來た。一八六四年の六月、濕氣の多い庭で土弄りをしてゐた時、惡寒に襲はれて臥床の人となり、續いて高熱に見舞はれた。醫者は肺炎だと云つて眉を擧げた。彼の男兒がたつた十八ヶ月の時の出來事である。

肺炎は段々其の威力を揮ひ、ウイリアムは遂に病魔に打ち勝つことが出來ず、四十二歳の働き盛りで暗暝の世界に逝いた。

## 2. 叔父の感化

一家の支柱を失つたロイドの母は、救助の手を何處にか求めなければならなかつた。ロイドは十數ヶ月の小兒であるから自からかゝり知らなかつたけれども、回想の糸を辿れば、彼は生涯の一大危機に際會してゐたのである。其の時、水に溺れんとする寡婦と孤兒に救助の手を進んで差し延べて呉れた者があつた。其れはロイドの母親の兄弟、即ちロイドの叔父に當るリチャード・ロイド其人である。

ロイド・デヨーヂが靴屋の叔父に養育された話は餘りに有名である。少年雜誌、少年立志傳は必ず此の逸事を掲げてゐるから、極東の少年少女と雖も此の事實を知らない者は無い。けれども一つ兎角誤解に導き易い事がある。夫れは靴屋と云ふ言葉の上から推察して、非常に貧困の裡にロイド・デヨーヂは生育した様に思ひ込む傾きがある。現にある日本の書物にはゴルキーがボルガの渡船上で少年期を過したのと對照してロイドの貧困少年期を叙した一文を讀んだことがある。併し是れは大變な間違と云はなければならぬ。リチャード・ロイドは靴を修繕する靴直しではなく、立派に一家を構へた靴屋で、二、三人の職工を抱え、ウエールズのラニスタムデイで世間に恥づかしからぬ生活をしてゐたのである。食ふことに全力を傾注しなければやつて行けないと云ふ種類の生活でなかつたことはロイドの少年期にとつて非常な幸福であつた。換言すれば叔父は此の孤兒の肉體的、精神的發達を凝乎と見守つて行く丈けの心と物質のゆとりを持ち合せてゐたのである。

母親は意を決して夫の棺を送り出した家をたゞまんと、家具一切を競賣に掛けた。其れを見たロイド——當時未だちよこ／＼歩きの男兒——は悲憤して有らゆる手段を講じて是れを妨害したと云ふ。是れはロイド・デヨーヂが後年自分の記憶を辿つて他人に洩した一事であるが、屈辱に強



く反抗せんとする彼の人格はかゝる時代から萌芽してゐたことを思ふと、吾人は少なからざる興味を感じざるを得ない。

叔父は強力な心の持主であつたけれども、宗教と年齢とは彼の心境を柔らげ、四隣の人々、顧客に向つて慇懃を極めてゐた。けれども宗教を傷つくるごとき言動、自己の人格を蹂躪する如き他人の行爲に向つては、決然と立つて男性の美德を發揮する底の人物であつた。是れは取りもなほさずロイド・デョーヂの缺點でもあり長處でもある特質となつて、時に英國の政界に一大暴風を捲き起すことがある。此の特質こそロイドが叔父から不知不識の間に繼承した特質と云はざるを得ない。

宗教心に厚いリチャード・ロイドは一方に於て政治に興味を繋ぐ男であつた。今日こそ自由民権の伸長を世界に誇る英國も、ロイドの少年時代には可成地主貴族の横暴、目に餘るものがあつた。一八六八年の選挙に小作人は地主貴族の反對の地位に立つ候補者に舉つて投票したのを地主貴族は激怒し、小作人を耕作地から追放した。正義に燃ゆるリチャードが此の状勢を目撃して緘黙してゐる譯にはゆかぬ。靴屋の店は忽然として政談を闘はず演説場と化した。此等の民衆の中に立つて、説教に依つて練磨された辯舌を振ふのはリチャードである。

かゝる還境の裡に成長して行つたロイドが、地主を自分等と別種な人間であると心得、貴族を弱肉強食の奴等と考へ、上流社會を目して不正、不義、共に相容るゝこと能はざる人種として敵視するに至つたのは理の當然である。

かゝる生ひ立ちの記を持つてゐるロイド・デョーヂの社會思想が、上層社會よりも、やゝもすれば中産、下層社會に傾くのは致し方がない。

「自分の小兒の時、日曜の最上の馳走は卵の半分であつた」と、ロイド・デョーヂは一八九八年の演説中で自ら告白してゐる。此の言葉を以てしても幼年期、少年期の生活が豊かであつたとは云へぬ。貧困其の物ではないが、衣食の憂へから全く超越してゐたのではない。何事も深く印象付けられる少年期の経験は拭ふ可からざる諸相を此の宰相の腦裡に刻み付けた。彼が時として突飛な無産階級の味方としての行動を執るのはかゝる實際的経験が、往々にして無意識の間に擡頭して來て政治家としての行動を決定するのではあるまいか？

叔父の感化、周圍の社會條件は、漸次にロイドの心を或る一定の形に作り上げて行つた。

次に彼の學校生活時代が來た。

彼の得意は數學と地理であつた。「どんな町の名を聞いても、どんな産物の産地を訊ねても知ら



ないことはない。本當に珍らしい強記な小供だ」と云ふ評判は、皆んなの口から此の少年の頭に降つて來た。他の少年が冒險談、探偵小説に血を湧かし、肉を躍らせてゐる時、彼ロイドはバイブル物語を耽讀してゐた。手當り次第に本の頁に眼を曝して行く、而して自分の心を引く問題に心を潜めて考へる。彼が一度注意したことは永久に彼の記憶から脱落しなかつた。讀書は彼をして偉大ならしめ、天與の記憶力の發達は彼の成功の第一條件となつた。

十年間の小學、中學教育、英國古典文學の流讀、説教の熱心なる傾聽者、村の鍛冶屋や靴屋の店で耳にした政治談——主として地主貴族への反抗と抗爭——は十四歳のロイド・デョーヂをして一人前の人間に仕立て上げた。彼は雄辯術を心得ず、修辭學に通曉しなかつたけれども、聽衆を感動せしめる丈けの辯舌、讀む者をして感嘆せしめる丈けの文章を綴れる境地にまで發達してゐた。彼は世の中を知らなかつたかも知れないが、嚴肅なる人生の現實性をしつかりと把握してゐた。ロイドは金の尊ふとさを知つてゐた、悲しむ可き貴ふとさ、時としては暴虐なる金の性質を理解してゐた。

### 3、辯護士事務見習

金錢の餘裕なきものには教育の門戸は堅く閉ざさる——遺憾乍ら此の事實を否定することは出來ない。金と教育、此の障壁に打突かつて、年少のロイド・デョーヂは沈思默考しなければならなかつた。教會に關係深き叔父を持ち、説教の教壇に立つ才能を充分具備してゐる年少のロイドが、金錢的束縛を脱して一層智識の涵養に努めんとするならば、宣教師の途を選ぶのが一番容易であつた。然し其れは現實のものとならなかつた。かくして彼は動搖と不安定の境遇にあつた時、辯護士豫備試験を受ける爲め佛蘭西語を獨習した。けれども其の語學は耳からでなく目から這入る語學の稽古であつたので、佛蘭西語の發音が極めて英語的である、従つて自由に流暢に會話の海を游泳することは出來ない。處が此の佛蘭西語の會話に不得意であると云ふことが、彼自身の不利益ばかりでなく、英國及英國民全體の不利益を招致した原因になつた。

其の理由如何。

若しロイド・デョーヂが佛蘭西語の達人であり、佛蘭西語の政治家と彼等の國語を以て縦横に國



際關係を論議し得たならば、必ずや歐洲の天地を震撼せしめたあの大戦争は避け得たかも知れない。亦平和締結の大會議に臨んでも、もつと効果を收められたかも知れぬ。

意志感情表明の武器である語學が如何に國際關係に重大な結果を齎すものであるかと言ふことは、此の一事例に依つても深く痛感させる。

彼は辯護士の豫備試験に及第したので一八七七年の十二月自活の途に出發す可き準備——辯護士の事務所勤務すると云ふ準備——が整へられた。其の事務所は叔父の家から六哩を隔てた商業都市ポートマドックに處在してゐた、然もこの時ロイドは僅かに滿十六歳を少し越したばかりであつた。

若き青少年をして强健な精神の持主たらしめ、獨立自尊の士たらしめるには二つの條件が必要である。第一の條件は其の青年が立派な家庭の空氣の中にすこやかに伸びて行くと云ふこと、第二は或る期間其の家庭から離れて、他人の飯を喰ふことである。所謂「可愛い子には旅をさせる」である。ロイドがポートマドックに赴いたのは後の條件を充すに此の上もない良い機會であつたといふことが出来る。

彼が奉職した法律事務所は相當に繁昌した。従つて多忙である。地方裁判所に出入し、法律事務を實習し、地方自治體の會合に列席するの機會が多ければ多い程、若いロイドの頭腦は鮮やかになつて行つた。

夜は燈下に在つて熱心なる法律書の學習に努めた。此の法律書生の生來の敏捷さは、乾燥無味なる法律の外殻を容易に打ち破つて、其の核心にある滋味を味はふに役立つた。普通の學習者には潜入しかねる様な法律上の複雑な原理、論議も彼にとつては決して難解登攀し得ざる高峯ではなかつた。法律書を漁る餘暇に、彼の智識慾は英國、佛蘭西の古典文學の樂園を散策せしめた。パスカルからユゴーまでの佛蘭西の古典文學は總て彼の眼の前に曝された。

此の若き人の空想の中に、何時も一大焰となつて燃えてゐるのは、政治的野望であつた。政治的活動、民衆を統帥する政治家の風貌、國際關係の難局に立つて快刀亂麻を斷つ痛快味、是れこそロイドが若き日の希望であつた。

十七の時、ロイド・デョーヂの野心を聞いてゐた一友人は、彼の面前で冷笑して、

「其れは君の空想だよ、夢想だよ、到底實現出来るものか」

此の言葉に憤慨した未來の大政治家は、

「俺の言葉をよく覚えてゐるよ。決して忘れるな。今、君は俺の云ふ事を冷やかしてゐるが、何



年かの後を見てゐる。俺が總理大臣になつた時に愕くな。」

戸をパタリと閉めて、ロイドの姿は室外に消え失せた。友達はそのれを眺めてゲラ／＼と哄笑した。

此の時彼は既に名を天下に馳するの途上に立つてゐたのである。一つの目的を定めて着々と其れが實現への努力は、數十年後終に此の大言壯語を現實のものにした。

繁雜なる法律事務と、可成困難な辯護士試験準備に捧ぐる時間の後に残つた時を利用して、彼は原稿を書き綴つた。彼は時事問題に就て深き注意を拂ひ、是れに對する一個の見解を編み出すのが恒であつた。斯うした論策がブルータスの書名によつて、地方新聞に掲載さるゝ様になり、局限的ではあるが新聞讀者の注意を惹く様になつた。ブルータスは勿論デヨーデの變名である。今其の論文の内容、論策の組立てから觀ると、吾人はブルータスと云ふよりも、マーク・アントニと書名した方が内容に相應はしい氣がする。

此の若年時代の政治的言説は——當時彼は十八歳の青年で、面長な美しき金髪を豊かに頭に蓄へた男の兒であつた——色々な意味に於て、彼の傳記をものする私には——亦讀者にも——興味がある。

デヨーデの筆端から迸り出たインキの跡には、「トリー壓政家の怪物」傲慢不遜にして擄取を事とする地主「壓政政治の大樁支索」自由を殺戮する奴等」と云ふ一列の文字が散在してゐる。此等の文句は今猶彼の演説中に飛び出して來る。青年のロイド・デヨーデは今や老年のロイド・デヨーデになつてゐる。彼の生涯は將に活動期を過ぎて圓熟完成の域に到達してゐる。しかも青年時代の言葉——換言すれば彼の政治的活動の背景を成す思想——には不變不改の或る物がある。其の點を私は面白いと想ふのである。

一八八四年は彼にとつて大いに紀念す可き年、重要な劃期となつた。彼れデヨーデは此の年に辯護士試験に及第して、獨立人としての經營を營む様になつたのである。

#### 4、辯護士としてのロイド

彼の性格は猪突的である。他人の辯護士事務所に同居して、安息の日をむさぼるのは、彼の性格とは相容れない。獨立獨歩は彼の生來の面目である。

四年以前から彼の母親は、老齡の境に這入つた叔父と共に、クリシースに轉住して來た。彼と



しては此等の人々を扶養するの義務がある。年未だ青年の期を脱せざる彼は勇敢にもクリシースに獨立の事務所を開設し、顧客の來るを待った。處が事件は豫期以上に蟻集して來た。前途は洋々たるものである。彼は活動の範圍を直ちに擴張し、ポートマドックとフェスイニオングに出張事務所を設けた。

常に攻勢的態度を持つる彼が、法律事件にたづさはるのであるから、其の係争問題が彼の有利に解決さるゝのは怪しむに足らぬ。階級觀念から云へば、中級、下級の味方である。ロイドが、一般民衆から好意を以て迎へられるのは理の當然である。「勇敢な辯護士」「正義の味方」「熱心の權化」「民衆の爲めの法律家」と云ふ名は、年ならずして近隣に鳴り響くに至つた。

處が彼の名をいやが上にも有名ならしめる事件が起つた。

其れは埋葬物問題である。此れは明かに「民衆の爲めの辯護士」なる評判を立派に裏書した。「やつとこさ問題は片づいた、此の御蔭で私の名前はウエールス全體に識れ互るに相違ない」と彼は微笑を浮べ乍ら呟いた。

彼の豫想は適中した。彼はクリシースの一辯護士でなくして、ウエールスの法律家になつた。

法律は政治を伴ひ、政治は法律を伴ふ。法律家として出發した彼は、此の調子をよくよく會得したのである。法律がやゝもすれば死滅し、枯渴した文字として紙上に羅列してゐるものに、血と精神を吹き込み、實社會に生かして立派に其の役を勤めさせるのには政治的手腕がなければならぬ。ロイド・デョーヂの事務所に事件の依頼者が群を成して集つて來たのも、此の兩刀を使ふ調子を知つて居たからであるまいか？

## 5、政界に進出するまで

幸福は猶一層双手を擴げて、ロイド・デョーヂを歡び迎へた。

彼は三年の間、クリシースの富裕な農家の娘、マーガレット・オーウエンに深き注意の眼を注いでゐた。彼女の家族は、愛人たる此の若き辯護士には蓄財の才が排除して居るものと思ひ込んでゐたので、結婚の成功を悦ばず、むしろ反對の立場にあつた。處が三年の歳月を經過する内に、求婚者に對する此の疑雲は段々晴れ上つて來て、晴天白日、むしろ結婚の早く完成するを希ひ願ふまでに態度が一變した。

一八八八年一月二十四日、一組の男女は教會の祭壇の前で、永久に變らざる誓ひを立てた。此



の町の記録の語る處によると、ロイド・デヨーデ結婚の當夜、其れを祝福す可く華々しいイルミネーションが街々に施こされたとあるが、此れは新婦の家が此の町で有力であつた爲めであらうか？ 其れも勿論大きな理由とはならうが、かくまで全町を擧げて此の結婚を祝賀したのは、ロイド・デヨーデの手腕と人格を町民が信頼し、此の結婚の機會に地方民として彼の前途を祝福せんとしたからである。

彼の地方的政治活動は、益々有力なものになつて來た。彼が民衆の前に立つて、政見を發表するの機會は段々多くなるばかりであつた。

或時デヨーデは演壇に立ち、彼の爽かな辯舌を振つてゐると、聽衆の中から「驢馬と車はどうした」、「驢馬と車はどうした」としきりに罵聲を上げるものがある。

何んで驢馬と車と叫ぶのかと云ふのに、曾つてロイドの少年時代、叔父の厄介になつて勉強してゐた折り、叔父の作つた靴を車に積み、驢馬に引かしながら街々を賣り捌いて歩いたことがある。此の過去の歴史を引つ張り出して來て、「驢馬と車はどうした」とからかうのであつた。

壇上に立つ者を、反對黨の人間が嘲罵するのは古今東西に變りはない。そんなことにロイド・デヨーデは怯む男ではない。けれども餘りそれを大聲に、幾度か繰返されるので彼も憤然としては

れに一矢をむくいなければならなくなつた。

「車のことは私は知らない、驢馬に至つては報告する必要がある。」と怒鳴り付けた。

デヨーデは機會ある毎に中央政界への進出を覗つてゐた。處が一八八八年カルナヴオン洲の自由黨は、保守黨に對抗す可き候補者を缺き、夫れを廣く求めてゐた。其の條件として第一に數ふ可きは、雄辯人を魅することではなければならぬ。第二に擧ぐ可きは敵手に對する燃ゆる如き精神の所有者でなければならぬ。クリシースの辯護士は此の二つの條件を満すに充分であつた。けれども是れに反對する者はロイドの胸底には過激分子が包藏されてゐるから、危険であると主張した。彼等との協議はロイド・デヨーデに對して全然反對なものではなかつた、併し進んで彼の總てを肯定するまでには行かなかつた、「ロイド・デヨーデは餘りに進んでゐる」と云ふのが彼等との間の一致した意見であつた。

處が一人の實際的な政治家が言を成して曰く「なんでそんなにこはがるのかね？ デヨーデは現在餘り進み過ぎてゐるかも知れない、けれども彼を下院に送り出して見ろ、彼の過激主義の五十パーセントは脱落して了ふから。敢て心配するものはないよ。」

かくして彼は自由黨の公認候補者となり政治界に於ける地歩も益々堅實なものにした。



一八九〇年の補缺選挙の時、デヨーヂに取つては天下分目の決戦期が迫つて來た。地方政界から、中央政界への進出。彼年來の政見を全英國の爲に披瀝するの秋が來た。保守黨は地方の民心を考慮して、如何なる人材を立たしむ可きかに迷ふた。自由黨はロイド・デヨーヂを陣頭に押立て、潮流に乗つて一氣に勝利の榮冠を奪取せんとした。けれども其の潮流は自由黨幹部の目指してゐる様に、迅速に流れるや否や大なる疑問であつた。自由、保守兩黨共に勝算は確實でなかつた。保守黨はロイドが曾つて學んだ學校の校長の息、ナンニーを選んで、自由黨に拮抗することになつた。此の戦争はデヨーヂに取つて、聊かやりにくかつた。恩師の子息と鋒を交へるのはつらかつた。

此の補缺選挙は兩黨が初めから憂慮してゐた様に豫想が着かなかつた。其れ丈け政戦は激烈を極めた。未來の首相にとつても危機一髪であつた。開票の結果ロイド・デヨーヂは十八票の差で當選した。自由黨萬歳、ロイド・デヨーヂ萬歳。かくして彼は年來の望を達して政界へ最初の第一歩を踏み出す幸福に廻り會はせた。靴屋の甥、辯護士の事務員、辯護士の開業、地方政界への進出——斯る経路を辿つて、彼は政治家なる名稱を肩に荷ふ様になつた。

十八票の差、それは將來の大政治家としては甚だ貧弱なものであつた。けれども彼をウエスト

ミンスターに送るのには充分であつた。

彼の得意思ふ可しである。



## 第二章 政治家としてのロイド・デジョーヂ

### 1、彼の初陣

二十七歳にして、ロイド・デジョーヂは下院の門をくゞつた。

初めて下院に立つた時の彼の心境と、大宰相となつた時の彼の心持ちの上には多少の相違がある。

夫れは政界乗り出しの時の面貌を、今日現在の相貌と比較して見れば、心の對照と一致して或るコントラストが理解出來よう。

少年時代の彼の相貌は美しくはないけれども、快活な、ユーモアに富んだ、温厚なものであつた。けれども齡を重ねるに従つて鬪争的な氣分が眉宇の間に漂つて來た。年少期以來、地主貴族の暴壓に沈吟する小作人の群の社會的不満を見聞きしてゐた彼には、自然に有産階級に對する鬪争性が容姿に具顯して來た。軍人と云ふよりも亞米利加印度人の鬪士の面影を忍ばせる。口邊の表

情には慘虐性かと思はれるばかりの粗暴な分子が漂つてゐる。眼は何時もギョロギョロして、叢林中の敵を探査するかの如き様に思はれる。辯護士としての鬪争、地方小新聞の激闘、小額な黄白に向つての争ひ、政治的機會の把握、是等の鬪争は彼の生來の理想主義を消滅せしめるには至らなかつた。けれども實際社會の是等の鬪争が微塵も彼の人間觀、社會觀に影響しなかつたとは謂へない。少しく粗野な處が壯年時代の寫眞に顯れてゐるのは致し方がない。壯年時代のロイド・デジョーヂには寶物を握る前の「モント・クリスト」の主人公の様な面貌がある。

處が當年のロイド・デジョーヂの面影を見るのに、壯年時代の鬪争的、直線的分子は漸く影をひそめ、社會を包容するの寛容さが現れてゐる。

顔面に浮んでゐる、何人の眼にも付く此の對照は、やがて彼の政治界に於ける態度の相違を雄辯に物語る。

政治家として最も有力な武器は何であらうか？

財力と門閥が其れである。けれども此の壯年政治家には此の二つのものは絶対に味方でなかつた。後年彼が中央政界の重鎮と仰がるゝに至つても、財力稀薄の爲めに往々にして苦悶した位であるから、議員として初めて國政に參與する當時の彼の囊中は推察するに難くない。田舎教師を



父とし、靴屋を養ひ親として生育した彼に門閥の誇る可きものゝあらう道理がない。自己の才幹、勇氣、策謀、知能を縦横に揮ひ、是れを唯一の鋒とし楯として政界に馳驅するよりも他に途はなかつた。

彼は多忙なる政治家として、亦一方に辯護士の職を棄却することは出来なかつた。其れと云ふのも糧道を絶たるゝの憂慮があつたからである。亦新聞に關係して収入の途を計らなければならなかつたけれども、其れに依つて多額の収益を把ると云ふ手腕は彼には缺けてゐた。

中央政界に乗り出したロイド・デューヂは彼が處女演説の機會を覗つてゐた。彼は實際に自分が處見を述べる時が到來する迄一言も出さず、開口一番相當社會に反響を起す様な問題に逢着するのを待ち構へてゐた、獵師が木蔭に隠れて覗撃ちをする様に。一八九〇年六月十三日午後三時二十五分、いよいよ其の時が到來した。初めて登院して以來、黙々として議席を埋めてゐるにすぎなかつた新代議士は茲に口を開くのを得た。其れは地方税制案であつた。彼の演説の態度、内容、論旨、辯舌は相當に院内の空氣を動搖させた。

ロンドンの一新聞紙は彼の演説を評して「伶俐である」と云つた。此れが彼の議會に於ける處女演説であつた。後には國會を一人で左右したデューヂも、かゝる首途の晨があつたのである。

## 2、一八九〇—一八九五年時代

一八九〇年ロイド・デューヂが初めて下院に議席を占めて以來、五年の歲月が流れた。而して一八九五年の總選舉に臨み、全英國の狀勢から見れば自由黨は不利の地位に立ち、險惡な空氣に包まれてゐたのにも拘らず、彼は再び選舉戰に於て、一八九〇年の時と同じくナンニーと見參して覇を争ふことになつた。而して此の時も僅かの差を以て勝利は彼のものであつた。

一八九〇年から一八九五年の五年に亘つて彼は下院から何を習得したであらうか。彼の下院に於ける演説は偉大な稱贊を博すると云ふ譯にもゆかなかつた。夫れには理由がある。彼は大衆を相手にして血を湧かしめる煽動的辯舌には慣れてゐたけれども、小數を聽手とする演説には不慣れであつた。議場を壓することの出来なかつた大きな原因は茲にある。空想と現實と一致しない彼は憂色に包まれてゐた。亦議會政治の裏面、議場の無活氣には我慢出来なくなつた。只彼の叔父が彼の失意を見て激勵し、心を將來に馳する様に忠告してゐた。是れは要するに議會の仕事は彼の全精力を發動せしめるには餘りに無氣力であつたのである。ウエストミンスター



に於ける彼は全然政黨からかけはなれた別動隊であるか、觀を呈してゐた。けれども彼の故郷の政治、ウエールスの政治になると彼は亦別人の様になつて働くの辭さなかつた。

元來ウエールスは傳統的に云つて北方と南方に區分されてゐる。其の政治的目的を達する爲に、南北は別々に政治機關を持つてゐた。豊富な財を有し進歩的な南部ウエールスは活動的であり、政治的には過激なばかりで無く頗る國民的であつた。是れに反して北部ウエールスは恒に安價なる政治活動に終始し、國民主義の旗色も至つて鮮明でなかつた。デヨーヂは議會に這入る以前から此の北部の政治状態に不満を抱き、南北を打つて一丸とする政治團體を組織せんとしてゐた。けれども此の運動には南部の賛成を得ることが出來ず、暗礁に乗り上げて仕舞つた。此の策謀に失敗したロイド・デヨーヂは一意専心北部政治の改善を企圖し、着々として成功の域に達したのである。彼が初めて彼の地方から擧げられ下院に押し出された當時にあつては「ウエールスの自活」と云ふ言葉は、南部ウエールスよりも北部ウエールスに於ける方が遙かにポピュラーのものになつた。六七年の後には北部と南部は其の主義主張を全く置き換へて仕舞つた。北部ウエールスの方が明晰に國民主義を標榜する様になつた。ウエールス人の爲のウエールスと云ふ思想が一般に浸潤して來た。

ウエールスの状況がかく展開し初めた時、南阿戦争が勃發し、内政の如何は社會から一掃されて、人心は悉く外部に向けられた。

### 3、南阿戦争

南阿戦争(ボア戦争)は誰が起したのであるか、英國の眞の目的は何處にあつたか、是れは今筆者が茲に論ずる必要も餘暇もないから暫く割愛するとして、ロイド・デヨーヂの傳をものする立場に立つてこの戦争のことを誌さう。

南阿戦争はロイド・デヨーヂの政治的生涯の上に於て見逃すことの出來ない一大事件となつた。と云ふのは彼は南阿戦争に關連して以來、有名になり、南阿戦争が終結する時には彼は政治界の一大勢力となつてゐたからである。南阿戦争が幕を上げるまでは、單に下院に名を列する一議員として深く全英帝國に名が喧傳さるゝ底の政治家ではなかつた。處が此の戦争を舞臺にして、彼は兎に角反對側からは怖れられる人物、不信用な人間になつたのである、即ち政治家として敵味方共に考慮するだけの地盤を創造したのである。



ロイド・チョーヂにとつて一つの大きな利益があつた。其れは南阿戦争に際して彼が執つた行動は、敵も味方も、他の政黨も幾何の程度に彼が犠牲になる心算か、どの範圍まで自己の政策を信じてゐるのか、如何なる状態にまで彼は押し進まんとするのであるか、新人だけに判断に苦しんだからである。彼の人物に對する價值判断が不明であつただけに、政界の注意を蒐集することが出来た。

南部亞米利加に戦雲が深く垂れ不り、何時砲火が交へられるか判らなくなつた時、自由黨内に二つの分派が出来た。戦争を是とする者と戦争を非とする者。此の二派の中間に確固たる信念なき連中が日和見をしてゐた。自由帝國主義者(妙な名稱だが當時左様した名前で呼ばれてゐた)内の巨頭としては、アスキス・ハルデン(後の子爵)、エドワード・グレイ(後の子爵)を數へることが出来る。其の反對側に戦争反對黨があつた、併し此の反對黨中には色々な分子が包含されてゐたので統一を缺いてゐた。

チョーヂは戦争反對派に屬してゐたが、其れは他人の意見に動かされて其れに賛成したのでなく、全人格的に、首唱者として反對意見を固持してゐたのである。彼が最初の演説は殖民省の侵略政策に對する痛撃ではなく、黨派觀念、階級的偏見に對する評論であつた。

けれども戦争讚美の波濤は澎湃として押し寄せ來り社會を揺り動かした。國家的熱情に盲目になつた英國國民は、ロイド・チョーヂの正義の聲、正道の叫びを、喧騒の叫喊の内に没し去つた。ロイド・チョーヂは「英國の軍隊を南阿の山野で敵弾に曝させようとしてゐるのである」と暴言を放つ者さえあつた。勿論彼がそんな非常識なことを希望したわけではない。全く條理を超越した攻撃である。彼は出來得る限り平和の手段を盡して、敵の鋭鋒を回避しようと主張したのである。さうする爲めには南阿を擧げてトランスバールとオレンジ自由國の統帥者ポール・クルーゲルの手の中に委ねよと謂ふのである。けれども理性の混雜した英國社會は是れを目して反逆者の聲であると呪咀した。而してボア人を目しては「口邊に泡をためて驅けて來る狂犬である」とはやし立てた。ロイド・チョーヂの頭上に反對黨の痛撃が雷電となつて落下したのも致し方がない。

此の反對者の猛烈な砲火を浴せかけられ乍らも、ロイド・チョーヂは天與の勇敢性を發揮して少しも屈服するの聲色を見せず、益々自己の主義主張を高潮し、一步も退却しなかつた。一九〇〇年の初頭に當つて、オックスフォードでなした彼の演説は、論理整然たるものであり、普通の平和主義者の議論ではあるが其の表現方法が頗る光彩に富んでゐて大政治家の歴史的雄辯として古今に傳ふ可き價值があつた。



是れまでのロイド・デヨーヂは政治家としての素地と訓練と修養を積んで來た。けれども全人格的に或事件に打突かつて、自己の威力、手腕、能力を試練する時がなかつた。處が南阿戦争は彼にとつて大試金石となつた。爲政治家としての自覺、政治家としての自信が立派に出來上つた。地方的、亦是局限的係争問題の圏外に踏出し、一言一句を自己の責任として双肩に荷ひ、決然たる態度を以て國家的問題の處理に當つたのは此の時が最初である。政治的戰略、具體的小事件の整理に對しては、彼の頭腦は敏捷、明晰、果斷である、けれども大事件に遭着すると彼は思想の意識的經過の結果、行動を執ると云ふので莫くして、インスピレーションに基いて突風の如く政界を馳せ廻る。此の特徴が南阿戦争の時初めて全副的に發揮された。

ロイド・デヨーヂは「名譽の孤立」に陥つた。多くは帝國主義の大立物、保守黨の首領の旗下に馳せ參じ、彼等の政策を讚美し、當時の英國の國是を左右した。

ボア戦争の初年は、ロイド・デヨーヂの前途は暗澹たるものであつた。慘風悲雨、將來は甚だしく豫期を裏切つた。生れ故郷に於ける彼の辯護士としての職業は、日に日にさびれた、と云ふのは彼の市は英國中でも最も愛國的狂信者の巢であつたから、親ボア派として有名なロイド・デヨーヂの仕事が順調に運ばぬのは當然である。選舉民はブツブツ云ふ。けれども彼は斷乎として

所信の穿貫に努めた。何物も抑壓し得ざる勇猛心を振起して、デヨーヂは我れを導く運命の星に信頼した、而して前進、亦前進した。

一九〇一年三月十三日ロバート將軍はプロエムフオンタインに入り、六月五日英國の國旗はブレトリヤに翻り、キンバリー、レディスミス、マフェキンに相繼いで解放された。戦争の山は見えたのである。

敵の勢が破竹の如くである時には、敵愾心かられて正論を傾聽する者もない、だが戦争が有利に轉廻して、自分の足元が安泰になると漸く自己反省の精神が自ら湧いて來る。ロイド・デヨーヂは徒らに反逆者扱ひにされなくなつた。非戦争論者の聲が高まれば高まる程、彼の地歩は確立して來た。

併し戦争推行論者の聲はいやが上にも高く揚げられてゐた。六月十九日にクインズ、ホールで自由黨の會合が催された時、帝國主義の大群衆はホールの外部に押し寄せて來て、「ルール、ブリタニヤ」を高唱し、セシル・ローズ萬歳の絶叫は百雷の落つるが如くであつた。かゝる大群衆が屋外で騒ぎ立てゝゐるにも拘らず、ロイド・デヨーヂは平然として、

「全世界の金鑛を併合し得た處で、自分の精神を喪失して仕舞つたならば、國家は結局如何なる



利益を得ることになるのか？ 吾人は世界の最大強國を向ふに廻して敢然と戦つてゐる小農民國を讚美するものである」と火の様な詞を吐いてゐた。

遂に平和の日が歸つて來た。其の日彼は英國中で最も不人氣な政治家であつた。けれども彼は人氣の更りに、政治家としての第一義的な或物を手に收めてゐた。是れは彼にとつて何物にも換へることの出來ない收獲物であつた。

親ボアー派の中にあつて、彼はサタンの如く雲表に聳えて立つてゐた。

「國家の誇り、最大の價值、

衆を率いて榮冠は彼の頭上に輝く」

と評した者さもある。

政戦多年、緊張の裡に過ぎた彼は急に齡を重ねた様に見受けられた。戦争が初まる前には白髪は一本もなく、顔には若さが輝いてゐた。しかるに戦争が終末に近づくに従つて、白霜が兩鬢にチラ／＼と覗いて來た、而して廣い額には皺の波が深くも刻まれる様になつたので、漫畫家は直ぐ其れを捉まえて畫にした。快活で小兒らしい笑ひ聲以外には若き日の面影が率然として消滅して了つた。

彼の乗つて來た列車は目的の停車場に着いたのである。税關から荷物を取つたり、衣服の塵を拂つたり、多少の休養をしなければならぬ。而して新たに發足するのである。

#### 4、初めて大臣となる

南阿戦争が終結すると共に、ロイド・ジョージの銳鋒は内的に向けられ、侃々諤々の言論を吐き、政治界に於ける彼の地歩を日一日、年一年と踏み固められた。かくして機有れば大臣の椅子も彼を悦び迎へると云ふ處まで押し進んで來た。

彼は少しく健康を害し、伊太利の山川に親んで病を養つた後、英國に歸來した。其の時も時、バルフォアは宰相の椅子を棄てて野に下つた。其の後を襲ふたのが、キャンベル・バンナーマンである。彼は舊友ジョン・バインズと共に入閣することになつた。

茲に一つ面白い挿話がある。

ロイド・ジョージはバインズと共に汽車旅行をするのが常であつた。處でバインズの華々しい政治的活躍は衆人をして群衆の中にバインズが何人であるかと云ふことを容易に見出さしめる。



或日此の二人の政治家が急いで汽車に乗らうとプラットホームを早足に急いでゐた。すると此の二人の姿に眼を付けたのが一群の労働者である。

すると一人の労働者が叫んだ。

「おい／＼、あすここにバーンスが行くぜ」

「バーンス？ うん、たしかにさうだ。だがカバンを持つて行くもう一人は誰れだらうな」  
ともう一人の労働者が訊ねた。

「あれか？—ありやバーンスの秘書さ」

此の物語は此の二人の社會的地位を明白に物語るものである。

ロイド・デヨーデはウエールズに歸れば、何處へ行つても、「ありやロイド・デヨーデ」だと指さして云ふ。彼は此の時既にウエールズの英雄であつた。けれどもイングランドに足を歩み入れると、其の名はバーンスにも劣つてゐたのである。

彼、ロイド・デヨーデは身を靴屋の店から起して遂に大臣の一人に名を列ねる様になつた。

彼は商務大臣になつた。彼は是れに對して聊か失望の色を浮べた。と云ふのは彼は内心、秘かに内務大臣を希望してゐたからである。併し商務大臣の地位も決して彼に取つて無意義なもので

はなかつた。やがては大蔵大臣となり、總理大臣となるの途が是から開けて行くことを自覺してゐた。

彼の親ボア派、非戰論者、平和主義者としての熱烈な活動が、選舉民を悦ばせず、一時不評判になつたことは、吾人が前に述べた通りである。處が一度、入閣して大臣と云ふ名を冠せらるゝや、選舉區に於ける彼の信用は勃然として復活して來た。而して選舉に際し、千二百票の大なる差で當選することが出來た。此の大勝利は如何に彼に對する選舉民の感情が緩和されたかと云ふ最も良き證左である。

標本的煽動政治家として衆目に映じてゐた彼も、閣員として國政を左右する地位に着くと、非常に溫和な人物になつた。野蠻な毒舌を振つて相手を撞著たらしめた彼は、今や微笑を以て人を迎へるの紳士になつた。ロイド・デヨーデの大臣としての態度は完全なものであつた。彼は他人に接近し易い様な態度を示し、突進的政敵に對しても妥協の餘地を與へ、議會に於ける質問に對しては彼として未だ曾て見ざる慇懃さを以て答辯し、禮を厚くして諸人に接する有様は大膽不遜な昔日の彼とは全く見違へる程のものであつた。

齡とつた下院の議員の一人が云つた。



「三十年間私は議員をやつてゐるが、議員當時と大臣になつてからと少しも變らない人は殆んどない。たつた一人ある。それは今度の商務大臣ロイド・デョーデである。」

亦ロイド・デョーデに絶大の好意を持つ一人は、彼を批評して下の如き言葉を吐いた。

「在來の政治家は舊時の官僚的精神の型を脱することが出来ないから、關係者の利害を無視して法令を作る。しかるにロイド・デョーデは此の舊慣を全然打破して仕舞つた。」

此の言葉は少し割引して聞かなければならない。如何なる時の、如何な大臣でも直接關係者の利害を算入し考慮しないで法令を作製する様なものは未だ曾てあるまい。若しかゝる法令を作るとしたら、其の法令の目的が何處にあるか解らなくなるからである。けれども此の評者の言を程度の差として聞くなれば、勿論ロイド・デョーデの一面を語るものとして傾聴しなければならぬ。

此れが實證として一つの好適例があるから私は其れを此處に挿入して置かう。

其れは一九〇六年の商船法である。

此の法令を發表する以前、ロイド・デョーデは船舶所有者と船員の代表者を召集し、各自に對して彼等の利害關係を質問し、最も正鵠を得た解決案を發見せんとした。此の時の懸案は數年前に

サミュエル・フリムソールが英國船員の爲に作つた積載吃水線に關することであつた。船舶所有者の觀點から見ると、積載吃水線の問題は不利益である。何んとなれば外國船は危険な程度にまで荷物を満載して英國の港灣に入港し、船賃を低下して英國船と競争する。商人は利益を唯一の標準にするものだから、自國船、外國船の別なく船賃の低廉なものを選ぶ結果になる。其處で此の法令を撤廢すれば船舶所有者、即ち資本家側は滿悅する、けれども船員側の利益を犠牲にしては抑も此の法令を發布した趣旨を破壊することになる。此の兩者の利害關係を毀損せずして、該法令を生かさうと云ふのがロイド・デョーデの苦心の存する處であつた。彼は遂に一つの策略を案出した。其れに依ると此の法令を少しも變改せず英國の利益を保護せんとするものである。其の案と云ふのは、外國船は此の法令の規範に基き、積載吃水線を守らなければ、英國の港に寄港する能はずと云ふのである。利害關係者は此の法令に依つて満足の意を表した。船員の安全は此れが爲に聊かも脅威を受けず、船舶所有者は外國競争者の侵略を享けず、人道主義者は外國船員が享ける利益を見て悦んだ。デョーデが一般から好評を博するのは當然である。



## 5、大藏大臣として

一九〇八年四月、ヘンリー・キャンベル・バンナーマンは病患の故を以て總理の地位を退き、アスキスが其の後を襲ふて宰相となつた。内閣は改造された。トウイードマウスは海軍大臣に、ロイド・デヨーヂは大藏大臣に、チャーチルは商務大臣となつた。

デヨーヂの進展は一般に好印象を與へた。立處に物を處理する能力、自制、獨創的手腕、門戸開放主義、協同一致の徳、此等の彼の美點は大藏大臣としての資格を安全なものにした。數年前迄は暴民の煽動家だと云ふ悪評を浴せられ、階級戦争の宣傳家だと云はれてゐた彼が、二年間の内に以上の様な社會の信頼を一身に集めることが出来たのは、一見奇蹟であるかの感がある。けれどもよく其の眞因を闡明すれば、決して世間の好評は必ずしも偶然の所産でないことが首肯できる。二年間の靜温なる行政、二年間の比較的温健な演説、一九〇七年秋の鐵道罷業の回避、是等の功績が彼をしてかゝる好評をかち得させためたのであつた。

新宰相が財政的經驗の豊富でない、曾ては世間に多種多様の評判をかましたロイド・デヨーヂを大藏大臣と云ふ内閣中で最も重要な椅子に据えたのは頗る奇異とす可きである。デヨーヂは言葉通りに、よくやつて来た」けれども古い考へからすると成熟した政治家ではない。處がアスキスは今や政治家として古き型に墮してゐる。従つてアスキスの弱點、缺點とも云ふ可きは自己の型にはまつた人間を重用する點であつた。デヨーヂの従來の行動を見るのに一定の哲學は無い、思慮辯舌の上から云つても嚴格とは云へぬ、約言すれば彼は臨機應變主義者である。アスキスの如く論理的計畫を基礎にして事を推行する者とは異種異別の人物である。其のアスキスが、かゝるロイド・デヨーヂを選択して財政を料理するの權能を委ねたと云ふことは驚天動地の方策であつた。アスキスとしては大出来であつた。

自然の性相反する者は、何れの時か別離の憂目を見なければならぬ。兩者が天與の本性の相違は既に此の時から分裂の悲愁を胎内に包藏してゐた。

## 6、獨逸訪問

一九〇八年の夏、ロイド・デヨーヂは英國産業の強敵、軍國主義的帝國主義の覇者、野心家のカ



イゼルが恒に世界の風雲を望んで雄飛せんと時の來るを忍従して待望しつゝある獨逸に漫遊を試みた。是れは英國の歴史に取つて特筆大書す可き事件であつた。彼の漫遊其のものに其れ程の價値のないのは云ふ迄もないことであるが、數年後に起つた歐洲大戦争が此の時既に歐洲大陸の空で低迷してゐたからである。

彼は其の當時獨逸帝國の大藏大臣と共に「泡立つ麥酒」の杯を舉げて親しく世界の氣勢を物語つた。彼の爲めにベルリンの動物園で歓迎の宴が開かれた。ストウトガルトでツエペリン飛行船の難破を見せて貰つた。彼は國民保險の獨逸の制度を研究した——彼は其の次年度豫算を議會に提出する時國民保險の事に言及して、「優秀なる制度なり」と云つてゐる、而して此れに類似した制度を英國にも創設しなければならぬと決心したのである。

其の時、ロイド・デヨーヂはオーストリアの一新聞記者と會見し、

「英獨の了解は非常に巧く進行してゐる」と表明した。

處が皮肉なことには其れから數週間を出でずしてオーストリアはボスニヤ、ヘルツェゴビナを併合した。かくしてオーストリアは歐洲大戦争の方向に大きな第一歩を完全に踏み出したのである。

併し何れにしても此の獨逸訪問は、ロイド・デヨーヂの政治的心境に一大影響を及ぼしたのは見逃すことが出来ない。獨逸人の生活の嚴肅なこと、努力精勵怠ることなき獨逸の貴族、組織整然たる勞働階級、清潔なる市街、一片の土地も無駄に放置しない注意深い耕作法等は彼の腦裡に強く印象付けられたのである。

## 7、驚天動地の豫算案

一九〇九年四月二十九日、同年度の大豫算案が議會に提出された。ロイド・デヨーヂが豫算を提出したと聞いて、英國は全土に亘つて鼎の煮沸するが如き觀を呈し、甲論乙駁、其の盡くる處を知らなかつた。豫算提出！是れは議會の年中行事である。一國の財政を處理する上に於て財政豫算の重要なことは言を待たずして明らかである。従つて豫算案を中心にして政界の波亂を捲き起すことは多分にある。けれども此の時の豫算案ほど社會の耳目を竦動せしめたものはない。英國社會の人々をして等しく批判者たるの立場に立たしめた。然らばロイド・デヨーヂの一九〇九年の豫算案に限り、何故にしかく國民の耳朶に強く響いたかと云ふのに、其れは此の豫算案の眼



目大綱が重大なる社會政策——此れまで理論として唱導され乍らも此れが實行を謀る丈の膽力ある政治家の敢行を見なかつた社會政策——國民の負擔を社會の凡百の家庭に均一ならしめる様に按配調理したる社會政策——上流に重くして下流に輕からしむ可き社會政策——に觸れてゐたからである。要するに豫算案の表面に現れたる數字に非ずして、其の數字を構成する背後に潜むロイド・デョーヂの社會觀に對し、社會層が各々利害得失を異にしてゐたからである。

希望と恐怖、贊成と絶對反對、萬人は此の兩者の一つを選ばねばならなかつた。豫算案討議の日が來た。名藏相の奪鬪振りを見んと、幾萬の市民は未明より議會を指して犇しめきつゝ押し寄せた。

午後三時と云ふ時、ロイド・デョーヂは堂上堂下から起る百雷の如き拍手喝采に送られて姿を壇上に運んだ。「農民の親分」と連呼するものがある。

是れが彼の有名な「平民演説」であつた。是れが彼の有名な「人民豫算案」であつた。

ロイド・デョーヂは全身の精力を傾倒し盡して數時間に亘る長廣舌を振つた。彼が政治的生涯中これ程緊張したことはあるまい。演壇に起つこと二時間——午後五時をすぐる頃には精力絶倫の

彼も音聲涸渴し、疲勞倦怠の様歴然たるものがあつた。議會は滿場一致で三十分の休憩を宣し、午後六時、ロイド・デョーヂは再び壇上から火の様な熱辯を揮つた。彼が年來の抱負であつた豫算案の説明はかくして終了したのである。

此れに對する質問、辯護、反駁の激烈であつたのも想像するに難くない。政府黨、在野黨の論戰が奈何に猛烈であつたかを證する爲め、下の笑話を茲に紹介して置かう。

豫算討議の後數日してから、デョーヂの娘メガンは某夫人に伴はれて人形芝居を見物に往つた。其の歸途、メガンは某夫人を見上げ乍ら云つた。

「おばさま、人形芝居の中に出て來ました悪魔つて嫌なものねえ」

「そうですね」

「では、悪魔は保守黨なの」

幼き者の舌端から洩れた此の奇問に對して、其の夫人は失笑を禁じ得なかつた。夫人の夫も亦保守黨員だつたからである。

夫人は此幼き者と政論を戦すことも出來ないので、微笑を浮べつゝ

「ちうですとも」



と軽く答へるより仕方がなかつた。

メガンは暫く沈黙して何か思ひに耽つてゐるらしかつたが、やがて開口一番、

「でも妾、さうは思はないわ。あのパルフォアーさんはお父さんが長い演説で御疲れになつた時、ビーフ・ティーを下すつたつて云ひますもの。」

此の會話の中から吾人は幾多の教訓を酌み取ることが出来る。頑是ない娘の頭にまでも、當時の大藏大臣ロイド・ジョーヂの奮闘振りが鮮やかに寫つてゐたのであり、亦保守黨の攻勢的態度が如何に猛烈であつたかが髣髴し得られる。亦其れと同時に反對派の巨頭パルフォアーが疲勞せるロイド・ジョーヂを勞はつてビーフ・ティーを供したと云ふことは、さすが英國政治家の寛容なる度量を示すもので、雅懷羨望に堪えぬ。是れを唯泥仕合にのみ終始する日本最近の議場の光景に比較すれば、其の經庭の何んすれぞしかく大なる。思へば痛憤に堪へない次第である。

しかく天下の耳目を聳動せしめた此の豫算案の内容、數字に就て吾人は一層詳細に査考するの必要がある。

一九〇九年の豫算案は一九〇八年の其れに比して小項目が著しく増加し、結局一千百八十六萬磅の差を示した。而して其の經費總額は一億六千四百十五萬二千磅であつた。

かゝる多額の豫算案を議會に提出しなければならなかつたと云ふ原因は、奈邊に有したりやと云ふに、其れは獨逸に對抗する爲めであつた。英國は從來永年世界の制海權を牽握し、是れを背景として東西兩洋を横斷縱斷して貿易の霸王となつて來た。處が近時漸く獨逸は勃興の機運に向ひ、國威隆々として軍事上の設備を完備し、商工業上の世界に於ける活躍は目覺ましいものがあった。威望萬國に絶する英國をも凌駕せんとするの狀態である。英國たるもの手を束ねて是れを傍觀する譯にはゆかぬ。ドレッドノート建設、其他萬般の設備を整へなければ昔日の安泰をむさぼることが出来なくなつた。獨逸を假想の敵とする軍備擴張は英國の輿論となつた。奇妙な驚獨病が社會の人々の心を捉えてしまつた。此の時のロイド・ジョーヂの態度如何。彼は獨逸訪問以後いちぢるしく親獨的傾向を有するに至り、愛國主義者等の八艘のドレッドノート主義を固持するを笑ひ、「彼等は臆病風に吹きまくられてゐるのである、徒らに國費を膨張せしむる犯罪者である」と攻撃し、海軍の擴張には組みしなかつた。チャーチルも又ロイド・ジョーヂの説に讚して軍備を急げと云ふ者の主張を抑壓してゐた。けれども遂に是等の人々は海軍大臣マツケナーの主張に一步を譲らなければならなくなつた。

マツケナーは自己の是認する巨砲主義と戰艦増設説を固執して動かない。而して「非ドレッド



ノート」主義者を排撃して曰く。

「英帝國を安泰ならしむることは、有らゆる思辯を超越してゐる」と云つた。

ロイド・デョーヂが嫌々ながらマツケナーの製艦論に賛成したのはデョーヂが次の言葉を参照すれば刻下に悟得することが出来るであらう。

「消費するのは愉快であるが、支拂をするのは苦痛である。消費するのは上品だが、支拂をするのは下品である。」

如上の理由よりして出費多端な財政をロイド・デョーヂは調理しなければならなくなつた。

前にも述べた様に、一九〇九年の議會に提出した豫算の總額は一億六千四百十五萬二千磅で、政府の既定收入豫算一億四千八百三十九萬磅と比較すると、收入の足らざること一千五百七十六萬二千磅である。その他の收入不足額を加算すると此の年度の不足總額は一千六百十一萬二千磅に達するのであつた。即ち經常收入の一割以上の收入不足である。

此の不足額をロイド・デョーヂは如何にして補填せんとするのであるか。

此れに對する財源としては、

一、土地の價格に應ずる課税

二、酒類特許税

三、相續税

四、所得税

五、印紙税

六、關稅及酒類以外の内國消費税

七、死亡税

而してロイドの下院に於て爲したる説明に據つて是れを見れば、該豫算は左記の特色を有してゐる。

一、單に眼前の必要に應ずる歳入を獲得するのみならず、毎年國費の自然的膨脹に伴つて絶えず新財源を採求するの必要なく、漸次歳費を増加し得るの弾力を有す。

二、國富の淵源たる産業に對して些の支障もなし。

三、國民の全階級を通じて課税し、毫も偏頗の取扱ひを得ることなし。

新税目中、土地の價格に應ずる課税と云ふのを見るのに、(一)土地偶然利得税、及び(二)荒蕪地の二つから成立してゐる。(一)土地偶然利得税と云ふのは土地を買ひ占めてゐた者が、電車亦



は汽車の通じたるが爲め、俄かに其の土地から利益を得た者に課するの税である。(一)荒蕪税と云ふのは將來の土地の暴騰を見込んで、荒地として放任してゐる土地に對する税金である。是の一例を以てしても、如何にロイド・デョーヂが税制を通じて社會政策を敢行せんとする意志の明白なるかを觀取することが出來よう。

上に重くして下に輕き新税制度が勞働者下層階級民に悦ばれ好評を博するは論を待たない。反之、社會の實際勢力者たる上流階級の反抗は激烈を極め、酒商組合は集會を開催して該案撲滅に極力運動することを決議し、地主は代表者を派して政府と交渉を重ねる等、資本家階級の反對運動の烽火は各地に擧げられた。六月二十九日ロンドン商工業者大會が開催され、此處にも鋭き反對の聲がどよみ渡つた。

四月二十九日該案が下院に提出され、敵も味方も全軍を繰出して激闘を重ね、領袖も陣笠も大童になつて渡り合ひ、鋒を交ゆること實に五百五十回、逐條審議に當つて其れに要したる時間十六時間、議事終結したる時は翌朝の七時であつた。以て如何に其の戦闘の猛烈であつたかは容易に想像することが出來よう。該案が議會に提出された時はテームスの水もぬるむ四月であつたが、第三讀會に入るまでに七十二日を要し、秋風ロンドンの街樹の梢に渡り、暮るゝに早きウエスト

ミンスターの議場は、將に嚴冬の寒さを思はしむるものがあつた。

議場の内に於て各派が相牽めき合つてゐる時、社會の各層は各々の利害關係を擁護して極力贊否の兩論を闘はした。有産階級は何處までもロイド・デョーヂの政策を以て英國の社會組織を破壊するものなりと見做し、彼は政治家に非ずして詩人なり、ロイドは實際家に非ずして空想家なり、デョーヂは社會政策家に非ずして社會主義者なりと宣傳相努めた。反之、下層階級民はロイド・デョーヂこそ我等の階級の有する大臣なり、彼の安危は我等の安危なり、内閣の運命は我々の運命なりとしてロイド應援、豫算擁護の會合が街頭に催され、道行く人の目をそばだゝしめた。

ロイドの理想は漸く民衆の楯に守られて、議場に於て層一層威力を發揚して來た。

十一月五日人民豫算案は目出度下院を切り抜け、可決確定せる該案は上院に廻付された。自由黨内閣は光輝ある豫算案の恙なかりを祝した。

## 8、上院との正面衝突

ロイド　デョーヂは一息入れる暇もなく陣容を新たに上院の迎撃に出馬しなければならぬ



かつた。上院は云ふ迄も無く地主貴族の代表であり、資本家階級の代辯者である。彼等が「人民豫算案」を易々と通過させる譯がない。

豫期は誤たず、十一月十六日の第二讀會の開議と共に統一黨の主將ランズダウンによつて第一弾が投ぜられた。

「該案は其の名義からしますと財政案に相違ありませんけれども、實は上院の立法權を巧みに奪取するものであります。且つ財政計畫の陣容を審査しまするに、土地に關する諸税の如き不當極まるものである。是れは土地國有の前提をなすものであります。政府は社會主義の謬見に陥り乍らも是れを公々明々に主張する丈けの勇氣を缺き、他の衣を纏はしめてゐるのである」是れが駁撃の先驅を受け賜つたのは大法官ロールベーンである。

「上院が漫りに歳入に干渉して財政の混亂を來たさしむるは未曾有の怪事にして、今や憲政の危機が到來したのであります。もし國民にしてかゝる妄舉を甘受するとしましたら、上院は爾來下院と政府とを其の掌中の玩弄物たらしめるでありませう」

兩軍鎬をけすつて交戦すること五日、政府は遂に上院に於て敗北し、ロイド・デヨーデの苦心の「人民豫算案」は暗から暗へと葬らるゝの悲運に遭遇した。慘風悲雨、奮闘努力、漸くにして下

院を通過せしめ踏天欣躍したロイド・デヨーデも上院の迎撃に敗軍の將として一時退却しなければならなかつた。

腕を組んで黙想せるロイド・デヨーデを載せた馬車は土を蹴つて疾走し、首相アスキスの門前に停つた。

アスキスとロイド・デヨーデ。自由黨内閣を双肩に擔つて立つ此の二人は、徹宵如何なる戰略を廻らしたであらうか？

明くれば十二月一日、寒風は面を曝らし、議會の屋根に置く白霜を遠方から眺め乍ら、ウエストミンスターに馬車をつかつた二人の政客がある。——其れは問はずと知れる首相アスキスと藏相ロイド・デヨーデであつた。

アスキスは下院開會の劈頭壇上に颯爽たる姿を顯はし豫算案が上院に於て拒絶されたるを報じ、次の決議案を提出した。

「一度本院を通過したる財政法案を否決せる上院の行動は明かに憲法違反にして、併せて下院の權利僭奪なる旨を決議す」

是れに對する反對意見も勿論あつたが、此の決議案は百三十四票に對する三百四十九票の多數



を以て下院を通過した。

## 9、議會解散

元來英國は不文憲法の國である。此の不文憲法に依れば上院は下院を通過した豫算案を否決する權能を持つてゐない。茲に於てか今回上院の執りたる方策は非立憲的行爲である。違憲である。

上院の違憲行爲は智略策謀に富めるアスキス内閣の乗する處となり、昨日の攻手は今日の守手、政府軍は軍鼓の音も勇ましく上院の堅城目掛けて突進した。其の攻防戦は一九一〇年一月十日の議會解散となつて現れた。

時局は急轉直下したのである。

此の時の英國總選舉程激烈を極めた事は、同國の憲法史上未だ曾て無かつた。自由黨、統一黨は各自、己れが牙城を守つて必勝を期し、隨處隨時に行はるゝ會合は一日五千以上に達した。自動車の選舉區を疾走するもの二萬七千、以て民心を我黨に收めんと焦慮した。此の自動車の中二萬臺は保守黨に屬し、残りの七千臺は自由黨に屬した。此の自動車數は兩者の財的程度を明かに

物語るものであるが、是に依つても如何に反政府黨——富豪連が自己の利益を衷失せざる爲、私見を社會に告げて上層階級の城塞を堅守せんとしたかがよく判るだらう。此の攻防戦に参加したる婦人十萬人、以て如何に社會を擧げての政戦であつたかを想像し得られよう。

政府黨は議會が一度解散さるゝや首相アスキスを初め、ロイド・デョーデ、ウキンストン・チャール、ジョン・バーンス等、千軍萬馬の裡に人と成つた巨頭達が自ら肥馬を陣頭に進め、亂射亂撃を物ともせず、奮激突戦した。就中武者振雄々しきは我ロイド・デョーデであつた。ウエールスに於ける彼獨特の熱辯には敵も味方も拍手した。ウエールスの東海岸グリルスビーに於いては深夜演説をさえ試みた。かくの如く自黨の爲めに連日連夜轉戦するロイド・デョーデは自己の選舉區に顔を出す暇もなかつた。其れにも拘らず開票の曉には好敵手ピンセントンを打倒し、千九十八票の大差を示して當選した。此の事實は彼が如何にウエールスの人心を收攬してゐたかを明示するものである。

彼が此の時の政戦の有様を評して、シエクスピヤーの戯曲「嵐」の中に出て来る「精靈」の様だと云つた者がある。此の言や將に正鵠を得たものであらう！

「人間にあらずして、



熱狂せる狂人なり、  
自暴自棄の策略を振ふ。」

## 10、上院との再戦

新議會は一九一〇年二月十五日に開院式が舉行された。

此の議會の勞頭、アスキス内閣の最も憂慮苦悶したのはアイルランド黨との分裂であつた。アスキス内閣は該黨の援助なくしては自立覺束なしとされてゐた。然るにアイルランド黨は豫算案に對して心よからざる點あるのみならず、自由黨のアイルランド自治問題に對する方策にも絶對の信頼を持つてゐなかつた。危機は雲を呼び風をかもし、何時分裂するかも知れない狀況であつた。アイルランド黨の領袖レーモンドとデイロンとはアスキスの誠意を疑ひ、只デヨーデとチャールスのみの心を頼んだ。

「アスキスは交際社會の爲に墮落してゐるが、ロイド・デヨーデだけは舊來の過激主義の半分を保有す」

と彼等は云つてゐた。

事情かくの如き有様であつたから、ロイド・デヨーデを置いてアイルランド黨と握手し得る者は他に無い。商議協調はデヨーデの奇略に待つて初めて成功した。政府はアイルランド黨の支柱を得たる交換條件として自治問題に對する幾多の口約を結んだ。

かくして多難なる豫算案は下院の關を再度通過して、上院の壇上に登せられた。勝ちに乗じたる政府軍は是れのみを以て満足せず、飽くまで上院の改造を謀る目的を以て下の決議案を下院に提出した。

一、下院の財政上に於ける優越的地位の確保。

二、上院否決權の制限。

三、議員の任期を滿五ヶ年に短縮の件。

此の議案は多數を以て政府の勝利に歸し、翌日上院に廻付された。

解散後の下院を再度通過したる豫算案が民意の現れであるは炳如たり、上院は其れに服従するより外に方策はない。該院は一九一〇年四月二十八日、是れを可決した。

ロイド・デヨーデが該豫算案を下院に提出したるより正に一年。何人にも屈服せざる彼の鐵の如



き意志は、萬難を排して初志を貫徹したのである。志大なれば亦悲み多し、華やかなる榮光の背後には、粉骨碎心の苦憂在つて存す。思ひ茲に至れば英雄巨人となるも亦難い哉。

## 11、再度の議會解散。國民保險法案

豫算案は是れを可決した、けれども自由党内閣が畫策したる「豫算案に對する上院の絶對否認權剝奪」は上院の生死に關する問題であるだけに、上院も拱手傍觀、坐して敵箭の標的たること能はず、上院も必死の防戦をせざるを得なくなつた。

政府軍と上院軍は「上院改革案」を中にして相對峙し、陣容整々、落日旌旗を照して軍馬嘶き、黄埃散漫、風蕭々たるの時、突如皇帝エドワード七世陛下崩御の悲報が傳へられた。

皇帝崩御ましましたるが故に、いまはしき戦争を避け、兩軍は軍使を送つて事を圓滿に解決せんとしたが、兩者の主張する處は南北兩極の如く隔絶し到底調和し得ざることが明白になつたので、十一月政府は斷乎たる意志の下に再度議會を解散し、其の是非を國民の判決に待つ事になつた。

第二回の總選舉も第一回のそれと異らない。其の結果も政府軍の全勝に歸した。

前後二回の大政戦に數限りもなき演説をなし、議政壇上に幾度かの大獅子吼をなしたので、ロイドは全く聲を失つて仕舞つた。止むなく彼は、英國、佛蘭西、伊太利の海岸に轉々して靜養に努め、健康の復舊を待つてゐた。

ロイド・デヨーヂは徹頭徹尾活動の權化である。ピイチポローの波靜かに風清き處にあつても、徒らに疲勞を醫すると云ふ様な有閑人にはなり得なかつた。先きに獨逸を訪問した時、いたくも彼の注意を誘ふた國民保險法案を英本國に移植せんとし、専心自から是れが起草にかゝつた。

此の國民保險法案たるや單なる學者の草案ではない。社會の辛酸をなめ盡し、政界の戦塵にまみれて其の半生を過し、しかも一個の社會政策の大綱を把持するロイド・デヨーヂが自から筆を呵して成つたものである。該案の作成完了するや、彼は其の稿を懷中にして再びロンドンの街に其の姿を現した。

議會はロイドから其の法案を受領し、一九一二年五月四日の議會に提出した。

右法案は八十有餘條から成るもので、其の一々を擧げることには紙數に限りある此の傳記の盡す能はざる處であるから、私は單に其の骨子を述べるだけに止めて置かう。



一、保險費用の支出は國家、雇主及被保險者の三者が分擔すること。  
二、掛金は年四回雇主より取立て、雇主は其使用人に支拂ふ可き賃銀より之に對する費用を控除する事。

三、此保險法令に該當すべきものは、終身の癱疾者、一時的疾病者、失業者の三とす。

四、此保險法は所得稅納付の義務を有せざる男女に適用す可きものにして、其の性質上一般のにして且強制的なり。

迂餘曲折幾波瀾はあつたが、ロイドの奮戦は良く此の法案の精神を社會に知らしめ、遂に一個の成案となつた。時に一九一二年の盛夏、七月の候であつた。

## 12、アイルランド自治問題

キプリングの短篇小説中に、變り易い空の有様を描いた下の様な記事がある。

「大きな玉子がえらい勢で大きな納屋の戸に叩き付けられた様だ」と。

寔に此の描寫は生き生きとしてゐる。忽然として變る空の有様が目に見える様だ。

けれども政界の事情はさう瞬間の變化を望むことは出来ない。時に大革命が旬日に成る様な場合が有るが、夫れは單に表面の變化であつて、變化の過程は幾十年幾百年の昔に遡回しなければならぬ。アイルランド自治問題も英國內政の痛であつた、此れが解決には實に多大の年月を要したのである。

今此處に云ふアイルランド自治問題は同問題の全般から觀れば一章にすぎないけれども、ロイド・デューデの傳記を綴る上からすると觀過し能はざる事件であるから、吾人は簡單に記述することにしよう。

自由黨内閣は上院に再度勝利を博するや、三十年來の懸案であつたアイルランド自治問題を疾風迅雷に下院に提出した。猛烈なる反對があつたけれどもアスキスは是れを打破し、一九一二年二月下院を通過せしめた。

處が是れを見て保守黨の首領エドワード・カーゾンは恐る可き大陰謀を企て、以てアイルランド自治案の行手を拒まうとした。ウルスタ地方は、人種上、經濟上、政治上の理由よりして自治を好まない、カーゾンは此の弱點に乗じてウルスター地方の人民を煽動し、武力暴力を以てもアイルランド自治案に抗爭する様にさしたのである。其の結果武装せるウルスターの民軍と英國の正



規兵とは銃火を交へさうにまでなつて來た。アスキス内閣の努力も此處に至つて一大暗礁に乗り上げたのである。

此の時、幸か不幸か歐洲の天空の一角に黒雲が突如として出現した。雨となるか風となるか？英國國民たるもの徒らに内争に汲々たることは能きない。彼等は翻然として此の問題の一時的解決を急いだ。其れは刻下の大事件に處する爲め、暫時の妥協である。即ち戦時中は其の法律に一部の修正を加へ、ウルスター地方のみ自治の範圍から除外すると云ふ彌縫策であつた。

此のアイランド問題に就て、恒に奮戦して來たのは我ロイド・デョーデである。

彼はアイランドと其の血を同じうするウェールスの出身であつたことが一、グラドストーンの崇拜者たりしことが二、自由を愛し弱者に味方する彼の性格が三。此の理由よりしてデョーデが終始アイランド自治問題の味方であつたのは當然のことである。

### 13、婦人參政權問題

十九世の中葉よりして漸く社會の耳目を惹くに至つた婦人參政權問題は、二十世紀に入るに及

んで益々白熱化して來た。

婦人連はロイド・デョーデの自由思想から推して、彼も亦婦人參政權の無二の味方なりと獨斷し、一九〇六年彼を訪問して其の意見を叩いた。處が事は意外であつた。ロイド・デョーデは素氣なく彼女等の要求を拒絶したのである。婦人達は徒らに感情に走つて彼を攻撃した。

一九〇七年十二月、グラスゴーに於て彼は該運動の代表者と會見し、其の意見を求められた。

「自分は該運動の同情者である。けれども尙早の感を脱がれない」と云ふのが彼の返答であつた。

亦次の如く叫んだことがある。

「婦人の權利を承認するは男子の本務であります。けれども暴威を振り、夫を膝下に組敷いて迄參政權を獲得せんとするが如きは自分の組する處ではありません」

女性の過激分子はロイドの是等の文句を耳にして益々怒り狂ふた。ロイドは「惡魔である」とさへ罵つた。

それと云ふのも一九〇六年の總選舉以來自由黨の或黨員は、自分の政治的立脚地を安固たらしめる目的で、婦人に對し婦人參政權に贊同の言質を多く與へた。其れが故に、自由黨内閣の諸星



は恒に此の問題の爲めに悩まされ續けた。ロイド・デョーデも其の一人である。一九一〇年の所謂「聯合法案」には彼は却て保守主義を強調するものなりとして反對したが、一九一一年の婦人參政權案に對しては、一層自由を婦人が獲得するものだとして賛成投票をした。

けれども婦人は由來感情の動物である。メレデイースも云つた様に、「婦人は男子が最後にならさなければならぬ動物」である。

理性に盲目なる彼女等は反對黨に使喚されてロイド・デョーデの眞意も酌まず、只々事有る毎に彼に反對した。平和協會の席上で彼の演説を妨害する爲め、一女子は身體を椅子に結び着けて退場を拒み、彌次的絶叫を繼續して彼の演説を妨げた。亦或時は彼の姿を見るや、一婦人は壇上目掛けてパンフレットの束を投げ付けた。

或時、デョーデは婦人參政權問題を上院で説明する爲め、自動車をかつて途上にあつた。横あゝいから飛び出して來た婦人參政權論者は、いきなり自動車の前に大手を擴げて立ち塞がり、突如車内に飛び込んで來た。

「あなたは今日婦人の爲めに上院で演説をなさる相ですが、是非妾達が享けて居ります苦痛迫害に付いて彼等に御訴へ下さいまし」

と息もつかず懸河の辯を振つてロイドに迫つた。ロイドは此のあられもない姫御前の振舞を終始微笑を以て迎へ、敢て一言も發しなかつた。激昂した二人の婦人は彼の肩を捕まへてコヅキ廻した。而してロイドの明白なる返答を要求した。是れは實に一場の大喜劇であつたに相違ない。當時ロンドンの社交界は此の滑稽なる話柄を以て大いにぎはつたと云ふ話である。

今や英國は婦人參政權を得て是等の挿話は單なる昔話となつて仕舞つた。けれども我國では是れからである。

ロイド・デョーデは労働保險案の成立に引き續き、土地問題に指を染め、土地の整理、地租の改正を試みんと多くの委員を集めて其の調査を命じてゐたのである。其のとき歐洲大陸の風雲雷ならぬものがあつた。



### 第三章 歐洲大戦争

#### 1、大戦争の突發

歐洲大戦争は遂に火蓋を切つて落した。

ロイド・デヨードはもと／＼イングランドに滅ぼされたるウェールズ人であるが故に大國の暴逆無道を憎むの念が強い。茲に於て南阿戦争の時トランスバールに同情して蹴起し、南阿戦争反對論者として國論を向ふに廻し大奮戦したことは私が前に記述した處で、讀者の記憶に新たな記事である。

其處でアスキス内閣が歐洲大陸の戦雲を眺め、愈々獨逸と戦端を開くの決心を堅めた時、平和主義のジョン・モーレイ及びジョン・バインスは其の主義に忠なる處からして臺閣に居を列するを潔しとせず、蹶然政友と袖を分つた。世人はロイド・デヨードが此の二者と行動を共にするだらうと期待してゐた。夫れは彼の過去に於ける戦争反對論、新獨的傾向から推測してかく考へたので

あつた。しかるにデヨードは暫く沈黙を守つて自身の意見を發表せず、世間をして徒らに揣摩臆側を恣まゝにせしめた。

彼が沈黙の戸を開放する時が來た。

彼は突如ロンドンのクインズホールで態度を宣明する演説をなすことが發表された。人氣は非常なものである。入場券は忽ち賣切。

彼は灰色の夏服に黒のネクタイと云ふいでたちで、少しく前に屈みながら壇上に歩を運んだ。

「彼が其の態度を決することは英國の運命に重大な影を投ずるものである」と云ふ氣持は聽衆の誰も彼もが等しく胸の内に蓄へてゐた處である。平生の快瀾さに引きかえてロイドの態度は緊張してゐた、而して眼の奥には何か深き物思ひが溢れてゐた。

彼は口を開いて獨逸に對する戦争は賛成であると明言した。

聽衆は直ちに一つの確心を得た。

「私は私の政治的生涯を通じて行つた事の中で戦争に従事することに反對し、且つこれを憎んだ程顯著なことは有りません。若し吾人が戦争を避けることが出来ないならば、必ず國民としての不名譽を免かれざるを得ないと云ふことを私以上に確信して來た者はないであります。



併し乍ら今やベルギーは獨逸の爲めに蹂躪されてゐる。此小國を助ける爲に世界の人道と正義と自由を擁護する爲めに、吾人は獨逸に對して戦はねばなりません」

ロイド・ジョージはアスキス内閣に踏み止まつて獨逸と戦争を開くことになつた。しかも當時ジョージは藏相の椅子に在つたのであるから其の責任は頗る重大である。けれどもロイドの手腕に信頼する英國民は、彼の戦時政策に對して聊かも疑念を挿むものはなかつた。

## 2、戦時財政政策

戦時にあつては外には軍隊、内には財政の處理が第一である。兩者の内其の一つを缺く時は、とんだ悲運に陥らぬとも限らぬ。大藏省の責任たるやまた絶大である。

空前絶後の大戦争に面接して、さすがのロイド・ジョージも政策確立上、迷はざるを得なかつた。何から着手していいのか……彼は速時海運業者、政治家、保険業等の第一流の人物を官邸に招致し、腹藏ない専門の意見を開陳して貰つた。従來、彼は資本家、富豪の強敵である、従つて彼等のロイドを目することサタンの如くであつたが、一度膝を交へて懇談數刻を移す間に、ジョ

ージの人格は彼等の胸に反映し、「人好きよくして信頼す可き人物なり」と異口同音に叫ぶのであつた。ジョージも此の國家の危急を告げてゐる時であるから従來の行き懸りを脱却し、出來得る限り専門家の意見を聞き、包容寛大の度量を示した。

一九一四年六月大戦参加以來、ロイド・ジョージの戦費支辨、金融調和の苦衷は想像に餘りある。其れは單に英國の戦費のみに止まらず、聯合國の戦費までも支辨しなければならなかつたからである。是れが違算なからしむる爲めには彼を待たねば、到底他に人は莫かつたらう。

一九二四年八月、開戦早々軍費を支へしむる爲め、取敢へず議會をして政府に軍事費一億磅支出の信任投票を行はしめた。次いで同年十一月、二億二千五百萬磅の信任投票を得たのである。當初軍事の支辨方法としては大藏證券の發行、並に英蘭銀行よりの歳入前渡しであつた。其第一回の分、一億萬磅の内、七千五百萬磅は聯合國及殖民地への貸付金であつた。是れを以て見るも英國が聯合國の大藏省の役を勤めたことが了解出來よう。

此の信任案の下院通過に依つて、一時の火急は切り抜けることが出來たが、戦争はなかなか山が見えない。ロイドは第二回の信任投票を得た翌日、正式の軍事費豫算案を議會に提出したのである。



第二回の戦時豫算案が議會で議せらるゝの日、ロイド・デョーヂの説明の一節に曰く、

「英國は此戦争に關係ある處の聯合國側に對して如何なる務めをなすことが出來ますか？ 英國は聯合國側の爲めに海上を支配することが出来る。英國のなし得る第二の務めは何んであるか？ 勿論英國は大なる陸軍を編成して、其の國民の全部が兵士となり、歐洲大陸の如何なる國の陸軍にもひけを取らない様にすることです。而して第三の務めは何んでありませうか？ 其れは英國がナポレオン戦争の時に對したる處の務め、即ち聯合國の財政上の負擔を引き受けることである。換言すれば必要品を買取つて之れを聯合國に送付すること、又軍需品及戦争に必要な器具を製造して聯合軍を助けることであります。かくして今は夥しき金を準備しなければなりません。戦争の資本は兵士ばかりではない、正金を必要とするのであります。」

亦ロイド・デョーヂは戦費に就て會見した人に次の如き言葉を洩してゐる。

「我々は有らゆる資源を必要とします、其れは單に人間のみならず、現金を必要とする。我々は曾ての大戦争の時歐洲諸國を財政的に援助しました。其の爲めに勝つたのである。勿論英國人の勇氣英國人の不撓不屈の精神が常に役立つたのは申すまでもない、併し英國の正金が其の効果を發揮したのを忘れてはならない。敵が悉く疲勞困憊した時、我々は第二の風、第三の風、

第四の風を吹き送らなければなりません。」

是れに依つて藏相たるロイド・デョーヂの覺悟をほゞ悟ることが出來よう。

一九一四年度、即ち翌年三月末日迄の歳入不足額三億三千九百萬磅の財源に充當す可く、所得税、麥苗税等の増率を行ひ、其の他は公債募集に依ることを議會に計つた處が、議會は異議なく之を可決した。

英國は人も知る如く世界金融の中心である。其れだけに一度其の方法を誤れば、世界に對する信用を失墮して永久に陥没しなければならない。財界救済の計畫は實にロイド・デョーヂの大任であつた。

第一の手段として彼は支拂延期法を制定した。これは爲替手形其の他の總ての契約上の現金支拂を含むもので、支拂期日を一ヶ月延期し得るの法律である。不可抗力の突發に依り債權は多く是れが取立て不能に陥る一方、債務の取立てを強制すれば金融界は大混亂に陥入り收拾す可からざるに至るを慮つての法律であつた。

第二は銀行休日を延期し得るの法律、

第三は戦時強制保険法、



第四は英蘭銀行に對する方策。公定歩合を六分に低下し、續いて五分に下げ、極力人心の安定を策した。亦英蘭銀行振出の爲替手形割引に因る損害に對しては政府は保障の任に當り、以て更に一段と金融の圓滑を謀つた。

是等は悉くロイドの腦裡から案出された應急手段であるが、其の策よく時機に適し、財界の混亂、引いては戦争の勝敗を其の危きより救ふことが出來た。

### 3、軍需品缺乏

戦争開始以來、英國當局の頭腦をなやましたのは軍需品の問題である。獨逸は幾年かの計畫に基いて戦争を開始したのであるから、日頃此の方面に關する研究、覺悟、用意は萬端整備した。其れに引きかへて英國は彈丸硝藥の蓄積足らず、英國の陸軍省は全能力を擧げて此れが補充に努めたのであつた。けれどもかゝる大規模の軍需品生産は一朝一夕にして出來るものでない。英國は古來工業立國の一等國であるから工場は恒に盛んに煙突から黒煙を吐きつゝある。けれども其の工場たるや一般工業品の製造であつて、小銃、野砲、白砲、彈藥の工場ではない。しかもかゝ

る工場を建設する前に此等の軍需品を製出する機械其の物を作らなければならぬ、しかも其の機械にして自國で製作し得ぬものが多々ある。一日を怠れば一日の敗北を來す有様であつた。

英國は自國の軍需品製造に日も夜も足らぬ状態にあるにも拘らず、其の上聯合國諸國に對して砲彈の心配をしなければならなかつた。セルビヤ、ベルギー、露西亞から山積する注文が殺到して來た。

かゝる状態に圍繞せられてロイド・デヨードは一日も閑を得ることは出來ない。アスキス内閣を鞭達して軍需品急造を獎勵したる第一人者はデヨードである。

一九一五年二月バンゴールに於て彼は壇上から民衆に呼び掛けた。

「今回の戦争は工業家の戦争であります、我々は人を必要とするよりも先づ第一に機械を必要とする。我々は人を要求します。けれども我々は人よりも寧ろ武器を要するのである。事態斯くの如くなるが故に、今武器の製造を躊躇する者は我國家に取つて最も危険なものである。」

ロイド・デヨードは聯合國の經濟會議に出席する爲め、佛蘭西に赴いた機會に、彼國の軍需品製造状態を親しく視察することが出來た。彼が一大教訓として感銘したのは、佛國は軍需大臣トーマの旗下に全國の工場を國有とし、強制的に大規模な軍需品製造を敢行し、着々實質を擧げてゐる



ことであつた。他の長を取つて己れの短を補ふに吝かならざるデヨーヂは歸國するや否や、各處に軍需品製造の急務を警告し、亦其の實行に移つた。一九一四年の秋、彼がキツチナー將軍の室に於て工業家と會見し、夥しき注文を發し、亦米國、カナダに對しても巨額の取引を申し込んだ。けれども猶、急を告ぐる軍需品の消費に應ずることが出來ず、政府非難の聲はいやが上にも高まりつゝあつた。キツチナー將軍も亦其の必要を痛感し、英國にして武器彈藥器械を戦線に供給するに非ざれば、何れの國か勝利の榮冠を戴くことを得んと公言した。

かゝる難境にあつてロイドの自由なる活動を牽制したのは労働問題である。

是れより先き一九一四年の春より夏にかけて英國では労働問題が喧騒を極め、ストライキは續發し、政治家も亦是れが解決策に腐心した。今や國家を賭しての戦争である。此の時にしていまはしき階級争闘が勃發したらんには軍需品の製造は杜絶し、如何に精銳なる軍隊を戦線に有するも後方より戦陣は崩壊するであらう。ロイド・デヨーヂの煩悶は此處にある。彼は同盟罷工の豫防策を深く考慮し、仲裁裁判の規定を軍需法中に設け、其の裁判に服せざるものを斷々乎として制裁するの決意を示した。

さる程に戦況は聯合國の側にかんばしく發展しない。アスキスは議會を制する多數黨ではあるが、國家の安危を擔ふ言葉通りの舉國一致内閣ではない。社會はもつと有力な内閣を要求してゐた。アスキスは自ら進んで、在野の各黨、黑白を打つて一丸とする内閣を作るに至つた。

八面六臂の力量を有するロイド・デヨーヂは大藏大臣の席を讓つて改造されたるアスキス内閣に新設されたる軍需省の大臣となつた。

#### 4、軍需大臣として

甲冑に身を堅めた鎧騎が刀槍を揮りかざして敵陣に猛突した時代の戦争はいざ知らず、現時の戦争は機械、科學の戦争である。機械、科學は魔杖の先きから瞬間に生れる様な譯にはゆかない。此れを生むのには多大の年月を要し、組織を必要とする。新設軍需省の大臣として就任したロイド・デヨーヂは何を置いても軍需品急造に關する組織を考慮した。

ロイド・デヨーヂが頭腦を絞つて案出した軍需急造組織。是れは吾人の一大教訓とする處である。今や不戦條約は成立し、世界は戦争の慘禍を出來得る限り回避せんとしてゐるけれども、世界は未だ戦争絶無の域に迄は到達してゐない。資本主義を背景とする帝國主義は平和の假面に暴



唐の面を包んで、海から陸から其の機會を覗つてゐる。我島帝國が亞細亞平和の指導者たるは云ふまでもない。けれども無武裝にして平和を唱導する程世界の平和は未だ結實しない。吾人は平和を永久ならしめんが爲めには、其の過程として武裝を益々堅くしなければならぬ。事情かくの如くなるが故に、ロイド・デューヂが歐洲大戦争に際して執りたる軍需品製造の組織は、他山の石として大に参考にしなければならぬ。

私はかゝる見地よりして比較的此の項を詳論繼續して見よう。

デューヂは一九一五年七月二十八日、軍需省の事務進捗に關し下院に於て演説を試みた。其れに依つて彼の覺悟、組織、政策、實行手段を觀取することが出來よう。徒らなる記述よりも彼自身の舌端より出でたる報告であり、計畫であるから是程確實なことはない。

臨時職員設置。

彼は謂ふ。

「平時に在りましては長時間に職員を銓衡することが出來ますが、時局緊急の事務に鞅掌するに方つては此方法に頼ることが出來ません。吾人は幸にして實業界に於ける多くの人士を獲て此の任に膺らしむることが出來たのである。是等の人々は學識經驗兼備の士、其の中の若干は現に重大な事業に鞅掌して居られます。軍需省の爲義勇的に事務に従事せる第一流の實業家は九十を下らず、而して其の大半は全く無報酬で奉公してゐるのであります。其の内の若干名は大會社の取締役なるが故に、従來は其の關係會社から多大の年俸を給與されてゐたのであります。かゝる巨額の年俸は到底國家の支給し能はざる處、彼等は無報酬で省務を翼賛して呉れてゐるのであります。かゝる援助がなければ此一大官省を速成することは出來なかつたのであります。」

此の演説の一節の引用でも明かな様に、ロイド・デューヂは資本家、技術家、工業家一流の人々の援助を得て、開戦以來の缺陷であつた軍需品急造の重任をはたさんとしたのである。翻つてキツチナー將軍の軍需品政策を見るのに、彼は一個の軍人である、何處までも従來の方法、平時の方法に依つて此の急を救はんとした。其處で火急の間に合はないのであつた。亦將軍は軍服着用者なるが故に、英國の工業社會に通曉せず、工業家を利用し、彼等の援助を得て俄かに製造能力を發揮すると云ふ様な氣のきいた芝居は打てなかつたのである。

軍人は兎角一面的である。しかるにロイド・デューヂは社會の各方面に觸れて來てゐるので多面的になつてゐた。氏の多面的と云ふことがかゝる政策を生み出したのである。



軍需義勇軍。

亦茲にロイド・デヨー自身の言葉を借りて來る事にしよう。

「軍需義勇軍とは何んであるか？」

此の義勇軍は員數から云へば一大成功を収めました。其の軍籍に編入せられたる者十萬人に達し、其の大半は製作工業及造船業に於ける熟練職工であります。然るに茲に困難なことは其の全部を政府の仕事に使用することが出来ない點であります。

何故か？

是等の職工は自ら知らずして、間接に政府の仕事に従事してゐるからであります。今其の一例を舉示しますのに、造船所に於ける螺旋及繋釘の製作に従事する職工がりましたが、其の大部分は今回義勇軍に投じました。然るに吾人は是等が軍需品製造業及造船業の材料たることを確認しました。

其處で吾人は此の種の事業に従事する人々を諸造兵所に供給し得る人名録から除去しました。又他の一例を上げるのに、義勇軍に投じた職工中、一見軍需品の製造に關係なき者にして、實は國民の生命の持続上緊要闕く可からざる業務に従事してゐるものが有りました。例へば或る

職工の如きは軍用ビケットを製造する機械の製作に従事してゐる……其處で政府は當然彼等を使用することが出来ませんでした。

是等の理由よりして十萬人中其過半數以上は使役することが出来ませんでした。

其處で吾人は軍需義勇軍に編入し得ざる者を大別して三種とします。

- (一) 間接に軍需品の製造事業に従事する者。
- (二) 重要な事業に従事する職工にして其の全部を移動すること能はざる者。
- (三) 直接に政府の事業に従事し、全然他の事業に移動し能はざる者。

吾人は第一に是等の義勇兵を有する工場主に通牒し、以て工場主側に於て其の義勇兵の移動に付異議なきや否や、若し之れ有りとすれば其の異議の理由を回答することを求めました。

義勇兵中既に役務に就いてゐる者もあります。吾人は旬日を出でずして更に衆多の義勇兵を政府の註文品製造の諸工場に送致することが出来るでせう。其の他の義勇兵に就ては吾人は別に大規模の計劃を以て豫備軍編成中である。」

彼の言葉を讀んで見ると、實に細心の注意を拂つて軍需義勇軍なるものを編成してゐる。軍需義勇軍なるものが甚だよく時機に適したものである上に、かゝる注意の下に編成したのであるか





ら、他の事業に悪影響を及ぼすこともなく、其の効果を収めたのは實に祝賀す可きことであつた。社會の事象は多元的であり、複雑であり、數多の因果關係が錯雜紛糾してゐる。是れに通達せずして一元的に事を遂行せんとすれば必ずや計劃に大破綻を來たすは火を見るよりも明かである。實にかゝる計劃組織はロイド・デヨーデの様に社會の多元性を透視し、見極むるの能力を持つた者でなければ不可能な仕事で、吾人は彼の巨材たることを痛感する。

#### 砲彈と共同製造區域

ロイド・デヨーデは猶一步を進めて、其の方法を説いてゐる。

「吾人の採りたる方法は、三種に分つことが出來ます。吾人は全國を數個の大共同製造區域に分ち以て軍需品製造の爲、其の區域内の全部の機械を流用せしむることゝしました。吾人は各區域内に執行委員會を設置し、以て砲彈及其他の需品の産額を増進するの目的を以て全部の機械を編成せしむることゝしました。吾人は各委員會の希望に依り練達の技術者を附屬せしめました。技術者の任務は、會務を補助し、且又委員會をして砲彈及必要の砲彈各部の製造の爲該地方にある全部の機械を流用することを得せしむるにあります。」

共同製造區域の設定は、其の區域内にある機械を流用し、其の機械の全能力を完全に、あます

處なく發揮せしめようと云ふのであつた。

#### 國立工場

共同製造區域を設定せるだけでは満足せずロイド・デヨーデは國立工場を設置することにした。

彼は自から説明して曰く、

「私は全國各地に十六個の國立工場を設置しました。是等の工場の管理は國家自から當り、其の經營も國家的に行はれ可きものであります。刻下吾人は是等の工場に所要の機械を裝置し、又所要の勞働を供給して居ります……」

惟ふに是等十六個の國立工場が全力を以て活動する曉には、我陸軍に供給す可き砲彈の産額は著しい増加を示すであります。

公立砲彈製造工場は民間に於ける工場の共同製造計畫に優る點は、經濟的である節であります。今日我々が購買するよりも遙かに低廉な價格で砲彈を製造することが出来るでせう。國立工場に於ては民間の工場に比し管理一層行届き、又勞働に關する紛争も少ない。

けれども苟も我國の富源を細大洩らさず利用しますのに國立工場だけでは足りない。國立工場と、民間工場とが併立して行かなければなりません。即ち吾人は兩者併置の全利益を收めん



とするものであります。

從來砲彈不足の一理由は、砲彈を仕上ぐるに必要缺く可からざる或特殊部分の不足に基くのであります。特殊の組成部の供給を増加するの必要があります。

是れ吾人が國立工場を新設するに至りました所以であります。」

國立工場を新設しなければならなかつたのは云ふまでもない。けれども國立工場の長處と民間工場の秀拔な點とを良く分別して、兩工場を併置し、長短を互に補足せしめ、以て英國全土の富源を最大限度に於て利用し、生かして行かうと云ふロイド・デヨーヂの政策は實に卓見であつた。諸器械製造。

ロイド・デヨーヂは説を繼いで云ふやう。

「是れより先き吾人が是等の新供給資源を編成するに方り、直ちに遭逢したるは其の目的を達成す可き機械のいちどるしく缺乏してゐたことでもあります。王國にある一切の器械に關する現勢調査を行つて見ました處、全國工場より得た回答は四萬通に達しました。是れによつて政府の使用に適するもの多々あることを知りましたが、大口徑の砲彈製造に使用し得る器械の寡少なるに愕きました。

是れを以て、吾人は全國にある一切の器械製造業者を政府の監督の下に置くことに致しました。

吾人は此の方法に依り今後數ヶ月間に軍需品製造に必要な器械の大增製を見ることが出来るであります。

此の手段に依り、砲彈製造高を大に増進するは不可能でありません。また緊急の事情突發せる際、僅少の日子を以て從來よりも多量の軍需品を製造するの餘力が著しく伸暢し得るであります。

吾人は朝には或る特殊の砲彈を、夕には又他の砲彈を製造する必要が起るかも知れません。是等の需要は時々刻々變遷して止まる處を知りません。——吾人は是等の目的を達成し得可き器械を國內に具備しなければならぬのであります。

吾人が國內に器械を全備するときは、從來の如き需品を海外に注文するの必要がなくなるであります。若し莫大の軍需品を海外に注文する時は、必ず現品交換に正金を支拂はなければならぬ困難に遭着するは必定であります。亦外國に注文する場合には、國內に於けるが如き現品の監督は不可能事であります。加之海上輸送の困難がある。是に由つて之を觀ますれば、



吾人は能く爲し得る限り軍需品を製造する爲、自國の勞働並に自國の器械を利用するは極めて有益の業でなければなりません」

英國はどつちかと云へば開戦以來少しく呑氣であつた、緩慢であつた。時間に依つて敵を征服せんとしたのである。アスキスは平時の政治家として非難の打ち處はないが、突發的事件に處して迅速を尊ぶ時の政治家ではない。ロイド・デューヂは彼の性格上變時に處し變通自在の妙技を發揮し得る底の政治家である。

#### 一大新計畫。

英國は兎角戦争を對岸の大災視してゐた、其れが故に軍事上の缺陷を多く數へることが出来る。其處に行くとは佛蘭西は初めから國の安危を賭しての大戦であるから、其覺悟に於ても英國に遙かにまさつてゐた。ロイド・デューヂも佛國の地を踏み、佛國の政界當時者と會合した結果、其の學習する處が少なくなかつた。

ロイド・デューヂは猶進んで彼の覺悟を表示して曰く、

「數週間前、予はブウロニスに於て、佛國軍需大臣と樞要の會議を遂げました。佛國陸軍及我英國出征軍の錚々たる砲兵科將校等參席し、軍需品問題に關し、實戦より得たる教訓に就き

報告を提出し、比較研究を行いました。此の研究及其れに續いて行はれました研究會の結果、一大新計畫を樹てなければならなくなつたのであります。」

ロイド・デューヂは此の演説の中に於て婦人の勞働參加を力説してゐる。其れも亦佛國獨國の故智に學んだものである。

以上の研究家、實戦家の報告に基き、ロイドは英國に歸還するや無數の重砲の鑄造を開始した。陸軍省はかゝる重砲が果して必要なりや否やさへ疑つた。しかも軍事専門家でない我がデューヂは敢然として自己の思ふが儘に振舞ひ、重砲の製造に取り掛つた。其れがどれ丈け英國陸軍の役に立つたか？ 續て起り來つた戦場の報告により善く證明されてゐる。

#### 發明の尊重。

ロイド・デューヂは發明の尊重を力説して止まない。近時の戦争は腕力の闘争でなくして、智力の競走である。デューヂは發明の實戦に貢獻す可きことを慮かり軍需省内に發明部を設け、發明を發明として放置せず、直ちに實戦に應用せんとした。

#### 禁酒委員。

ロイド・デューヂは語を成して曰く。



「予は軍需品及び其他の製造区域内に於て飲酒を禁止せんことを希望します。禁酒委員を設け、此等の區域を巡回遊説せしめつゝあります。禁酒委員の計畫は單に飲酒を禁遏すと云ふ丈けが目的ではない、更に進むで茶菓を工場内の職工に供給するのであります。」

一九一五年四月二十九日、英國政府の發表した處に依れば、造船所及軍需品製造所所在地に於ける飲酒の惡習慣が猛烈に跋扈しつゝあることを報告してゐる。此の報告に接して以來、政府の要人——殊にロイド・デューヂは酒の過飲に就て大膽な方法を執らねばならぬことを決意した。

彼は最も嚴格なる禁酒主義を戦時の英國に施行し、全國民の能率を發揚せんとした。ロイド・デューヂは大藏省時代に酒を國家が買ひ上げると云ふ案を作成したが、是れは政府の肯定する處とならなかつた。是れにひるまず、第二回の戦時豫算案に於て、麥酒其他のアルコール含有飲料に對し、新たらしき附加税を課するの計畫を樹てたが、議會は是れに猛烈な反對を浴びせ掛けたので、實現の運びに達せずして止んだ。

酒の國家直營、及び直接の管理にはロイドは失敗した。けれども軍需大臣となるに及んで又々禁酒令の實現を期したのである。

彼は軍需大臣として苟も軍需品が製造せらるゝ處に於ては、酒の販賣に對する一種の禁止法を

實行するの案を立てた。

此の法案の中から私は右の要項を採出することが出来る。

- 一、軍需製造地方に於ける曖昧料理屋を閉鎖すること。
- 一、酒販賣の時間を短縮すること。其の代りに簡易なる料理店の數を増すこと。
- 一、食物及び藥品法に依つて定められたる以上にアルコール分を稀薄ならしむこと。
- 一、アルコールの販賣を禁止すること。

軍需品の製造區域範圍はイングランド、スコットランド、ウエールの約三分の二を包含するが故に、此の法案の實施區域は殆んど英本國全土に及ぶものと見てもさしつかへはない。従つて該法令の効果も又大なるものである。

此法令實施後二三ヶ月の後、カーライル地方に現れた數字を見ると、其の効果の絶大なることを知悉することが出来よう。

是を具體的に讀者に知らしむる爲、少しく繁雜ではあるが其の數字を引用して見よう。

(イ)一九一六年六月以來泥醉人の數が著しく減少。(ロ)四五軒の曖昧屋を閉鎖す。(ハ)アルコールを賣る店百一軒ありしが十七軒に減少。(ニ)土曜日酒を賣らざること。(ホ)珈琲店、酒を



賣らざる料理店の増加。(へ)二十八軒の酒屋は食物を賣る。(ト)種々なる混合酒の廢止。(チ)夜間の軍需品製造の職工に對し珈琲車を作りて便利を與ふ。

此の大膽なる法令が如何に社會に及ぼしたかは、此の報告丈けによつて明白に觀取し得る。殊に勞働階級に及ぼしたる好影響たるや絶大である。夫れが軍需品製造に従事する勞働者の能率を増進せしめ、戰爭の最後の幕にまで及ぼしたことを思へば、ロイド・デョーデは實に英國の救主と云はねばなるまい。

## 5、キツチナー將軍の死と陸相就任

號外の鈴音に慣れたロンドン市民も餘りに鈴の音がけたましいので何事だと窓から頸を差出して街上を見た。

「キツチナー將軍が死んだ」

一九一六年六月、陸軍大臣キツチナー元帥の一行は、露國に赴むかんとする途上の北海に於て乗船ハンプシャー號と共に布設水雷に觸れ、海底の藻となつてしまつた。

キツチナー將軍は英國の生きた英雄であつた。將軍がスーダン及び南阿に於て樹てた戦功は、將軍を崇拜敬慕の中心とまで祭り上げてしまつたのである。生ける軍神であつた。併し其の軍神の名を恥しめざる程の人物であつたらうか？ 其れは一つの疑問でなければならぬ。

さはあれ、兎に角英國人は此大戰爭の中にあつて、信頼してゐた陸軍の大立物を突然海の彼方に失つたのである。問題は彼の後任者であつた。

アスキスは直ちにロイド・デョーデに陸相たるの白箭を立てた。

ロイド・デョーデは開戦當時の藏相として財政處理の大任に當り、戦況可ならざる爲め軍需品製造の大改善を要する時、新設の軍需省に入つて軍需大臣となつた。今や海軍の大元老キツチナー將軍逝くや、選ばれて陸相となる。彼の榮譽も大であるが、デョーデの往く處一として可ならざるなき手腕はほんとは驚嘆に價する。

彼はげにや「力の人」であると云つても過言ではあるまい。

ロイド・デョーデが陸軍大臣に就任した時にはアイルランドの反亂も終熄し、長い間の問題であつた軍役法も採用可決された結果、強制徴兵の制が確立した後であつたから是等の直接責任者だと云ふことは出来ない。けれどもデョーデが軍需大臣たりし當時強制徴兵制の熱心なる支持者



たりしことは内外の熟知する處であつた、是が確立を見たるは實に彼に負ふ處が多い。

陸軍大臣の要職に就くや、彼は慄悍無比なる彼れ獨特の大精神を發揮して、一九一六年七月以來の佛白戦線の大攻撃を開始した。此の大攻撃は必ずしも好結果をもたらさなかつたけれども、獨軍を一步たりとも塹壕の外に出さしめず、敵軍をして此の方面へ進出するの念を斷たしめたのには大なる功勞がある。世界各國は英海軍の威力は是認したけれども、英陸軍の威力は是れを肯定しなかつた。けれどもロイドが陸相になるや、銳意陸兵の増員に努力し、軍需品の蓄積改善に向つて刮目す可き働きを爲し、英國陸軍と雖も大に成すあるを宇内に知らしめたのはロイド・ヂョーヂの力である。

戦線に於ける勞力の缺乏、鐵材の拂底、等は後方の鐵道建設に一大障害を來し、引いては戦捷を危ぶからしめた。ロイド・ヂョーヂは此の缺陷に着目し、鐵道専門家ガイグラネットと軍事鐵道局總裁ゲデスの二人を佛蘭西に派して英軍後方の鐵道網を視察せしめた。其のもたらしたる調査に依り、莫大なる機關車、貨車、軌道を必要とすることが明白になつた。意を決したる彼は本國の旅客の不便を犠牲となし、可能的多數の鐵道用具を歐大陸に運搬し、以て後方の憂患を消除した。

## 6、軍事會議

ロイド・ヂョーヂ身を陸相の職に委ね、直接戦争に直面して見ると、アスキス内閣の戦争に對する不備な節々が霞の晴れ上る様に判つて來た。頸敵獨逸と砲火を現に交へてゐながら戰略施設がやゝもすれば緩慢遅延し、事毎に敵に先手を打たるゝの有様であつた。ロイドの不滿は被ひ隠す譯にゆかなくなつた。

彼は軍事會議の改善を施さなければ敏捷活達の行動を望むも、到底是れを得可らざるを悟つた。

「軍事會議は議員數は七名だが、此れに出席する者の數は内閣員全部である。是れでは船頭多くして船山に登るのも無理はない。」

是れをどうにかせねばならぬ。」

陸相の椅子に凭り掛りながらロイド・ヂョーヂは腕をくんで、しかく考へたのであつた。

當時戦局はどんな風に發展して居たであらうか？



ベルギーの首府アントワープは陥落し、僅少の援兵を英國から送つたが、是れは何んなく敗北してオランダに遁入し、木乃伊取りは木乃伊になつてしまつた。英國の持物であつたフランダール地方は英兵が手薄であつた爲、機を見るに敏なる獨兵に席捲され、不利な形勢を益々不利に導くに至つた。

土耳其ガリポリの攻撃も何等寸功を立てずして退却するの止むなき有様。

巴里の郊外まで迫つて來た獨軍を撃退することは幸に出來たとしても、産業的に重要な一萬七千萬哩の土地は敵軍の占領する處となつて奪還の日何れの時か判らないと云ふ始末である。

バルカン外交は失敗の跡歴然たるものがあり、只ルーマニヤをして漸く味方に引き入れたかと思へば、軍需品を補給するの方策を誤つてゐたので、可惜中歐同盟の地盤を固めしむるの役に立たしたにすぎないと云ふ哀れな結果を招致してしまつた。

要するに、英國の軍事會議は失敗に失敗を重ねつゝあつたのである。

是れのみならず戦況思はしからざる英國國民は憂の眉を擧めて話し合つた。

「亦潜航艇が商船を撃没した相です」

「此の頃は毎日ですよ」

「こんな事をしてゐたら、しまひには食料の道が斷たれはしますまいか？」

「其れまでにならなくとも、食料品、必需品が騰貴してやりきれなくなりますね」

「生活の脅威です」

是等の會話は何を示すであらうか？ 大英帝國の制海權も其の光が段々消滅して心細くなつて來た。

「軍事會議」、是れをどうかしなければならぬとロイド・デョーヂは深夜、密かに心を痛めたのであつた。

## 7、アスキス内閣の倒滅

ロイド・デョーヂが國民不滿の聲に應じ、輿論遂行の急先鋒として猛然蹶起するの秋が來た。

時に一九一六年十二月二日、ロンドンの街々にはロンドン名物の霧が深く立ちこめて、巷りに爐邊の戀しい時であつた。

アスキスと向ひ合つたロイド・デョーヂは深き決心を面に浮べて語り出した。



「軍事會議の委員數七人を四人に減じようでは有りませんか。カーゾン、ボナー・ロー、他に労働黨員一人、其れに不肖私の四人が引き寄せませう。首相あなたは非常に御多忙の身であるから是の會議に列するには及びませぬ」

而してロイド・デヨーヂとしては内閣と雖も軍事會議の決議に容喙する事は出来ぬ様にしてみ  
たかつたのである。内閣從來の病根は主としてアスキスの優柔不斷と、外務大臣グレー一派の軟  
論にあることを宜しく知解してゐたから、軍事的最高會議はロイド・デヨーヂ一派にて是れを掌握  
せんとしたのである。

翌日アスキスはデヨーヂに對し、

「私は貴下の提唱に賛同することは能きぬ」と拒絶した。

其處でロイドは一步を譲り、首相も顧問役として軍事會議に時々出席し得るの權限を認めんとした。十二月四日の朝、アスキスは軍事會議改造賛成の覺書を交付した。

四日の午後首相は下院に於てほど同一の改造意見を公言し、ロイド・デヨーヂの主張はほど實現されるらしく觀取された。

處が豈圖らんや五日の「ウエストミンスター」紙其の他二三の新聞は下の如き記事を掲げて事の  
以外なるに世人を愕かせた。

「ロイド・デヨーヂの軍事會議より首相を除かんとするの提議はアスキス氏によりて拒絶せられたり。首相は軍事會議の減員には同意するも、其の會議は身自ら主宰せざる可からずとの意見  
を有す。アスキス氏の此の決心は最後のものなり云々」

此處まで時局が驀進して來ると、反つてロイド・デヨーヂの行動は開放された形になる。  
即時、彼はアスキスの手元まで辭表を呈出した。

首相アスキスは五日、各閣僚と個別的に懇談を遂げ、同志の糾合に努めた。亦一方急進派に屬  
するボナー・ロー、當時野にあつて政府攻撃の急先鋒であつたエドワード・カーゾン等とも鳩首協  
議した。

其の結果、アスキスも自分の力では時局を收拾す可からざるを悟り、辭表を闕下に捧ぐるより  
外に採る可き策なきを決心した。

國民大多數の輿論を背景にして蹶起した急進派が根本的に軍事會議の組織を改革せんとしたの  
である。而して此の急進派の代表的人物であつた。



## 8、ロイド・デヨーヂの組閣

事態は急轉直下した。

一九一六年十二月七日、午後七時、首相アスキスの辭職は皇帝に依つて聽許された。

皇帝は乃ちボナー・ローを召して内閣組織の天命を賜つた。

ボナー・ローが内閣を組織せんか、統一黨はこぞつて彼を支持し援助せんも、時は歐洲大戦争であり、一政黨の力のみを以てしたのでは國民全般の信頼を得ることは出来ない。明敏なるボナー・ローにして此の事情を觀過する様なことはない。ボナー・ローは軍事會議委員中であつて急進猛擊論者であり、今回のアスキス對ロイド・デヨーヂ衝突拮抗事件に際しても、不斷ロイドの聲援者であつた。かゝる關係にあつたボナー・ローはロイドを推薦して總理大臣たらしめ、自身は一大臣の職に任じて自己の政策を生かすにしかずと決意したのである。彼はロイドを推舉するに躊躇しなかつた。

一九一六年十二月六日午後、ロイド・デヨーヂは國王デヨーヂ第五世の召に應じて、バツキング

ハムの宮殿に參内し、優渥なる勅語を賜ひ、内閣組織に着手した。

彼は電光石火の速力で事を進めた。聯合國と同盟諸國は歐洲大陸で決戦中である。一刻一瞬たりとも空費す可きではない。

ロイド・デヨーヂは保守黨のボナー・ロー、エドワード・カーゾン等、自己と意志相通する者を拉し來つて内閣員たらしめた。保守黨からミルナーを抜き、自由黨内の反對を一蹴して無任大臣にした。亦バルフォアに乞ふて外務大臣の重任を負ふ事を承諾せしめた。かくして保守黨の巨頭は悉くロイド・デヨーヂの傘下に集り、彼の指揮命令を待つことになつた。

瞬時にして新内閣の柱石は据えられた。デヨーヂは猶馬を長驅して労働黨と握手する段取を開始した。彼は十二月七日労働黨代表と胸襟を開いて折衝する幕になつた。

先づ労働黨の協力を要求し、労働省を創設して労働政策の統一を進め、労働黨より大臣を任命すること、亦別に恩給局を設け是亦労働黨員をして總裁たらしめること、鑛山、食料、船舶は國家が出來得る限り管理の方針を執ること、荒蕪地耕作をする爲に労働者の協力を要すること、等を述べた。

するとロイド・デヨーヂに對して労働者代表から多くの質問の箭が放たれた。



「獨逸の軍國主義を破つて英國の軍國主義が夫れに代るのではないでせうか？」  
デヨーヂは是に返答して曰く。

「若し斯る事が戦争の結果、現はれるとしたら其れは一大悲劇である。軍國主義が全歐洲を通じて撲滅せられないならば英國人の流した血は無意味である。」

「戦争後徴兵制度は繼續しますか？」

「我々が戦争に勝てば、勿論徴兵制度は廢止します。」

「決定的勝利を得る迄此の戦争を繼續するの意志がありますか？」

「中立國若しくは敵國よりの提出條件が合理的のものであるならば我々は直ちに夫れに耳を借さう。我々は我々の子供達が徒らに殺傷するのを好まない。但し我々が獨逸と談判を開始するに先んじ、我々は獨逸の眞意を確かめなければならない。」

内容はかくして終了した。労働代表は別室に退き協議をした處が、十二對十七の多數を以て、労働黨は新たに生る可き政府を援助することになった。

かくして労働黨の態度は決定した。

自由黨とロイド・デヨーヂとの關係は如何。

自由黨ではアスキス初め主たる同僚はロイド・デヨーヂの旗下に立つて、任官しまいと云ふ申合せが成立した。しかしロイドは此れまで自由黨内にあつて政界に重きをなす新人を説き、重要な職務に列することを承諾せしめた。

次にロイド・デヨーヂの組閣中、注目すべき一事がある。

其れは實業界、財界、工業界から人材を拔擢して政府の要人としたことである。是等の人々は未だ曾て官吏としての経験なく、議會の空氣にも慣れてゐなかつた。ロイド・デヨーヂは是等の人々と會商するのに手紙一本書かず、電話で會見の時間を定め、其れ其れの人に面會して事を寸時の間にまとめた。

商議總裁スタンレーのロンドン地下鐵道會社の常務取締役たる、新設海運總監マクレイのグラスゴー市の汽船會社社長たる、教育院總裁フィッシャーのシェフィールド大學副總長にして英國史學界の重鎮たる、地方局總裁ランダのウェールズ有數の炭坑主たる、是等の人物の採用は前述のロイドの拔擢方法の事實を物語るものである。

かくしてロイド・デヨーヂ内閣の顔ぶれは疾風迅雷的に定まつた。前内閣の媿々たる辯舌を能事として事務の敏捷を缺けるに比し、デヨーヂの内閣は何處までも實務的であつた。此處に於てか



世人新内閣を呼稱して「實行内閣」と謂ふ。實に適當な名稱である。

此處に一言附言せざる可からざるは、彼が決して陰謀的政治家に非ざる點である。アスキスに對して陰謀的怪腕を振つて、此れを倒滅せしめたのでもなければ、又アスキスに對する私怨私恨を含んで、かゝる行動に出でたのでもない。デヨーヂ唯一の目的は聯合國の決定的勝利であつた。此の場合此の目的に反する者は悉く彼の行手を拒む連中である。彼が此の行動に出たる跡を見るに、一つとして私利私益を打算した影はなく、公平無視、一黨一派に頼らず、唯々戰勝の爲め祖國の爲めに畫策したことが明瞭であつた。其れはアスキスの態度を見れば何よりも此の消息が分明しやう。アスキスは内閣員として名を列せざるも、自己の率ゆる自由黨を統帥して新内閣を支持せんと誓ひ、一文を公表した。

翻つて我國の政界を視よ！ 井戸の内から蒼空の星辰を望むかの感がある。我政界として英國の政界の如くたらしむるは、實に前途遼遠である。日暮れて道遠しの感なき能はずである。

## 9、「軍事會議」。露西亞革命。聯合諸國結合の高唱。

組閣を終ると共に、「軍事會議」はロイド・デヨーヂ、カーゾン、ミルナー、ヘンダーソンの四人で組織する事を發表した。ロイド・デヨーヂはアスキスとの衝突の核心を成してゐた「軍事會議」問題をかくして解決し、自己の意志を貫徹したのであつた。ポナー・ローは大藏大臣にして、下院を統帥しなければならなかつたので「軍事會議」は不定期に出席する丈けであつた。

約言すれば新政府に對する一般社會の印象は善かつた、氣受は悪くなかつた。一九一六年の終りに當つて肉體的にも、精神的にも國民は困憊してゐた。従つて政府の更迭は暗い氣持になつた女が新しい美裝を與へられた時の様に、また長途の行軍に足を引きづつてゐた軍隊が軍樂隊の太鼓の音で氣持が緊張した時の様な効果があつた。國家は蹶起す可き秋に再會してゐたのであるから、此れを強く刺戟するには、ロイド・デヨーヂの如き人物でなければ役目を完ふすることは出来ない。

新内閣が出現して、此れが首班となり、國家の大事を料理し、國民を率ゆるに當り、ロイド・デ



ヨーヂの地位は古い型の總理大臣とは自から其の選を異にしてゐた。むしろ南亞米利加の大統領に相通する力を持つてゐた。憲法の範圍内に於て獨立獨行して行く獨裁官であつた。

元來ロイド・デヨーヂは東方の戦線に進出し、是れに依つて西部戦線の獨軍を牽制せんとする軍略を熱心に唱導し來つた。處が突然彼は此の戦略を脱ぎ棄て、西部戦線に勢力を集注し、一舉に獨軍を潰滅しようと思ふ意見になつた。かゝる確信の豹變は抑も何處から出たものであらうか？ 其れはニヴェール將軍の軍略に影響され、其の意見に魅惑されたからである。ニヴェール將軍はジヨツフル將軍の後任者として、佛軍の總指令官に新たに任命された人である。ロイド・デヨーヂから見れば英國の將官連は優柔不斷であるのに、ヴェルダンを死守して獨軍を敢然として撃退したニヴェールは全身是れ膽力の人物に思はれたのである。五月四日の巴里に開かれたる聯合國軍事會議に於て、ロイド・デヨーヂは佛蘭西の主腦者に、「二國の軍隊は力を併せて西部戦線を突破せん」ことを提議した。

乍然、ロイド・デヨーヂの能動的軍略は聯合國の側の承認する處とならず、五月十五日ペタン將軍が佛軍の總指令に任命されて以來、受動的政策を執ることに一決して仕舞つた。

戦況は聯合國に取つて相變らず有利に發展せず、暗雲低迷してゐる間に、露西亞に大革命が突

發した。此の革命に就てロイド・デヨーヂはグスゴールに於て一場の演説を試み、此の「驚嘆すべき事件」は一時的に英國に不利であるけれども、永久的見地から眺めれば我々に福祉を齎らすものであると云つた。又説を繼いで曰く、

「露西亞は釋放されました。露西亞人は自由を獲得した、而して平和會議の露西亞の代表は、自由を享有する國民の代表であります。露西亞國民は自由の爲めに闘ひつゝある、自由の地點に立つて民主主義の未來を準備しつゝあるのであります。」

ロイド・デヨーヂの露西亞革命に對する觀測は樂觀的であつた。しかるに數ヶ月を出でずしてレーニンの十月革命が起り、共產主義建設の一路を突進することになつた。ロイドは前述の豫言の前に自から墓穴を掘らなければならなくなつた。

露西亞革命誘因となつて、労働黨との提携力少しく脆弱になつて來た。其の由來は斯うである。労働黨は彼等の社會意識、階級觀念よりして、初めから露西亞革命の同情者であり、贊同者であつたのは云ふまでもない。處が労働黨の首腦部であるアーサー・ヘンダーソンは、身が「軍事會議」の一員であり乍ら、ストックホルムに開催される可き「社會主義會議」に關係したと云ふので、政府内部に物議が醸成され出した。但しヘンダーソンの執つた態度は、彼が労働黨の幹部である以上、



四圍の情勢に支配されたのであつて、彼個人としては何等非難攻撃す可き性質はない。其の内に英佛政府の態度が定まり、労働委員にしてストツクホルムに趣く者には旅行券を下附しない事になつた。事態は此處まで發展して來たので、労働黨はデヨーヂ内閣にヘンダーソンが加盟してゐるのを悦ばず、亦政府もヘンダーソンが軍事會議員たることを嫌忌する様になつた。遂にヘンダーソンを罷免することになつた。但し其の方法が甚しく労働黨の反感を買つたのである。

ヘンダーソンは豫て通知を受けてゐた「軍事會議」開催の時刻を正確に守つて出席すると會議室の戸口の處で、室内に入るのを制止され、暫時待つてゐて呉れと云ふことであつた。而して全る一時間も、戸口の敷物の上で立往生してゐると、やがてバインスが出て來て今日限り軍事會議から退いて呉れと云ふのである。是の取扱ひは國家の最高官に對する取扱ひであらうか？ この一事は、ヘンダーソン自身はさておき、著しく労働黨の感情を激發せしめた。

バインスはヘンダーソンに更つて軍事會議員になつた。

露西亞が崩壊して、聯合軍を悲觀せしめたけれども、其れと反對の好材料として米國が來戰することに同意した。北の一國を失つて、西の一國を得たのである。世界戦争は、矢繼ぎ早やに地球全體の諸國を席捲し、益々事態は複雑多端になり、ロイド・デヨーヂの頭も日一日と多忙になつ

て來た。

ラパロに聯合諸國の會議が招集され、ロイド・デヨーヂは其れに出席した歸途、巴里に立寄り、戰況批判の鋭き言葉を放つた。彼が首相となつて以來、未だ曾て見ざる痛烈な批判であつた。

「誤謬は我軍の責めではない」とロイド・デヨーヂは云ふ。

「其れは聯合諸國が實戰方面に於て眞の結合を缺いてゐたからである……我々は美辭麗句を事として現實を忘れ、口先に虜れて戰略を後廻しにしてゐた。

「露西亞の仕事は自分の戦線ばかり心配してゐることであつた。伊太利の配慮は自己の戦線を出でない！ 私は聯合諸國を巧く聯結せしめて行つたであらうか？ 伊太利の戦線は佛蘭西の爲にも、英國の爲めにも重要であつた。獨逸は其の事を早くも悟つてゐた。不幸にして吾人は其れを感知しなかつたのである。

「我々は敵の戦線に一キロメートル前進し、壊滅した一村落を奪取し、獨逸兵を數百名捕虜にする、踏夫欣躍する」

ロイド・デヨーヂは言葉を極めて聯合各國の緊密なる結合を提唱し、最後の勝利への能動的努力を激勵した。



## 10、英佛國の統帥。米國の援兵

ロイド・ヂョーヂは西部戦線の英佛軍の行動を統一するのが、獨逸を壊滅する唯一の方法であると提唱して來たけれども、是れが實現に至らなかつた。

處が此の使命を果す可く、ミルナーが佛蘭西に行く時が來た。是れが有名なドゥーレン會議である。英佛兩軍が一層提携するの實は、單に言葉の上でなくして、實質的に實現す可き可能性を持つに至つた。

「フォツシュ將軍が承認するなれば、自分は悦んで將軍統帥の下に立たう。而して自分は將軍に策を致すの地位に甘んじよう」

是れは英軍の總指令官ヘイグ將軍の公言である。

佛蘭西の老政治家達はミルナーの策に組し、遂にクレマンソーも下の如き覺書に署名することになつた。

「フォツシュ將軍は西部戦線に於ける聯合軍の行動を共同せしむるが爲めに、英佛二國政府よ

り任命さる。フォツシュ將軍は是れが實行を期する爲め二國の總指令官と準備をなす可し。二國の總指令官は將軍に對し必要なる報告をなすこと」

かゝる經路を辿つて大問題も談笑の裡に解決された。

佛蘭西の一大臣はフォツシュ將軍の肩を叩いて云つた。

「やつと任命されましたね」

フォツシュ將軍は嚴肅な顔をして其れに答へた。

「此の命令は實に好適の時に私に致されました」

聯合軍の最高指令を一人の將軍の手に委ねたこと——偉大なる軍事的天才の手に——は英國民の大いに感謝しなければならぬことであつた。しかも事を此處まで運んだのは年來のロイド・ヂョーヂの理想であり、又彼の手腕に待つたのである。

亞米利加は來戦し、軍需品、食糧等で聯合國の背後に隱然重きを成してゐたのは事實であるが、軍隊を多大に輸送して、戰場共同作業を取ると云ふ處までは來てゐなかつた。ロイド・ヂョーヂは幾度か米國を誘つて此處まで力を致さしめんとしたが、此の案は空しく放棄されて仕舞つた。



ロイド・デヨーデは遂にウイルソンの承認を得るのに成功した。當時のことを彼は回想して下の如く云つてゐる。

「予はウイルソン大統領に事實を告げ、毎月歐洲に十二萬の歩兵を送つて呉れ、而して我々を救援して呉れ、もし貴下が其れを承認して下さるならば、當方としても出來得る丈けの助力を」と打電した朝のことを一生忘れ得ない。すると大統領から、貴國の船舶を送れ、毎月十二萬の兵は派遣せんと云ふ返事が來た。其處で私は船舶局總裁をタウニング街に招き、出來る丈けの汽船を米國に送る様に下命した。處が船數には限りがある。船舶を米軍の運送に使用すれば英國は危険に脅びやかされる。併し危険には此方から進んで飛び込まねばならぬと私は云つた。米國は遂に百九十萬の兵を大陸に派遣して來た、其中百十萬は英國の商船で輸送したのである。」

ロイド・デヨーデは政治家としての印象派である。調査、研究、採慮の結果、事を推行する人ではない。時に處し機に臨んで自分が最善、上善なりと斷定した處に、勇往邁進する政治家である。故に論理の一貫を彼に期することは出來ない。往々にして大なる錯誤を曝露するかも知れない。けれども彼は至誠の人であり、私利に基いて暗暝の裡に策謀する劣等な野心家ではない。従つて

彼の過誤は決して社會人の怨恨を招く様なことはない。米兵輸送の如きも専門家の立脚地から見れば、危険極まる仕事であつた。けれどもロイド・デヨーデは最善なりと云ふ印象を握つてゐたので是を斷行した。其の結果は聯合各國にも米國にも著大な利益を與へた。此處に於てか私はロイド・デヨーデは政治界の印象主義者だと云ふのである。

フォツシュが最高指令の職を承諾した時、二つの條件を申し出た。其の條件の一つは、自分の計畫は絶対に他の容喙を許さざることであつた。將軍も亦小數の首腦者に依つて、命令を左右するのでなければならぬ事を知悉してゐた。だから電話の一端をネヴィールに、他の一端をバンルイヴェに繋いで置く丈けで、他の人間には電話を掛る必要がなかつた。戦争の終局に當つては、フォツシュ將軍の衣囊中にある命令書は、一つのスフィンクスで、クレマンソーと雖も此の命令書を取次ぐにすぎなかつた。クレマンソーは將軍を煩らはせる蠅を追ひ拂ふ役目をしてゐたにすぎない。

西部戦線はフォツシュ將軍の双肩に荷なはせ、米國の救援軍は續々として來歐する。ロイド・デヨーデは一九一八年の初期から晩秋に至るまで歐洲大戦争と云ふ此の大きな芝居の中心から姿を消した。獨逸帝國が倒滅する直前に於ける外交の舞臺でも、彼の役割は少しも目立たなかつた。



米國のウイルソンとバーデンのマックス公とが此の方面の立役者で、聯合國側の要求と希望は第二次的であつた。英國の利害關係はバルフォアの口を通じて世界に發表されてゐた。

此の間、ロイド・ジョージは惰眠をむさぼつてゐたのだらう乎？ 決して左様ではない。彼はマンチエスターの方角の地平線を望み、其の空に時々きらめく雷光を注視し乍ら、汎社會及び經濟社會に襲來す可き擾亂に就て沈思默考してゐた——而して是れが對策として、より善き家屋、より完全なる教育、より高き賃銀、より善く耕作されたる土地、より立派な産業に就て自問自答してゐたのであつた。

ロイド・ジョージは現在の戰爭の終末を豫感すると同時に、次に來る可き戰爭の慘禍を考へつゝあつたのである。マンチエスターの床上で——彼は其處で風邪に罹り數日間臥床してゐた——二十四時間中十六時間を、各種の印刷物の耽讀に費してゐた。新聞から小説にまで目を通して倦むことを知らなかつた。此等の紙上に印刷された文字の間を彷徨しながら、彼の思ひは將來の來る可き嵐を豫想してゐた。

巴里に於て休戰條約が論議されてゐる時、ロイド・ジョージは再び大戰の檜舞臺に登場して、世異の耳目を動かした。ジョージがロンドンを巴里に向つて出發せんとした折り、ヘイグと戰爭の將來に就て議論を闘はした。ヘイグは尠なからず悲觀說に傾いてゐたが、ジョージは決して夫れに組みしなかつた、而して胸中休戰條約の條項を考へ乍らドーバーの海峡を渡つて行つた。

## 11、休戰條約

文明人の歴史中に於て、最も紀念す可き週間の最終日の夜、ロイド・ジョージはロンドン市長の賓客となり、ギルドホールの晚餐の席にあつた。彼は「偉大なる週間」を終つて、ヴェルサイユから歸還したばかりであつた。

其の宴席でロイド・ジョージはやをら立つて口を開き、

「ヴェルサイユの美しき森では、今木の葉がチラチラと散つてゐます。併し散りしくのは木の葉ばかりではない。帝國と王國、皇帝と諸王も、一陣の風の前の枯葉の様に散りつゝあるのであります。

木葉の春と其の秋を對照することは歴史を見る上に於て最も劇的である。今年の春、敵は至る處で優勢でありました。然るに今や土耳其は聯合軍の光輝赫々たる戰略の爲に壊滅し、ブル



ガリヤは山岳地方から海岸に至るまで占領され、オーストリアは伊太利の國土に包圍され、我々の敵の中で最も強大なる獨逸は撃退されて了ひました。嘗ては世界中で最も強大であつた陸軍も今は全く陸軍と呼ぶことは出来ない。其の海軍は最早海軍の役を爲しません。」

此の時既にカイゼルと皇太子は退位して、獨逸の國境から身を以て脱れてゐた。

「彼等は逃げ出したのである。其れで充分である。カイゼル自身の國民が彼等の罪を宣告したのであります。私は此の罪の宣告に言葉を追加するのを欲しません。」

獨逸國民は自力で自分達の主權者、支配者を追放した。當時ロイド・デヨーヂは獨逸の國土を一ヤードたりとも掠奪するの意志はなかつた、又獨逸國民の自由に僅かなりとも干渉するを潔しとしなかつた。けれども英國の自由の爲めには一歩たりとも讓歩しなかつた。

「我々は誤つた行動は執らないであらう。併し其れと同時に我々は我々の權利を放棄しないだらう。」

ロイド・デヨーヂが晚餐會の卓上で以上の様な辭を列ねてから四十八時間の後、ロンドンには休戰條約調印終了を祝賀する喊聲の爲に全市沸き返る様な騒ぎであつた。此の光景を目撃したロイド・デヨーヂの胸中や如何。國民の喜びは彼の悦びであつた。彼は娘と妻を同伴してロンドンの街々

を歩きウエストミンスター寺院に足を止め、祝賀の聖歌の合唱の中に彼の美しい聲をひびかせた。

世界の潮流は一瞬時たりとも停止しない。大統領ウイルソンはバーデン公と電報を交換し、所謂ウイルソンの十五ヶ條——土地の併合をせざることを、領土の問題は其の土地に住む人民の利害關係に依つて決す可きこと、云々——が提出された。其の他ポーランドの獨立、一八七一年にプロシヤが侵略したる佛蘭西領土の返還、獨逸は侵略せる土地を返還すること等の條件があつた。

是等の條項はウイルソンの手を通じて聯合諸國に通牒された。而して聯合國の損害は獨逸をして賠償せしむると云ふ説が強調されて來た時、ロイド・デヨーヂは出來得る限り其の額を制限す可しと主張した。

## 12、平和會議

歐洲大戰が段々終末に近づくに従つて、聯合國側の三強國は期せずして三人の人物に支配される形になつてゐた。ロイド・デヨーヂは英國を一人で負つて立ち、クレンマンソーは佛蘭西の主人であり、ウイルソンは亞米利加を代表する唯一の人であつた。従つて獨逸と休戰條約が締結され、



愈々平和會議の本舞臺になつて來た場合にも、此等三國の三巨頭が出席して、小數の力に依り平和會議を左右することになつてしまつた。是れは一利一害であつた。

世界各國が一堂に集合し、各々一流の代表者を出して、自國の利益を互に保護せんとするのであるから、其の困難は想像するに難くない。此の時ロイド・デヨーヂが正規の學問をしてゐなかつたと云ふことが大きな缺點であつた。田舎教師の子息として生れ、靴屋の叔父に養育された彼は、正規の教育を享くるにしては時間を持つてゐなかつたし、經濟上の餘裕にも乏しかつた。従つて社會、事物の原理に徹してゐなかつた。今複雑極まる此の講和會議に臨んでは、彼と雖も判斷に苦しむ幾多の難問題が擡頭して來た。

此の缺點がウイルソンに會つた時、餘蘊なく曝露されたのである。若しロイド・デヨーヂにして、社會科學の蘊蓄を極めてゐたならば、易々としてウイルソンの説に屈服することは無かつたらう。

一九一八年十二月十三日、大統領ウイルソンはブレストに上陸した。亞米利加の一新聞記者は其の光景を誌して曰く、

「基督誕生前五十五年、ジュリアス・シーザーが羅馬帝國にブリトンを併合す可くやつて來て

以來、ウイルソンが此の古き都に足を踏み入れたのは非常な大事件である。」

直ちにウイルソンはダウニング街の英國首相官邸に於て、ロイド・デヨーヂと面會した、而して國際聯盟を平和會議の席上に於て創設しなければならぬと主張した。

國際聯盟なる觀念は英國人にとつて決して空想でもなく、亦耳新しいことでも無い。けれども國民は舉つて平和を締結し、數年間の戰禍から脱却することを一日千秋の思ひで希望してゐたのである。平和を歐洲の天地にもたらすと云ふ問題——是れは現下に論議す可き問題なのである。是に反して國際聯盟なる問題は、是れを考究するのには幾多の時間を要し、根本的研究を遂げなければならぬことで、平和會議とは並立し得ない。雨雪に惱されてゐる英國民にとつて第一の問題は先づ第一に身をいる可き家を建設するにある、敢て此の場合摩天樓の建設を議してゐる餘暇はない。是れが英國民全體の意見であつた。

處が大統領ウイルソンは是れと正反對の考へを藏してゐた。此の考案に依れば國際聯盟と平和會議は並立して相依據す可きであると云ふのだ。

私は此處に詳細に亘つて平和會議の光景を描き出す餘暇と紙數を持ち合はせてゐないのは残念である。只一言、ロイド・デヨーヂが如何に平和會議に活躍したかと云ふ有様を描寫するにタルデ



イユの言葉を引用するに留めて置かう。

「ロイド・デューヂは叮嚀に承諾の色を見せてゐるかと思ふと、突如として怒氣満面、一陣の疾風となつて襲ひかゝつて来る。其れは巧妙な射手の様であつた。亦豊富なる想像力の所有者であつた。両手で膝を抱き乍ら、爐邊に坐し、めんどろな議論には口を入れない。併し豫期せざる好解決案に打突ると突然雄辯を揮ひ、諧謔を交へて、縦横無盡に奮闘する」

此の片言の中にロイド・デューヂの面目躍如たるものがあるではないか。

是に平和の神は、天の一方から静やかに歐洲の地に降つて來た。敵も味方も銃を捨て劍を投げ出して昔日の友達に還つた。大きな芝居、世界創造以來未だ曾て見ざりし大活劇も遂に最後の幕を閉じた。

其れと同時に歐洲大戦争と云ふ背景の前で、必死になつて踊つてゐたロイド・デューヂも舞臺から退場してしまつた。

## 第四章 大戦亂終局後のロイド・デューヂ

### 1、聯立内閣の繼續

四ヶ年三ヶ月の間猛威を逞しくした實戦も一九一八年十一月十一日を以て終局を結んだ。而して平和會議の開催さるゝに先立ち、一九一八年十二月十四日を以て定期總選舉が行はれた。

總選舉に於ける政界の分野はロイド・デューヂを中心としたる保守黨、自由黨、労働黨の聯立派に對し純保守黨、純自由黨、純労働黨、無所屬、國民黨、シン・フェン黨等があつた。

聯立派の勝利に歸す可きことは誰れしも豫想した處であつたが、此の華々しき結果はげにや豫想以上であつた。選舉の結果、聯立派は保守黨三百三十八名、自由黨百三十六名、労働黨十名、合計四百八十四名であつた。

是れに對峙する反對黨は保守黨四十八名、自由黨二十六名、労働黨五十九名、無所屬九名、國民黨七名、シン・フェン黨七十三名、合計二百二十二名であつた。聯立派は二百六十二名の多數を



制したのであつた。此の選挙に對して聯立派に戦を挑んだ名士の落選するもの多く、アスキスは三十年間の選挙區スコットランドの東ファイフから打つて出で、脆くも一軍人の爲に破られた。マツケナン、ランシマンの兩氏も見事に落選の憂目に遭つた。サミュエル、ガーランド、ボンソービー、テナン等の自由黨幹部も枕を並べて打死した。勞働黨首領ヘンダーソン、マクドナルド、スノーデン等も亦旗を捲いて退却しなければならなくなつた。

ロイド・デョーヂは前内閣を解散して、新内閣を造つた。

|       |          |
|-------|----------|
| 首相    | ロイド・デョーヂ |
| 下院首領  | ボナー・ロー   |
| 上院首領  | カーゾン     |
| 大法官   | スミス      |
| 無任處大臣 | ゲッデス     |
| 同     | バーンス     |
| 外務大臣  | バルフォア    |
| 植民大臣  | ミルナー     |

|        |         |
|--------|---------|
| 大藏大臣   | チエンパーレン |
| 陸軍大臣   | チャーチル   |
| 内務大臣   | グリーンウツド |
| 海軍大臣   | ロング     |
| 兵役大臣   | ゲッデス    |
| 恩給大臣   | エヴァンス   |
| 船舶大臣   | アツクレイ   |
| 供給大臣   | ウエーア    |
| 印度事務大臣 | モンターグ   |
| 勞働事務大臣 | ホーン     |

此の總選挙の表面を見るとロイド・デョーヂの大勝利に見えるが、少しく研究の眼を放つて検討すると必ずしも目出度い結果ではなかつた。自由黨凋落は蔽はんとするも是れを蔽ふ可からざることになつた。保守黨は戦前二百八十二名であつたのが、一躍して三百三十八名になつた。流石のロイド・デョーヂも保守黨を離れては陸に上つた大魚、首相の實權を行使する事が出来ないデイ



レンマに陥つた。新議會議員の過半数は保守黨の占むる處となつた。亦一方労働黨の進出もあな  
どる可からざるものがあつた。

## 2. ロイド・デヨーデ内閣の崩壊

ロイド・デヨーデ内閣は戦争の生んだ兒である。其れが戦争終熄後も繼續したのは一大奇蹟なり  
と人は云ふ。聯合にして合體に非ず、結合にして融合ではなかつた。何れの日か離別しなければ  
ならぬ愁ひを初めから胎んでゐた。併しロイド・デヨーデは自分の腕で何處までもやり通せるも  
のと過信してゐたのである。

時は一九一九年の終り頃からである、保守黨の空氣がそろ／＼變調を呈し來り、見上ぐるロン  
ドンの寒空は不安氣にドンヨリと曇つてゐた。

保守黨の内部には幹部無視の策動濃厚となり、政府がシン・フェン黨に讓歩すればする程反抗  
が昂まつた。「ロイド・デヨーデと手を切つて純然たる保守黨を作れ」と彼等は叫んだ。彼等とは即  
ち世人の所謂「ダイ、ハーズ」と呼ぶ人々である。

ロイド・デヨーデは密に議會解散を策し、一九二二年の二月頃に總選挙を行はんとしたが、隠す  
より顯るゝはなしで、「ダイ、ハーズ」は是れを嗅ぎつけ益々聯立内閣なる怪鳥に致命傷を與へず  
んば止まざるの形勢となり、保守黨幹部の鎮撫も燒石に水であつた。ロイド・デヨーデの計畫は其  
れが結實しなかつたので、彼自身に取つては威信の失墜となり、政府黨にとつては意思疎隔の廣  
告となり——ダイ・ハーズは凱歌を奏した。

「保守黨が前面の選挙で大捷を得たのは自分のお蔭である」とロイド・デヨーデは思つて居た。「自  
分に忠實であるのが至當で、反逆とは何事ぞ」と彼は大いに慊らなかつた。ロイド・デヨーデは統  
一黨の幹部に辭意を洩した。幹部もデヨーデと云ふ首がなくなつたのでは、胴體丈けとして生き  
て行けない。領袖達は一蓮托生、死なば諸共なりと云ふ誓約を與へた。ロイド・デヨーデも其處で  
聊か胸が明けた。

一度付いた火はなか／＼消し止めることが出来ない。チェンバーレンやバルフォアがうかう  
かしてゐる間に火は早くも天井裏や椽の下に廻つてゐた。此の火の手の早いにはロイド・デヨー  
デもうっかりしてゐた。

時も時、ケマル・パシヤの軍隊は連戦連勝、希臘軍はスミルナから一掃され、希臘を聲援しつゝ、



あつた英國政府は、國內から火の出る様な攻撃を享けた。聯合内閣は近東問題失敗の颯風を眞正面に享けて、よたよたとした、足元が頗る危くなつた。

十月十九日保守黨大會開催。チエンバーレンの聯立内閣維持論は、急先鋒ボルドウインの議論に壓せられ、ボナー・ローはバルフォアの溫和論に組せず、遂に保守黨はロイド・ジョージと訣別す可しと云ふ議論が黨議を通過した。爰に至つてはロイド・ジョージも手の下し様がなく直ちに參内して辭表を呈出した。

エドガー・アラン・ポーの凄慘な短篇にこんながある。催眠術の力で死んだ人間を數ヶ月間生かして置いたが——少くとも外見上——魔力が無くなつたら其の肉體は一瞬間の内にバラ／＼にこはれて仕舞つた。

ロイド・ジョージを首班とする聯立内閣がバタバタと脆くも倒潰した有様を想見すると、此のボ一の短篇が直ぐ私の頭に浮んで来る。ロイド・ジョージの催眠術の力が薄くなつたのだ。其れでほんの瞬間にあえない最後をとげるに至つた。

ロイド・ジョージ内閣は如上の事情の下に互解し、ボナー・ロー統一黨緊急總會で滿場一致推載されて首相たるの資格を得、皇帝の諮問に奉答して首相に就任した。

一九二二年十月二十四日、ボナー・ロー首相に就任、十月二十六日議會解散、十一月十五日總選舉、十一月二十日新議會召集と云ふことになつた。

### 3、自由黨の不振

一九二二年十一月十五日總選舉執行。保守黨三百四十四名。労働黨は一躍第二黨の地位を占めて百四十二名。アスキスの自由黨正系は六十名。ロイド・ジョージの國民自由黨は五十二名。選舉の結果、知名の士にして落選せる人々多々あり、閣員の鏘々たる人物にして猶且つ落伍する者が出來た。

此の以外なる労働黨進出の結果、労働黨は政府反對黨の中樞を握り、總理としてラムセイ・マクドナルドが選定され、英國憲法史に未だ曾て見ざる一新紀元が劃せられた。

議會の過半数の故を以て、統一黨の内閣が組織され、ボナー・ロー首相となつた。  
ボナー・ロー病を得て退くや、更にボルドウイン是れに代つた。

一九二三年秋、英國首相ボルドウインは戦後の外國貿易に備ふる爲、保護政策を採用せんと



し、議會を解散して總選舉に訴ふるの途を取つた。

十一月十三日は議會開會と共に首相は政府の態度を明かにした。労働黨はマクドナルドを、自由黨はロイド・デョーヂを壇上に送つて、政府不信任案を提出した。不信任案は破れたるも、翌十一月十六日は議會は解散となつた。

一九二三年十二月六日、英國の總選舉は世界の興味を中心となつて執行された。保守、労働、自由三黨は三鼎立して戦つた。前回の選舉の時、自由黨はアスキスとロイド・デョーヂ二人の間に分裂し、互に犬猿の關係にあつたが、今回は完全に提携して敵陣に當つた。自由黨の政綱はアスキス・ロイド・デョーヂ兩氏署名の下に十一月十九日發表された。

總選舉を開票して見ると、事は意外で、保守黨二百五十四名、労働黨百九十二名、自由黨百四十九名となり、保守黨は解散前に比して九十一名の激減であつた。

一九二四年一月十五日開院式は舉行せられ、ポールドウインは首相として是れに臨んだ。労働黨マクドナルド、自由黨ロイド・デョーヂ兩巨頭の猛烈な政府攻撃演説があつた。不信任案提出の結果、賛成三百二十八票、不賛成二百五十六票、政府は遂に惨敗した。

此處に於いて一月二十二日ポールドウインは、早朝辭表を提出し、同日マクドナルド内閣は出現した。

英國政界の雲行は一九二四年の秋から頓に險惡の度を増し、漸次労働黨内閣を支持してゐた自由黨が反噬するの形勢となつた。偶々所謂キャンベル事件が政治問題化し、統一黨は之を捉へて政府攻撃の具とした爲め、政府も之に應じ、一九二四年十月九日を以て議會解散を斷行した。

一九二四年十月二十九日、總選舉執行。開票の結果、保守黨意外に振ひ、當選者四百十名、議席の三分の二を占め、労働黨百五十二名、自由黨四十三名と云ふ順序になつた。自由黨の不服甚しく、總理アスキス先づ破れ、大臣級枕を並べて倒れた。唯ロイド・デョーヂが孤壘を守るのみであつた。十一月六日、大勝利を祝賀しつゝ、保守黨は新内閣の顔觸を發表し、ポールドウインが總理大臣の椅子を占めた。

#### 4、アスキスとの衝突

私はロイド・デョーヂ内閣が倒滅して以來の英國政界の變遷を物語り、其の推移の中にあつて自由黨は如何なる地位にあつたかと云ふことを、甚だ簡單ではあるが略述し終つた。此の間、自由



黨の狀況を一言にして云へば、衰退に衰退を重ねつゝあつたのである。アスキス、ロイド・ジョーヂの分離が衰退の原因となり、總選舉毎に自由黨代議士の數を減じ、全く昔日の盛觀を失墜してつた。其の後、ロイド・ジョーヂとアスキスの兩雄は再び握手し、自由黨の前途に少しく光明が輝き初めた時、亦も此二巨頭が袖を分たねばならぬ事件が突發した。

六ヶ月以上經過して尙ほ終熄し得ない炭坑争議は英國の産業界に甚大な影響を齎したが、其れが政治社會に及ぼした餘波の力もなみたいていではない。

一九二六年五月三日に召集された自由黨の幹部會は總罷業に對する態度を決定し、保守黨内閣の執つた政策は宣しくないが、國難の際であるから全力を擧げて是れを支持し、總罷業の終熄に努力することにした。

局面が日一日と展開して來るので、是れに策應する爲、自由黨の幹部會を召集して見ると、其の席上にロイド・ジョーヂの姿が見えない。出席を拒絶し、政府援助には反對だと宣言した。

ロイド・ジョーヂは年來米國のハースト系の新聞に筆を取つてゐたが、今回も時局問題を捉へて議論し、總罷業が繼續せられて、英國は大混亂に陥れること、而して政府の是れに對する無謀無策を辯難攻撃した。是れ明かにアスキス流の穩健な態度と全然背馳するものであつた。

此の文章は老アスキスを怒らしたものは勿論である。五月二十二日此の怒りは遂にアスキスのロイド・ジョーヂに對する書翰となつて現れた。此の書翰に於てアスキスは總罷業中は差控へてゐたが、それが終了した今日自分として黙つてゐる譯にゆかぬ。貴下の總罷業中に執つた行動は頗る面白くない、殊に外國新聞に祖國の前途を誤る様な悲觀論を掲載するとは何事だ、前首相であり、現に自由黨代議士會の會長たる者の執る可き行動ではないと明白に言ひ切つたのであつた。

此の手紙の返事は五月二十四日、ウエールズのクリシースから届いた。所が此の書狀の到着を待たずしてアスキスの書翰は二十六日の新聞に發表された。

愈々兩雄は公然と火蓋を切つて相見ゆることになつた。ロイド・ジョーヂが自由黨から追ひ出されるか、アスキスが追放されるか、二つに一つを擇ばなければ、事態は落着かぬ處まで押し進んで來た。

ロイド・ジョーヂは決して昔日の戰鬥力を失つてゐない。争鬪は彼の嗜む處である。彼は時を移さず代議士會を召集して其の意見が奈邊にあるかを問ふた。代議士の多數がジョーヂの味方であるのは初めから判つた話だ。數回會合を繰返した後、アスキスが書翰を發表したるは不當なりと



云ふ件が黨議に附せられた。此の決議案は二十票對十票の差でロイドの勝利に歸した。此の結果ロイド・デヨーヂは自由黨の會長の席に依然として坐つてゐるが、幹事長は總裁アスキスの任命を待たねばならぬので、留任することとなり、黨内の命令が行はれぬ奇現象を呈するに至つた。斯くの如く自由黨の二大柱石が再び乖離すれば、年來政界に建つて來た大伽藍も一朝にして倒潰するのは日を期して待つ可きである。難境に立つたのは黨員全體である。黨としては此の二人の内の何れかを選ばねばならぬ。

遂に一九二六年十月十四日、アスキスは自由黨總裁を退く旨を發表した。自由黨の運命は落ち着く處まで落ちて行つて安定を得たのである。ロイド・デヨーヂは自由黨に獨り残ることになつた。

自由黨がその成立當初よりの政策の大綱としたのは自由主義である。處が政界は、一方には保守黨の右傾派が構へ、他方には労働黨の左傾派が頑張つてゐる。自由黨は今や其の中間に板挟みとなつた形である。ロイド・デヨーヂは此の難關に處して自黨を如何なる方向に引卒して行かんとするのであらうか。小資本階級を代表する自由黨は労働黨と聯盟して、貴族資本家の政黨である保守黨に當るか、或は保守黨の大旗の下に馳せ参じて、急進、左傾の労働黨と對峙するか、二途

の中一途を選ばねばならぬ境遇に佇立してゐるのではあるまいか？

## 5、農村改造案

以上説き來つた様に自由黨は衰滅の道を辿り、保守黨と相拮抗した昔日の觀がない。けれどもロイド・デヨーヂは決して悲觀論者ではない、恒に英國の國家社會を眞面目に研究し、色々の策を樹て論を成すの人である。最近に於ける彼の一大論綱は農村改造案で、該案は賛否相半ばし、盡る處を知らない。私は此の改造案なるものを紹介して置かう。

ロイド・デヨーヂは一九二六年九月十七日、デヴォン洲キルラートン公園に於て、四千人の聽衆を前にして、是を發表したのである。彼の此の壯説が一時政界の耳目を動かし、民心を刺戟したのは云ふ迄もない。

保守派にとつて彼の主張は餘りに過激であり、急進派にとつて其れは微溫的であり妥協的である。其の何れからも賛成されない。けれども此兩極端派の何れからも好評を博さない處に自由黨の存在理由があり、ロイド・デヨーヂの面目があるのではあるまいか？ 前にも云つた様に自由黨



は此の極端なる兩翼に吸収され盡して了ふかも知れない。でなければ其の中間に立つて極端論に馳せず、しかも社會の進化に貢獻する處があるかも知れない。

此處にロイド・デヨーデが將來の存在理由があるのである。

従つて此のロイド・デヨーデの農村改造案なるものは大に注目し得る。其れが實行し得る成案なりや否やは別として、かゝる説を成すに至る彼の心境が注意を惹くのである。勿論此の提唱は自由黨の黨議の結果、其の賛否を社會に問ふたものでもないし、又ロイド・デヨーデ一個の「私見」をしてでもない。「黨人」として又「黨略」として此の立言を爲すのでないと云ふことを彼は是れを發表するに當つて念入りに斷わり、「此の危急存亡の時に際し、此の國の機務に關係ある指導者の一人」として純國家的の見地より出發するのであると云つてゐる。

此の問題——ロイド・デヨーデの農村改造案を主題にしたカリカチュアが、デーリー・ヘラルド（労働黨機關紙）にあらはれた。デヨーデは大きな熊手を持つて舞臺一杯に踊つてゐる。背景には粗末な木柵を回らした藁ぶきの農家。正面には二つ三つのオーケストラの樂器が頭を出し、其の左右に別れて見物席がある。一方の見物席にはシルクハットに美裝した男が愉快さうに拍手してをり（資本家、地主を現す）一方には無帽粗服の男が前屈みに腕組みして苦い表情をしてゐる（労働者を意味す）。此のカリカチュアは題して「兎も角、地主を嬉しがらせる」と云ふのだ。

亦説明書きに曰く「ロイド・デヨーデは昨夜その土地政策の梗概を發表した。それによつて自由主義を蘇生させようと云ふのである。既に地主連に大受けと云ふ評判なので、無産農民は疑ひ深い目をして地主等の拍手を眺めてゐる。」

此のカリカチュアは抑も何を意味するのであらうか。

其れは此の土地案の内容に一步足を踏み入れて見なければ解らない。

ロイドの此の新提唱の大綱は、

(一)土地の國有を骨子とする。國有と云つても國有の爲めの國有ではなく、農村の革命的振興を目的としてゐる。農耕地の國有であつて、一般土地の國有ではない。

(二)國有に依つて間接に農業を國家が管理するけれども、直接農業の管理、農業國營を意味するのではない。

(三)再分配主義に依る農業地の回收。土地を一應國家に回收し、其れを更に純農民に交附するのである。

(四)従來の地主は一掃され、國家が是れに更るのである。



(五)従來の地主は土地を失ふけれども、其の利益まで剝奪されるのではない。永久に一定の地代を享けて特權を與へられるのである。

然らば、何故に漫畫家は此の提唱に對して地主が悦び、労働者が考へ込んでゐる様に描出したのであらう乎？

其れには理由がある。

イギリスの地主は、是れを他の産業、商業、工業に比較して見ると利潤の率の上から云つて頗る割が悪い。大きな資本を擁して居乍ら其の利廻りは甚だしく貧弱である。租税の負擔が重くして、經濟の理論に合致せぬ。此處に於てか小さな蟻が大きな食物に嚙り付いた形である。もて餘し氣味だ。處がロイド・デヨーヂの提案に據ると、此の五月蠅さから脱却し得ると同時に、土地から生れる利益の一部は永久に地主の懐中にころげ込んで來る結論になつて來る、地主に取つて必ずしも聲を大にして反對しなければならぬ處説ではない。むしろ歓迎す可き政策だ。カリカチュアーの中で地主が賛成し、拍手してゐるのは此の爲である。

漫畫家は何故、労働者が疑ひ深い目で見てゐる姿を書いたのであらう？

急新派から云はせると、ロイド・デヨーヂの新農地政策は地主を優待しすぎると云ふのである、

極端主義者は社會制度改造の面を被つて、體裁のいゝ地主救濟策を行ふものであると云ふのだ。土地は名目丈け國有になつても、利益を永久に地主に分配するに於ては、資本主義、地主制度が舊衣を脱して新衣を著たるに止まり、無産階級には何等の福祉も與へないと云ふのが彼等の論斷だ。

其處でカリカチューの中に、不満氣な労働者が描かれてゐるのである。

右の提唱を試むるに際し、其の理由としてロイド・デヨーヂは、

第一に失業問題を捉へてゐる。失業問題の解決は帝國全體の國の資産を開發するにある。經濟は單に經費を切詰るばかりで成功するものではない。最も價値ある經濟は、屢々國の本來の資産を最も有効に利用するにある。

第二の理由は土地産業を基礎とする經濟立國論である。別言すれば農業立國論である。工業、商業は行詰りの形であるから農業に復歸しなければならぬ。農業制度、土地制度が現在の儘であつては、如上の論を樹てゝも實行出來ぬ。其處で農村改造案が生れる。

第三の理由は現農業制度の根本變革である。現在の制度では利潤の多い、事業方面に資本を吸収され、農村は資本が缺乏する一方である。亦信用がないから投資せんとする者あるも實行



の段取にならない。

第四の理由は地主が殆んど農村に對する義務を放棄して一顧も與へない。彼等は義務を放棄して權利ばかり主張する。

此の新提案の是非、賛否は將來に遺されてゐる問題であつて、たゞちに判斷することは出来ぬ。私は此の新提案内容の外廓を紹介するに止めて置かう。

## 6、一九二九年の總選舉

一九二四年十月總選舉で、保守黨は一躍四百二名の議席を得て絶對多數を恢復し、労働黨は共產黨事件に禍されて百五十一名となり、自由黨は僅かに四十一名である。而して保守黨内閣が當然出現し、ポールドウインが内閣の首班に坐つた。

年を経ること滿四年、今年一九二九年は定期の總選舉である。今私が此の稿を草しつゝある時、内外の新聞は選舉戰の今やたけなはなることを報じてゐる。其の結果がどんな風な數を見せ、何黨が天下を握るかは全く判らない。従つて此處には各政黨が掲ぐる政策を略記して置くに止め

る。

英國の選舉戰に衆人の注目の的となるのは各政黨の政策の如何である。私的關係、利害關係、一から十まで黄白の力で動く日本の選舉から見れば實に天地雲泥の階梯がある。各政派の政策に依つて大衆は自己の是なりと信ずる方面に動いて行く。

英國のことであるから自黨の傳統的政策を粉飾して國民の人氣に投ぜんとしてゐるのは云ふまでもない。

従つて保守黨は祖先傳來の保護政策を現在の疲弊せる英國財界の更生策に如何にせば適應せしむ可きか、此の政策に腐心してゐる。

労働黨は社會主義を基調とする政治を以て、土地及び重要な産業の公營、若しくは國家管理を主張してゐる。

ロイド・デョーヂを獨裁官とする自由黨は傳來の自由貿易主義から保護關稅の廢止、其他一九二八年一月に自由黨の産業調査委員會報告書に於て發表したる諸政策を旗じるしとして選舉民に呼びかけてゐる。

私は此の調査委員會報告書(ブリテンズ、インダストリアル、フイユチュアー)を基にして此處



に自由黨の政策の大綱を略記する。

- (一) 政策の基調を個人主義と社會主義の中間に置くこと。  
産業が劃期的發展をとげてゐるにも拘らず、舊套を墨守してゐるから産業の恢復が圖られな  
いのである。生産組織に大變革を加へよ！ 勞資の軋轢が生産能率を阻害してゐるから、其  
の協調點を發見しなければならぬ。
- (二) 産業、及び産業政策の統制。
- 自由黨の産業政策の礎石とも云ふ可きものは(イ)經濟總本部の設立。(ロ)國民投資局の設置。
- (ハ)産業省設置等である。
- (三) 勞資協調と資本の公平なる分配。  
富者に對する累進的課税により勞働者の福祉増進施設の財源に充當し、此の方面より富の不  
公平な分配を阻むと共に、積極的に勞働者の貯蓄を奨勵し、株式の月賦販賣の如き方法を採  
用して勞働者を小株主若しくは資本家たらしむるの途を開く。
- (四) 失業救済策。  
年々五億磅に達する國民の新資本を國內資源の開発のために利用することに依り、勞働の需

要を大に喚起する。

- (五) 農業政策。  
借地法の改正、農業信用制度の整理、農産物販賣制度の改善等より進んでは大々的耕地擴張  
が行はれねばならぬ。
- (六) 炭坑政策。  
炭坑の合同經營を懲憚し、不經濟なる小坑を閉鎖することにより能率増進を期し、一方販賣  
方法を改善することにより經營を有利に轉回す。
- (七) 特惠關税には反對。
- (八) 通貨及び銀行制度の改善。  
英蘭銀行經營上、同行を大藏省と一層密接な關係に置くこと。
- (九) 産業と負擔輕減。  
租税負擔を輕減せしむるに就ては如何にして財政を緊縮せしむるかの方法に歸着する。之れ  
が爲めに軍事費の三分の一を削減すること。
- (十) 地方税制度の改正。



現在の地方歳出費の整理に依り、現在の地方費の三分の一を中央政府に移し、其の負擔を軽減せしむ。

何れにしても英國は依然として産業不振の係蹄の中に囚へられてゐるのであるから、三政黨各々其の政策を把持して其れが打開に努力してゐるのである。

かゝる政策を掲ぐるロイド・デョーデは今回の選挙に於て如何なる結果を把るであらうか？  
其れは將來の問題である。

## 第五章 人としてのロイド・デョーデ

### 1、容 姿

私は第一章から四章までの間に、ロイド・デョーデの「生ひ立ち」から初め、政治界に残した彼の足跡——政治的活動の初期から中期・歐洲大戦争勃發から平和會議完了まで・大戦亂終局以後——を眺めて來た。ロイド・デョーデの生涯を外から通觀したのである。彼の社會的生活、公的生活を見たのである。政治家としてのロイド・デョーデを前に置いて四方八方から研究し記述して來た。

其處で私は此の章——最後の章で——ロイド・デョーデを見る私の態度を變更し、内から、彼の私的生活を、彼の家庭生活を彼の趣味を究めることにした。人間を見る上に私的生活が公的生活の基礎を爲してゐるのは云ふ迄も無い。けれども私的生活ばかり見て社會生活を見ないのは、半面を觀察して他の半面を忘れたものであり、片手落ちである。亦其の逆に、社會生活ばかりを眺



めて私的生活を顧みなければ是れも亦完全な検討とは云へまい。第五章を「人としてのロイド・デ  
ヨーヂ」に捧げたのは此の意味からである。「人として」と私が謂つたのは、「私的生活の方面より  
見たる」と云ふ意味にとつて欲しい。

先づ私はロイド・デヨーヂの姿から眺めることにする。戀しき人を千里の外から眺めるのには、  
其の人の姿を宿した寫眞を手箱の底から取り出して、つくづく見詰るより仕方がない。ロイド・デ  
ヨーヂは男だ、しかも政治家だ。男性である私が白髪の老政治家の容貌なんか事新しく見る必要  
もなさうなものだ。けれども人は生きてゐる以上、魂は肉體に宿る。我々が興味を感じるのは  
ロイド・デヨーヂの魂であるけれども、魂は常に肉體を借りて表に發表される。古今を通じてなら  
びなき精神、貴重な思想も、舌の力をかり、手の先きから文章になつて流出しなければ是れを他  
人に傳へることは出来まい。

私がロイド・デヨーヂの容姿を茲に書き付けるのも此の理由に外ならぬ。

世間では一般に口をそろへて、ロイド・デヨーヂは小男だ、矮小だと云ふ、本當に彼は中脊以下  
である。五フイット、六インチ半しかない。けれども小男と云ふ感じはしない。彼を見ると第  
一に彼の頭部に、顔面に、胸部に眼が吸付けられる。而して目を下して胸から、腹部、腰、下へ

と移して行くと段々凡化して来る。「造化の神」はロイド・デヨーヂの腰から上を立派に造り上げ  
て、腰以下は粗略に、氣早に作り上げたに相違ない。胴衣の四つ目のボタン、恐らく五つ目のボ  
タン迄は神の意が完全に表現されてゐるが、其れ以下になると世間一般普通に見受ける型の泥人  
形だ。カリカチュアを描く畫家の眼に間違ひはない。彼等は素早く此處に目を付けて滑稽化す  
るのだ。ロイド・デヨーヂの精神も時に神に近いことがある、時に依ると平々凡々取るに足らぬこ  
とがある。是れは神が肉體を完成しなかつた様に其の精神も完成しなかつたのではあるまいか？  
近く眼を近付けてロイドの顔を見ると健康其の物である。緊張した皮膚、ガツチリした顔の構  
造、敏活な筋肉の動き。寫眞は、遠く離れて見るより相對して見た方が此の特質がよく享け取れ  
る。

首は擊劍使ひの様に据りがよく、何時も御小手と打ち込んで来る時の様に身構へてゐる。鋭い  
青い眼が、眼穴の奥から輝いてゐる。此の眼が魔物だ。或時はニコニコとして三才の兒童もなつ  
くかと思へば、或時は眼鏡の様に大きく見張られる、或時は怒氣を含んで相手をたじたたとさせ  
る、或時は感情を迸らせて敵手を感情の陥穽に引つ張り込む。



## 2、服装、趣味

ロイド・デューヂが市井にゐる時はなかなか瀟洒たる格構をしてゐる。クレマンソーの様に田舎爺くさい處はない。灰色のモーニングコートで身を包み、山高帽を戴いてゐる。冬になつて、寒風がロンドンの街々に吹きすさむ頃になると、アストラカーンの襟の付いた外套を着て自動車の中におさまり込んでゐる。服装を見ると如何にもブルジョアだ。けれども彼の精神は必ずしも此の服装とは一致してゐない。

彼の私的趣味は單純素朴である。卓を飾り、美酒を備へ、佳肴を調へて賓客を迎へると云ふ様なことは好まない。客を御馳走すると云つた處で、田舎の一寸した御馳走位が關の山だ。従つて彼は官邸で晚餐や午餐をやるのを好まず、むしろ朝食に人を招待する。デューヂは自ら禁酒家を標榜して人氣を博さうと云ふ様な偽善家ではないから——大戦中は能力増進、精神緊張の必要上可能的に禁酒令を施行したが——一杯や二杯の酒精分を嗜むことは敢て辭せない。けれども生來好酒家ではないのであるから、酒の必要に迫られることはない。だが煙草は大好物である、殊

に葉巻と來たら手を離さない。マルクスも大の葉巻好きだつた相で「資本論」の原稿料も凡て煙にして吹かして了つたと悲觀したと云ふ話だ。ロイド・デューヂもマルクスに劣らぬ煙草好きである。亦パイプに對してなかなかの愛着心を持つてゐる。

自動車。少しく活動する者にとつて今日自動車は必需品である。世の中の誰も彼もが自動車で馳せ廻つてゐるのであるから、政治家たるロイドがてくてく歩いてゐる譯にはゆくまい。けれどもロイド・デューヂの自動車趣味は必要を超越してゐる。奢侈物の部類に這入るのだ。官邸から議會へ、ゴルフ場へ、此の堂々たる自動車におさまつて走つて行く。彼の自動車の高價であり、立派なことは自動車界で有名な程だ。

ゴルフもなか／＼好きである。けれども彼はゴルフをゴルフ其の物として悦ぶのだらうか？ 其れは大に疑問だ。ゴルフに行けば實業界の巨頭にも會へる、政治界の頭目とも安心に話が出来、外國の使臣とも雑談が交へられる。従つて彼れにとつてゴルフは生活の必要の一場面であるのではないか？ ゴルフに行つて語るのは政治、少なくとも政治に關係したことである。ロイドに取つて政治を離れては人間もない、ゴルフもない、何んにもない。政治即人生である。書を讀むのは閑人の仕事か？ 耕退書に親しむのは昔のことだ。今の人間は繁忙なれば繁忙な



程、讀書の必要がある。死書は何んにもならぬが、読み手さえ生きてゐれば死書さえも生氣を吹き込まれる。ロイド・デヨーデの讀書は實に生活の爲の讀書だ。現在生きてゐる世界の政治家で、ロイド程萬卷の書を繙いた者は稀有であらう！ ナポレオンも大の讀書癖を持つてゐた相だ。ウオタルローの戦に不幸敗北した時、馬車に積んだ圖書館を英軍の掌中に委ねてしまつた。やはり古往今來、讀書に熱を持つ位でなければ、本當の政治は出来ぬ。日本でも伊藤博文は大の書物嗜きだつた相だ。トルストイの「復活」を最初に手にしたのは伊藤公だつたと云ふことだ。翻つて現代の待合式政治に没頭する政治家に讀書の趣味があるだらうか？ 乍残念、「否」と答へるより仕方がない。

彼は辯護士當時から多忙な男である。夫れが政治界に足を踏み入れ、益々多忙の度を増して來た。彼が歐洲大戦争當時、終始大臣の椅子に坐つてゐたのであるから、其の多忙であつたのは想像するに難くない。今總理大臣當時の多忙振りを参考に書き止めて見よう。

午前七時。朝の茶。電報、急用の處理。

八時。朝刊を読む。

九時十五分。朝食。大抵客と共にす。

十時。秘書、各大臣に面會。

十一時三十分。軍事會議。

午後一時四十五分。客と共に午餐。

三時乃至五時。

五時。軍事會議再會。

五時三十分乃至八時。急用の客に接す。

八時。夕食。夕刊を読み、讀書をなす。

十時。入床。

劇はロイド・デヨーデの好む處である。けれども劇を深く研究すると云ふのではなくして、政界の繁忙に疲れた時、其のくすぶつた頭を恢復させる程度のものである。劇に關する高等批判をロイド・デヨーデに求めるのは無理である。

活動寫眞にも往々にして姿を現す。チャールズ・チャップリンの喜劇のフィルムが好きだと云ふのは面白い。リンプウーのフィリップ、サンスウィス館にはよく出入する。ロンドンで國際的重要會議が開催されてゐた時、ブリアンとロイド・デヨーデが一晚、民衆の中から顔を出して、



フィルムの面を走る俳優の影を眺めてゐたと云ふ話がある。快活なデヨーヂにはチャップリンは好ましいものであらう。

### 3、ロイド・デヨーヂ夫人

ロイド・デヨーヂ夫人はどつちかと云へば所謂交際場裏で華やかに、始終笑の波にもまれ、饒舌を武器にして胡蝶の様に飛び廻ると云ふ女性ではない。むしろじみな種類に属する。

併し政治運動には全く無關心だと云ふのではない。ロイド・デヨーヂが總理をしてゐた時分のこと、夫人は官邸を出たつきり二日たつても、三日が過ぎても、四日が消えても歸つて来ない。五日目に歸つて来た。其の間夫人は氣樂な旅をしてゐたのだらうか？ ウェールスの補缺選挙に行つて、奔走してゐたのであつた。

一九二一年の春ウェールスに補缺選挙があつた時、夫人は若やかな女が舞踏會にでも行く様な氣持で行つた。何んしろ自由黨が分裂して、ロイド・デヨーヂの率ゆる一派と、アスキスの統帥する一派になつてゐたのであるから、競争は頗る猛烈であつた。

其處に飛び込んで行つたロイド・デヨーヂ夫人は到着の直ぐ翌日から東奔西走。夫人は横に太つた、どつしりした型の女性。自動車は村から村へと、息もつかずに馳せ廻る。地方代表者との會見、演説會にも臨む。が到る處夫人は歡聲に迎へられた。其の結果、夫人が應援した候補者は、見事三千五百票の差で競走者を打ち破つた。

一九二一年三月では他の地方でも補缺選挙があつた。此の時も夫人は態々ロンドンから出馬し、候補者と一緒に自動車を驅つて二十四箇村を馳せ廻つた。どの村でも小學校の生徒が大勢路ばたに出て熱心に歡迎した位であつたので、歸りには自動車の中は花束で埋められてゐた。

英國では元來有名な婦人が政戦に出陣するのは珍奇な現象ではない。けれども總理大臣の婦人が選挙の女神となつて自動車を走せたと云ふのは、ロイド・デヨーヂ婦人を以て嚆矢とする。

### 4、戦術家として

人間には誰にでも先見、豫想、想像の能力が自然に附與されてゐる。譬へば發明するにしても、かくすればかくなる可しと云ふ想像力が無ければ、一定の結果を發見することは不可能である。



此の能力が偉大に發達してゐる人が偉人であり、天才である。其の能力が一方面に丈け怖ろしく伸びてゐる人と、多方面に發展してゐる人物とがある。レオナルド・ダ・ビンチの如きは異常に此の能力があらゆる人間活動の分野に廣がり行き亘つてゐた。

我がロイド・デョーヂも亦多方面な人であるが戰術の方面にもいちじるしく此の能力の發達してゐるのは不思議と云はざるを得ない。彼は身を軍籍の中に置いて生育してゐたわけではないから、戰術・軍略を科學的に組織的に學んだことは唯の一度もない。彼が戰術家として一つの豫見の上に立つたのは、他の先見的意識からの類推であり、其の意識の集成綜合に外ならぬ。何れにしても結果から見て、立派な戰術家としての名を辱かしめない。

是れ正にロイド・デョーヂの天賦の特性である。

彼は戰爭が勃發するや、危険の大なるを感じ、英國陸軍省の活動の遅々たるに業を煮やした。而して手厳しい批評の矢を放つた。其の批評たるや徒らに人の非をあげつらふに非ずして、何處までも建設的であり、一つの策を獻じての批判である。

一九一五年一月、ロイドはキツチナー將軍に書を致して、「獨逸はセルビヤを粉碎してコンスタンチノーブルに道を得んとしつゝあるを警告し、バルカン半島を救ふは英國の責任なりと證言し

同盟軍がセルビヤを蹂躪せざる間にサロニカに軍隊を上陸せしめブルガリヤを攻略しなければならぬ」と云つた。是れより先き一九一四年十二月、佛國の一將軍もロイド・デョーヂと同じ意見に基き、「敵はバルカン半島に於て最も弱し。敵軍の最も薄弱な場所を攻撃せよ」と云つたが、ジョツフル將軍は是れに耳を傾けなかつた。

ロイド・デョーヂはサロニカ遠征の發議者、發頭人であつた。一九一五年一月、ロンドンに於ける聯合軍の假議會に之れを提出した。英國の内閣員中に之に組みするものがあつたけれども、佛蘭西の陸軍大臣は之れに對して冷淡であり、歸國しても政府に報じなかつた。彼は「ブリアン共他の佛蘭西内閣員に勸告して「サロニカに遠征軍を派遣せよ、西部戰場より四萬人を抜いて之れをバルカン半島に上陸せしむれば、ブルガリヤの勢力は碎かれ、ルーマニヤは聯合軍に投ず可し、別言すれば東方戰場に於て聯合軍は八十萬人の味方を得るであらう」と云ふ案であつた。

此の案は結局聯合軍の採用する處となつたが、若しそれ一九一五年の春に軍を進めてサロニカに上陸せしめたならば、セルビヤは救はれ、聯合軍はバルカンに於て大戦捷を得たであらう。

一九一六年九月四日、ブルガリヤがルーマニヤに對して宣戰した時、ロイド・デョーヂは陸軍大臣としてルーマニヤを救濟するの必要を説いた。ヒンデンブルグ將軍は西部戦線より重砲彈藥を



東部戦場に輸送し、必ずやルーマニヤを粉碎すると豫言したのであつたが、果して其れが實現されたのであつた。デヨーヂは獨逸軍がソナムより退却したのは、バルカン半島に軍隊を送らんとする作戦に外ならないと觀破した。

ロイド・デヨーヂは軍を統帥するの人ではないけれども、生れ乍らにして大將軍たるの素質を有してゐる。

## 5、外交家として

ロイド・デヨーヂはケルトの血を流してゐるので、人の氣持を吸引する力を持つてゐる。日常生活に於ても、愛相よく彼に迎へられた時には、胸の底までも打ち開け度い様な氣がする。少しもこだわりがない。晴夜、星屑きらめく天空を仰ぎ見る様でオがすがしくなる。而して或る程度まで開放的に誰にでも接し、自分の意見を述べる。けれども其の一面に、誰にも突入し得ない、潜行し得ない洞穴を心奥に持つてゐる。しかもかゝるほら穴がデヨーヂの心の底に隠されてゐることは訪客で氣の付くものがない。チャーチルは無二の親しみを持つて一度彼と手を握つたが、暫く

の間彼と袖を分たねばならぬはめになつた、其後舊來のよしみを持つてロイドの下に歸つて來た時、彼は手を差し伸べて是れを迎へた。チャーチルは舊來に變らぬ彼の態度を見て、釋然として解け、相提携したのであつたが、ロイド・デヨーヂは心奥の例の洞窟に時々潜入する、而して其處からチャーチルを凝視してゐるのであつた。しかもチャーチルは其んなことは夢にも知らなかつた。

英國の政治家にして、ロイド・デヨーヂのほら穴に一番接近したのは、ボナー・ローであつた。

ロイド・デヨーヂの對外交振りは一新機軸を出した、彼は外交文書に信賴せず、其の文書の背景にある人物を見た。外交を官僚的會議室で纏めずして、個人的に坐を交へて談笑の間に締結した。であるから大戦に際して各國の主腦部が相會した時でも、一見一國の閣僚の閣議の様な外觀を呈した。

私は前の項でロイド・デヨーヂは朝食に客を招き、訪問者に接すると云ふことを書いたが、此の來訪者の中には勿論外國の使臣、重要な用務を帯びて來た外國の使節も居るのである。之は嘗てグラドストンの試みた處である。而してロイド・デヨーヂの朝食は世界的意義を發揮した。豚の焼肉、半焼の玉子、マメレードなどを口に入れながら、外交官としての重大事件がスラスラと解決



して行つたのである。

外交は形式に非ずして其の衝に當る人物の如何にある。

## 6、雄辯家として

ロイド・ジョーヂの父は農家の生れであつたが、教育に身を投ずる位であつたから、勿論辯舌は爽はやかであつた。彼の育ての親であつた叔父は元來、喋るのが好きで、毎日曜教會に行つても説教壇に立つのを楽しみとし、死ぬまでも此の慣行を捨てなかつた。亦政治を談するのが嗜きで、靴屋の店は恰も田舎の議會場であるかの觀を呈したと云ふ位であるから、舌を活動させるのが好きであつたのは云ふ迄もない。

ロイド・ジョーヂの雄辯は、先天的には父の血から之を受け継ぎ、後天的には叔父に養成されたのである。

彼の雄辯は茲に私がぐくぐく云ふ迄も無い程、英國のみならず世界に喧傳されてゐる。

彼は堪念に演説の原稿を草すると云ふのではない。しかも一度大問題に逢着すると、大河が堤

を決して大平原に流れ出したかの様に、偉大なる精力を發揮して盡る處を知らない。彼が大藏大臣として有名な「人民豫算案」を議會に提出した時には、四時間半に亘つて彼獨特の辯舌を揮ひ、英國議會史に未曾有の一示例を残した。

歐洲大戦争勃發當時、即ち一九一四年九月十九日、ロンドンにはクインス、ホールに於て試みられたる演説の如き、論旨堂々、是れを語るに美辭麗句を以てし、なみ居る聽衆をして眞に蹶起せしめた。

一九一四年九月八日、全國都市團體の代表者を集め、戦時の大藏大臣として一場の訓示を爲した時の如き、如何に戦時財政確立の急務なるかを述べ、戦争は砲彈、兵士のみでは足りぬ、各自の懐中から放たる、銀（黄白の意）に依らねば最後の目的は達することは出来ぬと反復して述べた時も、彼は彼の有する天賦の雄辯性を極端にまで發揮せしめた。

彼の演説は一大文章を成してゐる。其の連記録を賣むと、内容と共に其の表現方法の如何にも妙境に入つてゐるのが觀取される。日本の各代の總理大臣の議會に於ける演説と比較して見るならば、如何にしてかくも徑庭があるかに嘆聲を洩さざるを得ない。演説は内容の如何にある、表現方法は敢て必要がないと日本の政治家諸君は云ふかも知れないが、其れは無能者の負惜みであ



る。文章に内容と技巧併立が必要である如く、演説にも論旨と發表方法の完全なる一致がなければならぬ。

彼が演説の或部分を讀むと莊嚴なる詩歌の情調を帯びたものさへある。

ロイド・デョーヂは又キビキビした、鋭い、一言双句を以て相手の肺腑を貫く様な警句の創造家である。かゝる警句を連發して如何なる階級、如何なる民衆にでもより理解出来る様に、頗る通俗に、或る論旨を浴せかけて行く。熱誠迸り、希望に輝き、理想を高く掲ぐる彼の辯舌を聞いては、如何に冷淡、無自覺、無關心な者でも、血を沸して立たざるを得なくなる。

眞に彼は舌の力を以て人を魅惑する魔人である。

私は彼の所謂雄辯を實證する爲めに、此の項にロイド・デョーヂの演説を多數引用するのが、讀者に忠實である譯だが豫定の紙數が盡きたので残念ながら譯出挿入しないことにした。只前章以來隨處に引用した彼の獅子吼の斷片に依つて、其の片鱗を想見して戴き度い。

昭和四年六月十五日印  
昭和四年六月二十日發行

ロイド・デョーヂ

定價金五拾錢

著者 岡田忠一

發行者 福岡益雄

印刷者 猪木卓二

印刷所 京華社印刷所



發行所

東京市神田區今川  
小路一丁目四番地

金

星

堂

電話九段二九六九番  
振替東京三三二八番



# 溫泉周遊

¥ 3.00  
送 10

田山花袋  
中澤弘光 共著

本書は單なる溫泉案内書ではない。紀行文に於いては絶対に他の追隨を許さざる田山花袋氏が、我が洋書壇の長老中澤弘光氏と共に北は北海道より南は九州の涯まで全國數百の溫泉を訪ね、文に繪に、その特長を活寫し讀者をして宛ら溫泉場に遊べる感あらしめる。故に溫泉周遊の眞の案内記たると共に、その地方地方の人情風俗等のよき研究資料たることも出来る。紀行文三百餘頁、挿繪百數十葉、寔に近來の快著である。

## 古莊國雄著

# 蔣介石

四六版假裝 定價五十錢  
百五十頁 送料六錢

支那は謎の國である。然し支那は我國の隣國にしてその一舉手一投足は常に我國に影響する。之を謎の國として放任することは出来ない。殊に近時支那革命以後は國交上看過すべからざる重大事となつた。故に我國民は國民外交の意氣を以て舉國一致之に當らなければならぬ。それには先づ第一に革命支那政府の本體を知らなければならぬ。之を知らんとせば先づその總帥たる蔣介石を知らなければならぬ。最近の彼の活躍は今や世界の視聽を一身に集めつゝある。一士官より身を起して青雲に乗ぜし一代の風雲兒が如何なる理想と實力を抱戴せるかは本書によつて初めて明がとなるであらう。將にこれ國民必讀の書。

### 學藝趣味

|                    |          |           |           |  |
|--------------------|----------|-----------|-----------|--|
| 羅バアトソ<br>麻生 義譯     | 獨逸文學史    | 一〇〇<br>六〇 | 上四六<br>製版 | ゲーテ、ハイネ等の大詩人を生んだドイツ文學の成長は是非知るべきである著者は劍橋大學の教授 |
| 山内封介               | ロシヤ文學史   | 一〇〇<br>六〇 | 同         | ロシヤ古代の口碑文學から最近の共產派文學に至る迄を思想の變遷に重點を於て論じた貴重な研究 |
| ラフカデオ・ヘルン<br>今東 光譯 | 文學入門     | 一五〇<br>六〇 | 同         | 小泉八雲氏が嘗て帝大學生の爲めに講じたもので文學の概念から小説作法の詳細に及ぶ必讀の書  |
| 白鳥省吾               | 詩の創作と鑑賞  | 一八〇<br>八〇 | 同         | 簡單な詩の作法書ではない。著者が今までに書いた詩論の集録であつて、詩人必讀の書たるもの。 |
| 百田宗治               | 詩の本      | 一八〇<br>八〇 | 同         | 詩の作法、詩人の傳記、世界詩壇の流派分類、日本詩人の分類批評、名詩評釋、雜誌の出版手續等 |
| 下田惟直               | 愛誦詩物語    | 一〇〇<br>六〇 | 上菊製<br>半  | 重に少女の爲に書かれた可憐な少女詩物語にして詩を作る人の心持や情景を手取るやうに描く。  |
| シヨルツエ<br>松原英次譯     | 俳優術      | 二〇〇<br>〇〇 | 上四六<br>製判 | 俳優としての心得、表現法、發聲法扮裝法等を多くの寫眞によつて懇切丁寧に説明した珍書である |
| 女子教育研究會            | 現代婦人作文   | 一五〇<br>八〇 | 同         | 婦人の作文は又特殊なる品格筆法を持つが本書は近代婦人の手に成る名文に依りてその作法を説く |
| 永結城<br>田喜林<br>健藏   | アマチュア寫眞術 | 品切        | 上菊製<br>半  | 題名の示すが如く本書は素人寫眞家の爲に特に懇切丁寧に寫眞術全般の解説をしたものである。  |

590  
67



|   |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 大妻コタガ                                       | 志賀哲藏   | 古莊國雄   | 同  | 同  | 同  | 同  | 小杉花影   | 小川貢  | 中山花袋   |
| お細工物新書                                      | ムトラ占ひと奇術                                     | 蔣介石  | 蠻人物語   | 世界見學   | 世界進化物語                                       | 大發明物語  | 船の知識   | 日光雜誌   | 溫泉週遊   |
| 二〇八〇  | 五六〇  | 五六〇  | 一七〇  | 一七〇  | 一七〇  | 一七〇  | 一七〇  | 一一〇  | 三〇二〇   |
| 上四六判  | 上菊製半   | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 同  | 上四六判   |
| 大妻技藝學校の校長たる著者が教育上多年の經驗を重ねた結果、懇切丁寧なこの書を著された。 | トラムプは家庭に最も廣く用ひられる娯樂機關だが本書はその獨り占ひや手品の種明しをしたもの | 支那の南方に起つて熱戰苦闘の結果遂に全支を支配するに至れる風雲兒の面目は本書に躍如たり。 | 世界各國の野蠻人の面白い風俗習慣を紹介し、多くの寫眞を入れ丁度蠻地にある心地あらしめる。 | 世界の文明は日進月歩して行く。本書は文物に生物に道徳に宗教に進化の跡を詳しく探れるもの。 | 世界には珍らしい生物や山や河や建物や人種や橋やがある本書を讀めば居ながらそれ等を見られる | 近代文明の發達は至て發明による。エヂソンを始め全ての發明者の苦心、動機等を簡結に紹介す。 | 日本は四圍皆海である。船の構造、造船順序、航海等國民として心得おくべき事を詳細に解ける書 | 日本は溫泉の國である。幾百あるか知れない。本書はその全部を紹介し百餘枚の繪を添へた美本。日光を見ずして結構といふな。本書を見ずして日光を語るな。本書は實に良き日光全山の案内書だ | 拳闘はジャズ、ダンス等と共に現代の流行だ。之を行ふ者觀る者も皆本書に就いて流行に後れざれ |

|  |  |  |   |  |  |  |   |   |   |
|--|--|--|---|--|--|--|---|---|---|
| 中村莊太郎  | 阿刀田令造  | 川島清  | 百瀬晋   | 片岡鐵兵   | 古莊國雄   | 成澤玲川   | 清澤列   | 同   | 太田三郎  |
| ロシヤ語講話                                       | 西洋史概説  | 拳闘   | 趣味コクテール                                     | モダンガールの研究                                    | 第一線に立女性                                      | 新聞戰線   | モダンガール                                      | 新日本畫の描方                                     | 武藏野の草と人                                     |
| 二〇八〇   | 品切   | 一八〇  | 二〇八〇  | 一三六〇   | 一五六〇   | 一三六〇   | 一三六〇  | 品切  | 品切  |
| 上四六判   | 同  | 同  | 同   | 同  | 同  | 同  | 同   | 同   | 上四六判  |
| ロシヤは文藝的にも思想的にも大いに研究すべき國だ。故に本書に就きて其國語を修められん事を | 著者は仙臺高等學校で歴史科の教鞭を執る人にして。多年の研究と實地とに基いて書かれた参考書 | 拳闘はジャズ、ダンス等と共に現代の流行だ。之を行ふ者觀る者も皆本書に就いて流行に後れざれ | コクテールは近時世界的流行を示してゐる。本書はその起源と親切な調合法とを紹介したもの。 | 文壇の新人の眼に寫つたモダンガールを初め、婦人の姿態美、戀愛、モダンボーイの研究まで及ぶ | 美人、文學、探險、運動、美術、政治、婦人運動等各方面の世界第一流の婦人を紹介論評せる書だ | 近代的産物たる新聞を作るまでには如何なる苦心を要するかの内幕を紹介した興味ある隨筆である | 世界各國のモダンガールの型を紹介すると共に彼女等の出現に經濟的價値を與へた新しき研究。 | 新しい日本畫！日本畫に洋畫の描法を加味して清新な畫法を親切に説く。參考寫眞數十葉あり。 | 減び行く武藏野の跡を追ふて、繪に文に、その名残りを止めたエッセの典型的なるもの集録だ。 |



辭

典

|         |          |        |           |           |   |
|---------|----------|--------|-----------|-----------|---|
| 前田 晁    | 類句<br>文範 | 書翰文辭典  | 二〇〇<br>八〇 | ポケット<br>型 | 千ページに近い書、類句數萬、文例、數千、如何なる場合の手紙をも、候文と口語の兩様で示す。  |
| 同 上     | 類句<br>文範 | 新作文辭典  | 二〇〇<br>八〇 | 同         | 諸大家の名文章、名句等を抜萃し文章の構成及び名文の評釋をなす。文化生活者必携の書である。  |
| 矢島 歡一   |          | 現代作歌辭典 | 一〇〇<br>八〇 | 同         | 名家の秀歌を附しながら短歌用語を網羅した。これを見れば何人にも直ちに歌がよめるであらう。  |
| 大橋 裸木   |          | 現代俳句辭典 | 一〇〇<br>八〇 | 同         | 俳句には俳句獨特の言葉がある。本書はそれ等を一々名家の例句を附して註釋した珍しい書である。 |
| 金星堂 編輯部 |          | 文藝新語辭典 | 一〇〇<br>六〇 | 同         | 文藝方面の術語のみならず文藝によく出るやうな言葉を初め常用される外國語をも全部網羅せり。  |
| 鈴木 善太郎  |          | 現代演劇辭典 | 一〇〇<br>六〇 | 同         | 重に日本でのみ使はれてゐる演藝方面獨特の言葉の辭典であつて、歌舞伎觀劇者必携の字引だ。   |
| 大町 桂月   |          | 模範女子作文 | 二〇〇<br>八〇 | 同         | 文豪大町桂月氏が遺されたもので、各名家の名文を初め女學生の名文をも参考に附してある。    |

主 幹  
名人 關根金次郎

# 將棋大衆講座會員募集

詳細は規則書にあり  
葉書にて申込まれよ

590

67



590  
67



590  
67



